

# Systemwalker Resource Coordinator



Q&A集

J2UL-1154-01

## はじめに

---

本書は、Systemwalker Resource Coordinator(以下、リソースコーディネータ)の仕様、設計に関する不明点がある場合や、構築、導入および運用時のトラブルの際に参照ください。

### ■ 本書の読者

本書は、リソースコーディネータを使用したシステムの設計、導入、運用および保守を行う運用管理者を対象にします。

本書は以下の製品バージョンを対象としています。

- Systemwalker Resource Coordinator V13.0.0
- Systemwalker Resource Coordinator V13.1.0
- Systemwalker Resource Coordinator V13.1.1
- Systemwalker Resource Coordinator V13.2.0

【注意】 本書は、Systemwalker Resource Coordinator 用のQ&A集です。

Systemwalker Resource Coordinator Virtual server Edition にはあてはまりませんのでご注意ください。

### ■ 本書の構成

本書は、第1章～第10章で構成されています。各章の内容は以下のとおりです。

| 章タイトル        | 内容  |
|--------------|---|
| 第1章 一般的な質問   | リソースコーディネータの仕様／動作に関する一般的な質問について説明しています。           |
| 第2章 設計に関する質問 | リソースコーディネータの設計に関する質問について説明しています。                  |
| 第3章 構築時エラー関連 | リソースコーディネータの構築中にエラーが発生した場合の対処方法について説明しています。       |
| 第4章 装置状態関連   | リソースコーディネータの運用中に装置状態が異常となった場合の対処方法について説明しています。    |
| 第5章 イメージ操作関連 | リソースコーディネータのイメージ操作に関する質問について説明しています。              |
| 第6章 自動リカバリ関連 | リソースコーディネータの自動リカバリに関する質問について説明しています。              |
| 第7章 運用時エラー   | リソースコーディネータの運用中にエラーが発生した場合の対処方法について説明しています。       |
| 第8章 変更／交換    | リソースコーディネータの構成定義などの変更方法に関する質問について説明しています。         |
| 第9章 詳細情報     | リソースコーディネータの常駐プロセスやログサイズなどの詳細情報に関する質問について説明しています。 |

| 章タイトル    | 内容                 |
|----------|--------------------|
| 第10章 その他 | その他の質問について説明しています。 |

## ■ マニュアル体系

リソースコーディネータのマニュアルには、以下のものがあります。必要に応じてマニュアルをお読みください。

- Systemwalker Resource Coordinator コンセプトガイド
- Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド
- Systemwalker Resource Coordinator コマンドリファレンス
- Systemwalker Resource Coordinator メッセージ集
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編
- Systemwalker Resource Coordinator メッセージ説明書 ストレージ管理編
- Systemwalker Resource Coordinator イベント説明書
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ボリューム管理編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド Web-Based Admin View編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ストレージ管理編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド リモートコンソールマネージャ編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 統合インストーラ編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド サーバ管理編

## ■ 関連ドキュメント

本書と合わせて以下のドキュメントを参照してください。

- Systemwalker Resource Coordinator トラブルシューティングガイド

最新版は以下のページよりダウンロードしてください。

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/man/resource/resource-coordinator/v13.2/trouble/document/trouble.pdf>

## ■ 略称

| 正式名称  | 略語                                     |
|---|--|
| Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition | Windows Server 2003 Enterprise Edition |
| Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition   | Windows Server 2003 Standard Edition   |
| Microsoft® Windows® 2000 Server operating system    | Windows 2000 Server                    |
| Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server            | Windows 2000 Advanced Server           |

|  |                  |
|--|------------------|
| operating system                                       |                  |
| Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system | Windows 2000 Pro |
| Microsoft® Windows® XP operating system                | Windows XP       |
| Solaris™ オペレーティングシステム                                  | Solaris OS       |
| Solaris™ 9 オペレーティングシステム                                | Solaris 9 OS     |
| Solaris™ 10 オペレーティングシステム                               | Solaris 10 OS    |

- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows」と表記します。

Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition  
 Microsoft® Windows® 2000 Server operating system  
 Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system  
 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system  
 Microsoft® Windows® XP Professional operating system  
 Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system

- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows 2003」と表記します。

Microsoft® Windows Server®2003, Standard Edition  
 Microsoft® Windows Server®2003, Enterprise Edition  
 Microsoft® Windows Server®2003 R2, Standard Edition  
 Microsoft® Windows Server®2003 R2, Enterprise Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition  
 Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition

- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows 2000」と表記します。

Microsoft® Windows® 2000 Server operating system  
 Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system  
 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system

- 次の製品すべてを指す場合は、「Linux」と表記します。

Red Hat(R) Enterprise Linux(R) AS (v.3 for x86)

Red Hat(R) Enterprise Linux(R) ES (v.3 for x86)

Red Hat(R) Enterprise Linux(R) AS (v.4 for x86)

Red Hat(R) Enterprise Linux(R) ES (v.4 for x86)

Red Hat(R) Enterprise Linux(R) AS (v.4 for EM64T)

Red Hat(R) Enterprise Linux(R) ES (v.4 for EM64T)

Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)

Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)

- 次の製品を「リソースコーディネータ」と表記します。

Systemwalker Resource Coordinator

- 次の製品を「PCL」と表記します。

PRIMECLUSTER

- 次の製品を「GLS」と表記します。

PRIMECLUSTER Global Link Services

## ■ 輸出管理規制表記

当社ドキュメントには、外国為替および外国貿易管理法に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

## ■ 商標について

- Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Solaris およびすべての Solaris に関連する商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。

- Netscape、Netscape Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation 社の商標です。

- Microsoft、Windows、Windows XP、Windows2000、Windows2003 および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

- Red Hat、RPM および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

- Systemwalker は、富士通株式会社の登録商標です。

- PRIMECLUSTER は、富士通株式会社の登録商標です。
- その他各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。

## ■ お願い

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

2008年12月 初版

All Rights Reserved, Copyright (C) 富士通株式会社 2008

## 質問事項一覧

---

### 1. 一般的な質問

- Q0101: パッチ適用方法について教えてください。
- Q0102: サーバグループに追加する管理対象サーバに特定の Logical Volumeを割り当てる方法を教えてください。
- Q0103: 1台のクライアントで、V12とV13の両方のマネージャを制御できますか？
- Q0104: リソースコーディネータのログから異常を検知したいのですが、どうすれば良いでしょうか。
- Q0105: イベント表示は複数発生した同系メッセージをまとめるような処理をしているのでしょうか。
- Q0106: 管理サーバ、管理対象サーバ、サーバプールグループに存在する管理対象サーバノード(サーバプール管理OS)に対してNTPによる時刻合わせを設定しても問題ないでしょうか
- Q0107: 自動リカバリが発生したことを、メール通報を行うための設定手順を教えてください。
- Q0108: リソースコーディネータが出力するcoreファイルのディレクトリを教えてください。
- Q0109: 管理対象サーバノードにREMCSをインストールする場合の留意事項はありますか。
- Q0110: Solaris版でもSAN ブート環境をサポートしているか教えてください。
- Q0111: V13.XからV13.1あるいはV13.2へのアップグレード手順を教えてください。
- Q0112: デュアルコアCPUのマシンを使用しても問題ありませんか。
- Q0113: Hyper-Threadingを有効にして問題ありませんか。
- Q0114: 管理対象サーバノードのバックアップ・リストアを使用する場合に、SystemcastWizard Professionalが必要でしょうか。
- Q0115: Solaris10のUNICODE(UTF8)にインストールすると動作に影響がありますでしょうか。
- Q0116: VMwareはサポートしていますか。
- Q0117: ドメイン管理サーバをSolaris、管理対象サーバノードをWindowsで構成することは可能ですか。
- Q0119: サーバ登録時にストレージプールグループに同容量のディスクが複数登録されている場合には、どの Logical Volume が使用されますか。
- Q0118: 複数の運用管理クライアントでログインし操作した場合、制御に排他がかかりますか。
- Q0120: リソースコーディネータとETERNUS SF Storage Cruiserで、同一ストレージ(ETERNUS)を管理する場合の注意事項を教えてください。
- Q0121: リソースコーディネータの使用する通信ポートについて教えてください。
- Q0122: FCスイッチを、手動でWWPNゾーニングし、リソースコーディネータでスイッチを認識させた場合、手動ゾーニングが問題となるか教えてください。
- Q0123: リソースコーディネータで時刻同期を行う処理はありますか。
- Q0124: リソースコーディネータが使用するIPCキーの範囲を教えてください。
- Q0125: マネージャとエージェントのバージョンが違う場合、動作させることができますか？
- Q0126: 「システムボリュームのスナップショット機能を使用したオンラインパッチ適用」にてパッチ適用可能な製品を教えてください。

- Q0128: リソースコーディネータのマスタイメージの配布は、SystemcastWizardのOSのネットワークインストール機能と同等の機能でしょうか。
- Q0129: 自動リカバリ処理の発生は、どのように判断しているのですか。
- Q0130: FCIPブレードはサポートしていますか。
- Q0131: バックアップイメージの世代の最大値はいくつですか。その値を超えた場合どうなりますか。
- Q0133: リソースコーディネータのプロビジョニングに対応している製品を教えてください。
- Q0134: サーバプール管理OSで起動されている予備サーバが故障した場合、障害の通知はどのように行われますか。
- Q0135: 管理対象サーバノードでETERNUS装置を使用しない場合、「ETERNUS マルチパスドライバ V2.0 for Windows」と「SNIA HBA API ライブラリ」は、必要でしょうか？
- Q0136: マネージャ(サイト管理サーバ、ドメイン管理サーバ)にREMCSをインストールする場合の留意事項を教えてください。
- Q0137: 管理対象サーバノード1台から複数のストレージ装置に対して、それぞれアクセスパスを設定することは可能でしょうか。
- Q0138: バックアップソフトウェアを利用して、リソースコーディネータの管理対象サーバノードをバックアップ/リストアする場合の注意事項を教えてください。
- Q0139: 運用管理サーバ間でマスタイメージを複写することができますか。
- Q0140: 監視専用で登録された管理対象サーバノードに対しても、リソースコーディネータでサーバとストレージ装置間のアクセスパスの管理を実施することは可能でしょうか。
- Q0141: プロビジョニング機能を利用する場合に、Windowsエージェント「基盤モジュールのインストール」のWindowsのプロダクトキーには何を入力すればいいですか。
- Q0142: リモートデスクトップを使用し、同時に複数のユーザでログインし、リソースコーディネータクライアント利用することは可能でしょうか。
- Q0143: リソースコーディネータのサイト・ドメイン管理サーバのバックアップを取る際に、リソースコーディネータのマネージャを停止してから行わなければなりませんか。
- Q0144: 予備サーバへの自動切替えのテストを行う方法を教えてください。
- Q0145: システムイベントログを確認したいのですが、すぐに上書きされてしまいます。イベント数を拡大する方法を教えてください。
- Q0146: サーバ追加や削除時に、ファイバチャネルスイッチに対してゾーニングが自動で設定される場合、リソースコーディネータで管理外のサーバのゾーニング設定が上書きされないでしょうか。
- Q0147: FCスイッチのファームアップを行う予定です。リソースコーディネータで対応可能でしょうか。
- Q0148: FCスイッチに手動でゾーニングを設定する必要がありますか？
- Q0149: unknown状態の管理対象サーバノードのバックアップ・リストアは可能でしょうか。
- Q0150: 自動リカバリ用の予備サーバを、普段検証用のサーバとして使用することは可能でしょうか。
- Q0151: ホストアフィニティの設定は、自動作成されますか。
- Q0152: ウイルス対策ソフトウェアを使用する際の注意事項はありますか。



- Q0153: 複数のサイト管理サーバから 1 台の同一ストレージ装置を管理することは可能でしょうか。
- Q0154: インストールガイド “4.3.2.5.2 HRM/server のインストール” に “SDB 連携を有効にしてください” の記載がありますが、SDB (SystemDefenderBox) を使用しない構成の場合でも、有効にする必要があるのでしょうか。
- Q0155: ユーザズガイド「4.3.1.1 スイッチングハブの設定」に、「スイッチングハブの設定項目のうち、“オートネゴシエーション” は、必ず、“自動設定” を指定してください。」とありますが、固定にしたときの影響を教えてください。
- Q0156: プールの管理対象サーバノードがシャットダウン後の再起動に失敗します。
- Q0157: HBAからストレージ装置までの経路が複数ある環境で、サーバグループにサーバを追加(attach)した場合、どのようにアクセスパスが設定されますか。
- Q0158: サーバグループ名とホスト名が同一のものを設定して問題ないでしょうか。
- Q0159: リソースコーディネータの管理サーバで、rcxmgrctl stop/rcxdmctl stopを実施しましたが、nwsnmp-trapd (SNMPtrap受信デーモン) が停止しません。

## 2. 設計に関する質問

- Q0201: Resource CoordinatorV13 とCentric Manager V13 の混在は可能でしょうか。
- Q0202: Resource CoordinatorV13 とCentric Manager V12 の連携は可能でしょうか。
- Q0203: 同一シャーシ内にSANブート環境と ローカルブート環境を混在することは問題ありませんか。
- Q0204: PRIMERGYでSANブート環境を構築する場合、サポートしているのはブレードサーバのみですか。
- Q0205: 自動リカバリで故障発生時に切り替えを行いたい場合、必要な予備ブレードの構成条件を教えてください。
- Q0206: OSイメージをバックアップした際のデータサイズは、対象ボリュームのサイズと同じ大きさになるのでしょうか。
- Q0207: 同一NICを業務LAN、および管理LANで共有し、冗長化することが可能か教えてください。
- Q0208: リソースコーディネータで管理しているサーバで、bondingによるLANの冗長化はできますか。
- Q0209: スイッチブレードのスロット 2 (NET2) を管理LANに使用することはできないのでしょうか。
- Q0210: 業務サーバ側のOS領域をETERNUSのADVANCED COPY機能にてバックアップしたいのですが、どうすればいいのでしょうか。
- Q0211: 非ブレード機のPRIMERGYを使い、外部から電源制御を行う予定が無い場合、BMC/iRMCの設定は必要でしょうか。
- Q0212: タグVLANを使用している環境で、同一筐体内にWindowsサーバとLinuxサーバを混在させる方法を教えてください。
- Q0213: 予備サーバへの切替え時にスイッチブレードのVLAN設定を引き継ぐことは可能でしょうか。
- Q0214: SNMPコミュニティ名は、どのように設計すればいいのでしょうか。
- Q0215: SANbootのWindowsサーバで、データボリュームも持つ場合、データボリュームにパーティションを作成する際に、プライマリパーティションで作成しても問題ないのでしょうか。
- Q0216: GLSによるLANの冗長化設定を行なう場合、通常の業務LANの通信時に使われるIPアドレスは仮想IPアドレスと物理IPアドレスのどちらになるのでしょうか。
- Q0217: ブレードサーバにLANカードを増設し、Intel製のNICとBroadcom製のNICをIntelPROSetで冗長化することができますか。
- Q0218: 各サーバブレードの通信相手を管理サーバに限定するような設定をした場合、動作上問題ありませんか。
- Q0219: 2台のドメイン管理サーバで1つのシャーシを管理することは可能でしょうか。
- Q0220: リソースコーディネータ(エージェント)のHOSTS参照は、正引きor逆引きどちらを使用していますか。
- Q0221: DHCPサービスを停止する方法を教えてください。
- Q0222: 管理対象サーバノードが VMware Infrastructure 3 の場合、VMware Infrastructure 3 の機能、VMware HA、VMotion、DRSなど全ての機能が利用可能でしょうか。
- Q0223: PRIMEQUESTとPRIMERGYの管理LANを同一セグメント上に存在させる必要がある場合、どのように設定すれば良いのか教えてください。

- Q0224: 内蔵ディスクブートの環境で、ハードウェア異常が発生した場合に予備ブレードと切替えることは可能でしょうか。
- Q0225: 同一セグメント内に運用管理サーバを複数台設置することに問題はありますか。
- Q0226: 「複数業務 LAN の冗長化と管理 LAN の冗長化」を実施後に、マスタイメージを作成することは可能でしょうか。また、保守モードから運用モードに変更した際に、業務LANは通信可能な状態でしょうか。
- Q0227: マニュアルでは、業務LAN+管理LANを冗長化していますが、業務LANのみの冗長化は可能ですか。
- Q0228: ユーザズガイド「付録 I 1.1 前提条件および注意事項」にGLSを使用する場合はNIC切り替え方式の論理IPアドレス引継ぎと記載がありますが、物理IPアドレス引継ぎは使用できませんか。
- Q0229: リソースコーディネータに、ルータを制御する機能はありますか。
- Q0230: リソースコーディネータのエージェントにServerView WebExtensionあるいはServerView S2 をインストールしても問題はありますか。
- Q0232: ファイバチャネルスイッチ、ストレージの性能管理機能で、権限(特権管理者、一般管理者)による使用できる機能の違いを教えてください。
- Q0233: サーバノードを別のサーバグループに移し、新たなボリュームを割り当てて起動し、その際移動前のボリュームに残っているOSはそのまま残しておきたいのですが、可能でしょうか。
- Q0234: 管理対象サーバノードの管理LANのIPアドレスは、DHCP設定したIPアドレスの範囲内である必要があるでしょうか。
- Q0235: 管理対象サーバノードがWindowsの場合、管理LANのネットワーク設定で“NetBIOS over TCP/IP”は必要でしょうか。
- Q0236: ストレージテンプレートを使用しないでSANブート環境を構築した場合、サーバプロビジョニングは使用できますか。
- Q0237: 管理対象サーバノードのOSが2種類あった場合、サーバプール管理OSをそれぞれ作成する必要がありますか。
- Q0238: リソースコーディネータで、マネージャ側のバックアップを採取する方法はありますか。

### 3. 構築時エラー関連

- Q0301: 新規ブレードサーバを追加登録しようとしたところ、処理が50%のところまで停止してしまいサーバノード登録(MACアドレス指定)がエラーになりました。対処方法を教えてください。
- Q0302: サーバを登録した際に、67231 エラーメッセージが出力され登録に失敗しました。
- Q0303: PRIMEQUESTのサーバ登録(IPアドレス指定)を実行したところ、67235 エラーメッセージが出力され、管理対象サーバノードを登録できません。
- Q0304: サーバ登録(IPアドレス指定)を実行したところ、67192 エラーメッセージが出力され、管理対象サーバノードを登録できません。
- Q0305: 登録したサーバノードのステータスが“unknown”のままです。
- Q0306: サーバノードの登録で、プール管理OSが起動せず、エラーとなります。
- Q0307: rcxhalansetコマンドでLANの二重化を行おうとした場合、64683 エラーメッセージが表示されます。
- Q0308: ブレードにWindowsを導入し、リソースコーディネータ エージェントをインストールしたのですが最後に実行するバッチ(sscsetmp.bat)が52001, 52002のエラーとなります。
- Q0309: SolarisのSANboot環境でリソースコーディネータ エージェントをインストールするとOSが起動しなくなりました。
- Q0310: 基本ドメインのサーバノードをサーバドメインへ移動したところ、67242 エラーメッセージが出力されます。
- Q0311: FC定義情報の作成で67185 エラーメッセージが表示され、失敗します。
- Q0312: サーバグループへのサーバ追加時に、67198/68083 あるいは68283のエラーメッセージを出力し、サーバ追加に失敗します。
- Q0313: ストレージ装置のストレージドメインへの移動で、62042のエラーが出力されます。
- Q0314: ETERNUS SP5000 をリソースコーディネータの監視対象として登録したい。
- Q0315: ETERNUS LT series テープライブラリをリソースコーディネータの監視対象として登録したい。
- Q0316: ブレードではないPRIMERGY (RX, TXシリーズ)の筐体登録でエラーが発生します。
- Q0317: インストールガイド「6.2.3.3 インストール手順」のイメージ操作モジュールが正しくダウンロードできません。
- Q0318: 管理対象サーバノードのコンソールにDHCPからの応答がないことを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。
- Q0319: 管理対象サーバノードのコンソールにTFTPのtimeoutを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。
- Q0320: 管理対象サーバノードのコンソールに“mount: RPC: Program not registered”というメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。
- Q0321: 管理対象サーバノードのコンソールに“mount: RPC: Timed out”というメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。
- Q0322: 管理対象サーバノードの登録時、「FJSVrcx:ERROR:swsag0018」メッセージが出力され、登録した

管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

- Q0323: サーバグループ間の接続方式でSLBを選択したところ、67248 エラーメッセージが出力されます。
- Q0324: サーバとストレージのアクセスパスがGUI上で黄色表示 (Warning) になっています。
- Q0325: ブレード機ではないPRIMERGYの管理対象サーバノードをサーバグループへ登録した際、プール管理OSで起動されてしまいました。
- Q0326: 管理対象サーバノードの登録時、67230 のエラーメッセージが出力されました。
- Q0327: 管理対象サーバノードの登録時、管理対象サーバノードのコンソール画面に“PXE-E51:No DHCP or proxy DHCP offers were received.” が出力され、ネットワークブートができません。
- Q0328: サーバ登録時、ドメイン管理サーバからIPアドレスが割り振られず、サーバプール管理OSが起動してきません。
- Q0329: “ETERNUS NR1000F”を手動操作で装置検出作業を行い、手動組込みウィンドウの“NR1000F”の装置にポートが表示されません。
- Q0330: サーバグループにプールからサーバを移動したところ、「FJSVrcx:ERROR:62066」が発生しました。
- Q0331: サーバプール管理OSの作成で、「4.3.2.8.4 ネットワークブートツールの起動」でNFS 情報の入力後、ネットワークブートツールがハングします。
- Q0332: ETERNUSの自動検出処理にて「swsag0018」のエラーが発生しました。
- Q0333: 基本ドメインに登録されている管理対象サーバノードをサーバドメインに移動する際に、67189 エラーメッセージが出力され移動に失敗します。
- Q0334: ETERNUSmgrでVolumeを作成し、管理対象ストレージノードをストレージドメインへに移動し、ストレージプールグループを確認してもFreeVolumeしか表示されず、LogicalVolume が見えませんが。
- Q0335: PRIMEQUESTのパーティションをIPアドレス指定でサーバ登録したところ、エラーメッセージ (ERROR:67235) が出力され、登録できません。
- Q0336: FCスイッチの登録を行ったところ「swsag0018」のエラーが表示され登録が行えません。
- Q0337: 筐体登録を実行したところ、67999 エラーが出力され、登録できません。
- Q0338: サーバ登録をしましたが、FCケーブルの物理線が片パスしか表示されません。
- Q0339: FCスイッチブレードの登録の際、“Unsupported Firmware Version”ワーニングメッセージが出力されます。
- Q0340: サーバプール管理OSを構築し、管理対象サーバノードをサーバプール管理OSで起動したところ、「Server View modules not loaded because of compile errors」が出力され起動に失敗します。
- Q0341: 物理画面リソース管理画面の管理対象サーバノードのアイコンにHBAが表示されない。
- Q0342: 基本ドメインからの管理対象サーバノードの移動で、67192 エラーメッセージが出力されます。

#### 4. 装置状態関連

- Q0401: ドメイン管理サーバ上にAlarmService (REMCS) をインストールしたところ、各ブレードサーバが unknown となりました。
- Q0402: テープ装置を通常に登録しましたが、物理画面に結線がはられていません。
- Q0403: 運用管理クライアントでサーバアイコンが黄色で表示されています。構成ツリーからはエラーは見当たりません。
- Q0404: ファイバチャネルカードが2つ搭載されていますが、1つしか使用していません。その場合、赤いエラー表示されるのですが、クリアする方法を教えてください。
- Q0405: 運用管理クライアントでサーバアイコンに「？」が付いたサーバがあります。
- Q0406: サーバノードのステータスが“unknown”のままです。
- Q0407: ファイバチャネルカードの交換後、物理画面でアクセスパスの結線が“黄色”の状態になっています。
- Q0408: 物理画面で、管理対象サーバノードとFCスイッチ間の物理結線が表示されていない状態です。
- Q0409: リソースコーディネータの管理画面上で、error状態をクリアする手順を教えてください。
- Q0410: リソースコーディネータ管理画面で、管理対象サーバノードの状態アイコンが“error”となっています。
- Q0411: 運用管理クライアントで、管理対象サーバノード(PRIMEQUEST)のステータスが復旧せずWarning状態です。
- Q0412: 物理リソース画面にアクセスパスが緑色である場合と青色である場合が存在します。
- Q0413: 運用管理クライアントの論理リソース管理画面は正常に表示されているが、物理リソース管理画面を確認すると、1つのサーバの物理結線が赤い表示になっています。
- Q0414: アクセスパスの設定を行ったところ、黄色(アクセスパス定義矛盾)になっています。
- Q0415: VMware Infrastructure環境にエージェントをインストールしたが状態がunknownになっています。
- Q0416: サーバの状態がWarningまたはErrorになっています。
- Q0417: 管理対象サーバノードの異常原因を復旧しましたが、ステータスがnormalに変更されません。
- Q0418: 運用管理クライアントのイベントログに41304のメッセージが出力されています。

## 5. イメージ操作関連

Q0501: イメージの採取・配信には、どのくらいの時間がかかりますか？

Q0502: リソースコーディネータのエージェントが含まれているマスタイメージを、他の管理対象サーバノードに配信して問題ないでしょうか。

Q0503: OSイメージのバックアップ機能がありますか。

Q0504: マスタイメージ名の変更方法を教えてください。

Q0505: マスタイメージは既に採取しています。ディスク交換する場合、そのマスタイメージを使用することは可能でしょうか。

Q0506: マスタイメージの作成/配布/複写を実行したところ、67198/68095 あるいは 68295 エラーメッセージが出力されました。

Q0507: マスタイメージを配信中に、67200, 67198/68082 あるいは 68282 エラーメッセージを出力し、マスタイメージの配信に失敗しました。

Q0508: マスタイメージを配信中に、68096 エラーメッセージを出力し、マスタイメージの配信に失敗しました。

Q0509: マスタイメージ作成後、アプリケーションの起動に失敗します。

Q0510: バックアップイメージ採取コマンドを実行したところ、進捗 5% あたりで止まってしまい、バックアップが開始されません。

Q0511: マスタイメージ名の変更を行うことによって、ミドルウェア連携に影響があるか教えてください。

Q0512: バックアップイメージのリストアの際、対象のサーバは停止している状態で問題ないでしょうか。

Q0513: バックアップイメージ作成時に、管理対象サーバノードは自動的に再起動されるのでしょうか。

Q0514: マスタイメージ更新時に、67245 エラーメッセージが出力され失敗しました。

Q0515: マスタイメージの更新中にディスク枯渇が発生しエラーとなりました。他の空いている領域を使用する方法を教えてください。

Q0516: Logical Volume Management (LVM) のファイルシステムのマスタイメージ・バックアップイメージの作成・配信を行うことができますか。

Q0517: リソースコーディネータでバックアップした2代前のマスタイメージを配布する方法を教えてください。

Q0518: 現在使用している管理対象サーバノードの再構築のため、マスタイメージを配布したいのですが、同世代の版数のイメージが適用されているため、マスタイメージ配信でエラーとなります。対処方法を教えてください。

Q0519: マスタイメージ作成で、68295 エラーメッセージが出力され、メッセージ集に従い対処しています。その中にある、業務IPアドレスの活性化は、管理対象サーバノードの全ての業務LANに対して行う必要があるのでしょうか。

Q0520: マスタイメージがどのディレクトリに作成されているのか教えてください。

Q0521: マスタイメージを配布した後、そのサーバノードのコンピュータ名、管理LANIPアドレスは、サーバノード登録時の「ノード名」「IPアドレス」の設定値に変更されているのでしょうか。

- Q0522: マスタイメージを配付する際、ディスクやパーティションを指定することは可能でしょうか。
- Q0523: マスタイメージの再配付を実行したところ、67216 エラーメッセージが出力され配付ができませんでした。
- Q0524: マスタイメージとバックアップイメージの配付は、複数同時に動作可能か教えてください。
- Q0525: マスタイメージの複写は、複数同時に動作可能でしょうか。
- Q0526: システムボリューム以外をマスターとしてバックアップする方法を教えてください。
- Q0527: 1つのLogicalVolumeに対し、Windowsで2つの論理ドライブ(Cドライブ、Dドライブ)を割り当てた場合、イメージ採取/配付・バックアップ/リストア等に問題がないか教えてください。
- Q0528: マスタイメージ、およびバックアップの世代数を変更する方法を教えてください。
- Q0529: イメージ採取では、使用していない領域のデータも採取されるのでしょうか。
- Q0530: 管理サーバに格納されているバックアップイメージはどのように削除すればいいのでしょうか。



## 6. 自動リカバリ関連

- Q0601: 自動リカバリの発生条件を教えてください。
- Q0602: PRIMERGYを使用している場合、故障が検出可能な管理対象サーバノードのハードウェアを教えてください。
- Q0603: 管理対象サーバノードのOSがハングアップ状態になった場合、自動リカバリが自動検知し、復旧可能か教えてください。
- Q0604: 自動切り替え操作を行なった際、切り替え先の予備機が異なる場合があります。切り替え先の予備機の選択の方式を教えてください。
- Q0605: 自動リカバリが発生し、切戻し操作を行おうとしましたが、GUI画面で切戻し項目が選択できない状態です。
- Q0606: 自動リカバリ実施後、サーバプールグループに移動したサーバの電源が入らず、電源断の状態となります。
- Q0607: 運用管理クライアントで、“操作”-“自動リカバリ操作”-“切り替え”を行った時の動作は、自動で実施される自動リカバリと同様の動作になりますか。
- Q0608: 自動リカバリ、あるいは、切り戻しで、6118のエラーメッセージが出力され失敗しました。
- Q0609: 予備ブレードのモデル名が運用ブレードと異なるため、自動リカバリが失敗します。
- Q0610: ハード故障が発生し、ずいぶん時間が経ってから、自動リカバリが発生しました。
- Q0611: 自動リカバリで切り替えが発生した場合の、障害が発生したサーバのハード障害時の確認方法について教えてください。
- Q0612: 自動リカバリで切り替えが発生している最中に、停止しているサーバの電源を入れたところ、自動リカバリ機能での切り替えに失敗しました。
- Q0613: 自動リカバリでブレードサーバの切り替えが完了後、管理対象サーバノード名などどのような情報が入れ替わるのでしょうか。
- Q0614: 複数の自動リカバリ連携スクリプトは同時に実行されるのでしょうか。
- Q0615: 自動リカバリ連携スクリプトのタイムアウト値はどこからどこまでの時間となりますか。
- Q0616: 自動リカバリの切り戻しで、「FJSVrcx:INFO:21116」エラーメッセージが出力され失敗しました。
- Q0617: 自動リカバリで、「FJSVrcx:ERROR: 61118 (code=Server boot failed)」あるいは「FJSVrcx:ERROR: 61125」エラーメッセージが出力され失敗しました。
- Q0618: 自動リカバリで、切り替えを指示するとステータスがWarningで終了します。また、切り戻しを指示してもWarningで終了します。
- Q0619: サーバグループ内の複数サーバが同時に故障した場合、自動リカバリの切替えが可能なのは最初の1台のみという仕様でしょうか。
- Q0620: 切戻し操作を行うと 67181 エラーが表示されて切り戻しが失敗します。
- Q0622: 自動リカバリの切替え時に、サーバプール管理OSの起動に失敗します。
- Q0623: 自動リカバリの切替え操作を実施したところ、ERROR:62043 を出力し切替えに失敗します。
- Q0624: サーバグループからディスク保持モードでサーバを削除して、ディスク保持した状態の代替

サーバを他のサーバグループと自動リカバリで切替えることは可能でしょうか。

Q0625: 自動リカバリの切替えを行ったところ、切り替え先サーバのLinuxOSの起動時にハードウェア自動認識(LANインタフェース)が走り、設定画面が出てきて手動操作介入が必要になりました。

## 7. 運用時エラー

- Q0701: 運用管理クライアントのイベントログに、“user authentication failer”というメッセージが表示されており、警告ランプが点灯しています。
- Q0702: 運用管理クライアントのイベントログに、“Boot retry counter zero”というメッセージが表示されています。
- Q0703: 運用管理クライアントのイベントログに、44501 メッセージが出力されました。
- Q0704: 運用管理クライアントのイベントログに、FJSVrcon:ERROR:0002 エラーメッセージが出力されました。
- Q0705: 運用管理クライアントのイベントログに、下記のエラーメッセージが出力されました。  
WARNING NAME:ZONE- /D WARNING PORTNO OUT OF COME ENTRIES IN MODEL.
- Q0706: 自動リカバリの切り替え処理中に、運用管理クライアントのイベントログに、  
「ZONE-<ID> WARINING - WWWN(WWWPN名) in HARD PORT zone <ゾーン名>」と出力されます。
- Q0707: 運用管理クライアントのイベントログに、二重通知されていると思われるメッセージが出力されています。
- Q0708: 運用管理クライアントで「ヘルプ」を押下しても、ヘルプ内容が出力されません。
- Q0709: サーバをグループへ追加後、一旦はマルチパスで動作しますが、ある時点から1つのパスが削除されてしまう現象が発生しました。
- Q0710: ログイン画面で『ユーザ』『パスワード』を入力したところ、『認証チェック中』と表示されたまま、30分以上経ってもログインされません。
- Q0711: 運用管理クライアントの論理タブから、[サイト]-[管理]-[(サイト管理サーバ名)]を選択して、右クリックでプロパティを表示させると、「管理LAN(IPアドレス)」の値が、業務LANのIPアドレスになっています。
- Q0712: 停電発生後、サーバの電源を入れて起動させたところ、管理対象サーバノードで 業務OSが起動せず、サーバプール管理OSで起動します。
- Q0713: 41110 ウォーニングメッセージが出力されていました。起動ディスクとマスタイメージの何を比較するのですか。
- Q0714: swsag4209 あるいはswsag4821 のメッセージが出力されました。原因と対処方法について教えてください。
- Q0716: Authentication Failureというエラーメッセージが出力されています。
- Q0717: 運用管理クライアントのイベントログに“61121”のエラーメッセージが出力されています。
- Q0718: 「ファイバチャネルポートの状態が不明になりました。」というメッセージがリソースコーディネータ管理画面に出力されていました。
- Q0719: 保守モードの解除ができません。
- Q0720: サイトマネージャ起動後にクライアントから接続を実行したところ、ログインにかなりの時間がかかります。
- Q0721: 21105 情報メッセージや“Connection Timeout”などのイベントが記録されています。

Q0722: “rcxinfo -type server -sync”コマンドを実行すると、管理対象サーバでWindowsの イベント ログに、Symfowareのエラーメッセージが出力されます。

## 8. 変更/交換

- Q0801: OSやハードのアカウント/パスワードを変更した場合、リソースコーディネータで対処が必要か教えてください。
- Q0802: OSやハードのIPアドレスを変更した場合、リソースコーディネータで対処が必要か教えてください。
- Q0803: 管理対象サーバノードの管理LANのIPアドレスを変更したところ、リソースコーディネータの管理画面から何も見えなくなっていました。設定変更方法を教えてください。
- Q0804: /etc/sysctl.confの設定(net.ipv4.ip\_local\_port\_range)を、1024~65000から変更したいのですが、影響があるか教えてください。
- Q0805: 管理対象サーバノードのホスト名の変更方法を教えてください。
- Q0806: サイト管理サーバやドメイン管理サーバのホスト名を変更する場合、リソースコーディネータで必要な作業を教えてください。
- Q0807: FCスイッチを交換する場合のリソースコーディネータの手順を教えてください。
- Q0808: 故障したサーバブレード/サーバのマザーボードを交換したところ、リソースコーディネータからの操作が出来なくなりました。
- Q0809: AffinityGroup名を変更した場合、リソースコーディネータで必要な作業はありますか。
- Q0810: FCカードの交換作業後のリソースコーディネータのアクセスパスの継承を実施した場合に、瞬断等が発生するか教えてください。
- Q0811: アクセスパスの再定義方法を教えてください。
- Q0812: サーバのFCカードを交換した後、再度元のFCカードに戻しても使用可能でしょうか。
- Q0813: Management Blade のハード交換を実施します。リソースコーディネータで考慮する点があれば、教えてください。
- Q0814: 管理対象サーバノードのサーバノード名の変更(rcxagtctl modify)を実行しました。実行後のhostsファイルで、コマンド実行で追加されたコメント行と、旧サーバノード名を削除して問題ないですか。
- Q0815: Windows2003 ServerにSP2を適用してもリソースコーディネータに影響はないでしょうか。
- Q0816: テープライブラリ装置でファイバチャネルカードを交換した場合、リソースコーディネータとして必要な作業はありますか。
- Q0817: SANブート環境の管理対象サーバノードの内蔵ハードディスクを交換した場合、リソースコーディネータとして必要な作業はありますか。
- Q0818: ETERNUSのCMを交換した場合、リソースコーディネータとして設定変更などの作業が必要ですか。
- Q0819: 故障したハードの交換を行い、resethardstat コマンドにてエラーフラグを消した際に“FJsvmadm::The status of the unit recovered (trap code=34)”というメッセージが出力されました。
- Q0820: 管理対象サーバノードのLinuxのシステムボリュームのパーティションサイズを変更します。リソースコーディネータに影響ありますか。

- Q0821: 運用管理サーバノードでServerView S2 やServerView Linux Agentを再インストールする場合、リソースコーディネータに影響ありますか。
- Q0822: 管理対象サーバノードのファイバチャネルカード(HBA)を交換する際の手順を教えてください。
- Q0823: リソースコーディネータで設定されたアクセスパスを、その後手動にて変更することは可能ですか。
- Q0824: 性能監視設定を行った後、新規に作成したRAIDの情報やAffinity Groupの情報を性能監視ウィンドウに反映する手順について教えてください。
- Q0825: 管理対象サーバノードで、LANドライバのUpdate作業を行うのですが、注意点等ありましたら教えてください。
- Q0826: ETERNUSおよびFCスイッチに対し、ファームのアップグレードを予定しています。適用して問題はありますか。
- Q0827: DHCPのIP アドレス範囲の変更方法を教えてください。
- Q0828: DHCPのIPアドレス範囲の拡張を行うために「rcxdmconf modify」コマンドを実行したのですが、ERROR:67225 が出力され拡張できません。原因を教えてください。
- Q0829: サーバプール管理OSに追加でソフトウェアをインストールする方法を教えてください。
- Q0830: ストレージテンプレートの縮小方法を教えてください。
- Q0831: リソースコーディネータで自動作成したアクセスパスの設定は変更できますか。
- Q0832: 運用管理サーバ(サイト管理サーバ、ドメイン管理サーバ)のマザーボード交換に伴い、リソースコーディネータで必要な作業があるか教えてください。

## 9. 詳細情報

- Q0902: リソースコーディネータで必要としているOSの常駐プロセス(Windowsではサービス)を教えてください。
- Q0903: リソースコーディネータで起動されるOSの常駐プロセス(Windowsではサービス)を教えてください。
- Q0904: 適用されているパッチの確認方法を教えてください。
- Q0905: リソースコーディネータが記録するログのディレクトリ, 名前, 最大サイズを教えてください。
- Q0906: 自動リカバリの切替え, 切戻し, 継続時に出力されるメッセージを教えてください。
- Q0907: サイト管理サーバのsyslogに出力されるメッセージについて, 教えてください。
- Q0908: rcxlogin -save ユーザ名のコマンドを実行した後に, 設定内容を解除する方法を教えてください。
- Q0911: 各サーバの起動/停止スクリプトを教えてください。
- Q0912: 既に構築済みのプール管理OSのSNMPコミュニティ名の参照方法と変更方法を教えてください。
- Q0913: サーバプール管理OSで, システムクロックにUTCを使用する設定に変更する方法を教えてください。
- Q0914: バックアップイメージをテープに待避する運用はできますか。
- Q0915: リソースコーディネータでSAN boot構成のサーバ環境を作成した際, ストレージ機器にどのような設定が自動で行われるのか教えてください。

## 10. その他

- Q1001: サーバノードの削除を実施した際、エラーが発生します。
- Q1002: ネットワーク監視の設定方法について教えてください。
- Q1003: 管理対象サーバノードのOS起動時に管理LANと業務LANが活性化される優先順位を変更した場合、リソースコーディネータの動作に影響があるか教えてください。
- Q1004: リソースコーディネータがインストールされているサーバで syslogd -rを使用しログ設定サーバとした場合、影響があるか教えてください
- Q1005: OS起動時にリソースコーディネータのデーモンが起動したことを/var/log/messagesから確認することは可能でしょうか。
- Q1006: リソースコーディネータのデーモンの停止方法を教えてください。
- Q1007: Solaris版のリソースコーディネータで、クラスタシステムのクラスタサービスとしてIpaddressリソースを定義できますが、GIsリソースを定義することはサポートされているのか教えてください。
- Q1008: リソースコーディネータで使用している 162 番ポートを他のSystemwalker製品と混在させて利用する事は可能でしょうか。
- Q1009: サイト管理サーバ、あるいはドメイン管理サーバにおいて、バックアップ時と現状のサーバ/SANの構成が異なる場合、リストアすることは可能でしょうか。
- Q1010: リソースコーディネータはDNS、hostsを参照し通信を行いますか。
- Q1011: 「ユーザズガイド」の「付録E ポート一覧」を参照したところ、サイト管理サーバ向けの通信、運用管理クライアント向けの通信が出来ないように思えるのだが、理由を教えてください。
- Q1012: 運用管理クライアントが、直接ドメイン管理サーバやエージェントと通信することがありますか。
- Q1013: ストレージボリューム割当て後のサーバで、割当て済みのボリュームサイズを事後拡張したい場合、どうすれば良いですか。
- Q1014: ストレージボリューム割当て後のサーバで、新規ボリュームを事後追加したい場合、どうすれば良いですか。
- Q1015: クライアントPCで管理クライアントを起動する際に、ログオン画面でIPアドレスを指定したところ、全ての作業において非常に時間がかかる現象が発生しました。
- Q1016: ブレードサーバ(Linux)に対し、自動切換え操作を行なったところ、予備機にパスが切り替わり、LinuxOSの起動時にKudzuが起動されました。
- Q1017: マスタイメージ、およびバックアップイメージを配付したときの使用するボリューム(LUN\_V)に対して、どのような操作の場合フォーマットされるのか教えてください。
- Q1018: ETERNUSのポートのうち、いくつかのポートを将来用として残すため、リソースコーディネータで使用するポートを特定する方法を教えてください。
- Q1019: 複数環境混在でブレードの管理を実施するため、1つのマネージメントブレードが、複数のマネージャからの制御を受け付けることができますか。
- Q1020: リソースコーディネータのCentric Manager連携の対象となるメッセージについて教えてください



い。

- Q1021: イベント通報機能のトラップ通報設定にて、通報先とコミュニティ名を設定しテスト通報を行ったところ、一秒おきにテストのログが記録され、停止しませんでした。
- Q1022: 制限事項であるUSBの外部記憶装置を接続した場合の影響を教えてください。
- Q1023: 保守モードを解除した際に、67248 エラーメッセージが出力されます。
- Q1024: 管理対象サーバノードをサーバグループから削除する際にかかる時間を教えてください。
- Q1025: 切戻し操作は管理サーバ不在でも可能なのでしょうか。
- Q1026: RAIDGroupビジー率は、どのように算出しているのですか。
- Q1027: GLSのマニュアルで、“HWADDR=<MACアドレス>”の行が必須のように見えます。RCを使用する場合にも必要でしょうか。
- Q1028: イメージ配布先でkudzuサービスが動作するのですが、どうしてでしょうか。
- Q1029: FSUNodパッケージはどのような場合に使用されますか。
- Q1030: SymfoWAREのDBを使用していますか。
- Q1031: ストレージの性能を監視する方法を教えてください。
- Q1032: 管理対象サーバノードの削除時、67230 エラーメッセージが出力されました。
- Q1033: サイトマネージャが起動しません。原因と対処方法を教えてください。
- Q1034: リソースコーディネータのエージェントを導入したLinuxサーバで、イメージ操作モジュールのサービスが停止しています。原因と対処方法を教えてください。
- Q1035: ETERNUS SF AdvancedCopy Manager を使用する場合に、リソースコーディネータでの注意事項を教えてください。
- Q1036: リソースコーディネータの性能管理機能の閾値監視の設定を教えてください。
- Q1037: バッチなどを使用してバックアップの自動化を考えています。GUIから実行した際に、どのようなコマンドが実行されるのか教えてください。
- Q1038: エージェントがPCLの保守モードの状態で、41304 のWARNINGメッセージが出力されます。
- Q1039: 運用クライアントからログインしようとしませんが、「認証処理中です」と出力されたままログインできません。対応方法を教えてください。
- Q1040: 閾値監視の「RAIDGroup負荷異常」の監視対象は、どのディスクになりますか。
- Q1041: 性能管理ウィンドウを起動すると“swsag0654”のメッセージが出力されます。また、ストレージ装置の性能情報を確認すると“swsag0609”のメッセージが出力され性能情報が出力されません。
- Q1042: ドメイン管理サーバに/diskless/backup, /diskless/scwbackuというようなディレクトリが作成されます。用途と削除して問題無いのか教えてください。
- Q1043: Active Directory (AD) 環境のサーバノードは、サーバプロビジョニングに対応していますか。
- Q1044: 管理対象サーバノードのhostsファイルに リソースコーディネータが登録した記述があります。内容を変更したいのですが、動作上問題ないでしょうか。
- Q1045: エージェントインストール時に設定した内容を確認する方法を教えてください。
- Q1046: 運用管理画面にて、41105 のメッセージが不定期に出力されます。

- Q1047: rcxserverコマンドの“-volume”オプションを使ってボリュームを指定する場合、記述する順序に留意する必要がありますか。
- Q1048: ブレードサーバが片パスでしか参照することができません。原因と対処方法を教えてください。
- Q1049: SNIA HBA API ライブラリの入手方法を教えてください。
- Q1050: VMware Infrastructure 3 環境に必要なRHEL ESV3U6 に対応したSNIA HBA API ライブラリ (BX620S4 用)の入手方法を教えてください。
- Q1051: マスタイメージの配付により構築したLinuxサーバで、ETERNUSマルチパスドライバのコマンド「`liompadm info`」を実行すると不要な情報が表示されますが、「`mpdconfig -d`」コマンドで不要な情報を消しても問題ないか教えてください。
- Q1052: 「アクセスパスの継承」後、ストレージ装置に旧FCカードの WWN設定が削除されずに残っています。
- Q1053: rcxhardlogコマンドを実行すると、“FJSVrcx:ERROR:67154:command:obj:not found”というメッセージが出力されます。
- Q1054: ユーザーズガイド ストレージ管理編の“7.2.2 性能管理指示” 性能監視設定画面の入力項目（最小LUN\_V、最大LUN\_V）に設定する値について教えてください。
- Q1055: CentricMGRにaplSANMgrのメッセージが出力されています。メッセージ自体はINFOレベルであるが、SNMPトラップで通知時にはERRORレベルで通知されています。正しいエラーレベルで通知される方法を教えてください。
- Q1056: 閾値監視を行っている環境で、下記の警告メッセージが出力されました。  
[reportID=三桁の数字 / Logical olume Response time abnormal]  
メッセージの意味と出力理由を教えてください。
- Q1057: SN200 をファームアップし、緊急修正T000296LP-04 を適用してクライアントの画面を起動したところ、アクセスパスが異常になりました。原因を教えてください。



## 1. 一般的な質問

---

Q0101: パッチ適用方法について教えてください。

A0101: V13.0 以降 (PRIMEPOWER 版のみ V13.2 以降) は、UpdateSite 対応になっています。  
UpdateAdvisor (ミドルウェア) を使って適用ください。

Q0102: サーバグループに追加する管理対象サーバに特定の LogicalVolume を割り当てる方法を教えてください。

A0102: 特定の LogicalVolume を割り当てる際は、rcxserver コマンドの attach オプションを使用します。詳細はコマンドリファレンス「5.2 rcxserver」を参照してください。

Q0103: 1 台のクライアントで、V12 と V13 の両方のマネージャを制御できますか？

A0103: 制御できません。  
クライアントとマネージャは、同じバージョン/レベルの物を使用してください。

Q0104: リソースコーディネータのログから異常を検知したいのですが、どうすれば良いでしょうか。

A0104: ログファイルを検知の対象としないでください。  
シェル連携を使ってリソースコーディネータのメッセージを独自のファイルへ出力し、そのファイルを検知する方法を、お勧めします。

Q0105: シェル連携を使ってリソースコーディネータのメッセージを独自のログファイルへ出力しています。リソースコーディネータのイベント表示と独自ログの双方に出力されているメッセージで出力される個数が異なるものが見受けられます。イベント表示では 1 メッセージのみの出力であるのに対し、シェル連携へは複数個メッセージが出力されています。イベント表示は複数発生した同系メッセージを 1 メッセージとしてまとめるような処理をしているのでしょうか。

A0105: 下記条件でイベントが連続発生する場合、イベントログは最初の 1 メッセージだけが出力され、以降のメッセージは出力が抑止されます。

- 1) イベント発生時刻が同一時刻 (秒単位) 、かつ、
- 2) イベント発生ノードが同一 、かつ、
- 3) イベントメッセージが同一のとき

Q0106: 管理サーバ、管理対象サーバ、サーバプールグループに存在する管理対象サーバノード (サーバプール管理 OS) に対して NTP による時刻合わせを設定しても問題ないでしょうか

A0106: 問題ありません。ただし、時刻の後戻りは好ましくないため、Slew モード (ゆっくりとした時間合わせ) の使用を推奨します。

Q0107: 自動リカバリが発生したことを、メールで通報したいです。メール通報を行うための設定手順を教えてください。

A0107: 自動リカバリの開始と終了のメッセージは、サイト管理サーバのシステムログおよび、GUI のイベントログに出力されます。syslog に出力されるメッセージを別の監視ツールで監視し、監視ツールの機能でメール通報するサイトマネージャに出力されるメッセージを監視してください。

・自動リカバリの開始メッセージ

```
FJSVrcx: INFO:21106:original_server:starting automatic server recovery to spare_server  
original_server: 交換される管理対象サーバノードの名前  
spare_server: 代替サーバの名前
```

Q0108: リソースコーディネータが出力する core ファイルのディレクトリを教えてください。  
また、出力先を変更して問題ないか、教えてください。

A0108: core ファイルの出力先は、下記の通りです。出力先を変更しても問題ありません。

マネージャ: / あるいは /var/opt/FJSVssmgr/current/

エージェント: / あるいは /var/opt/FJSVssagt/current/

Q0109: エージェント(管理対象サーバノード)に REMCS をインストールする場合の留意事項はありますか。

A0109: 運用サーバと予備サーバを同一のシャーシにする場合は、留意事項はありません。

運用サーバと予備サーバを別のシャーシにする場合は、自動リカバリ後 REMCS 通報が行われると正しい情報が通報出来ませんので、故障装置交換後直ちに切り戻しをしてください。

Q0110: Solaris 版でも SAN ブート環境をサポートしているか教えてください。

A0110: Solaris 版でも SAN ブート環境をサポートしていますが、サポートしている機能が異なります。詳細については、ユーザズガイドの「第 2 章 機能概要」にリソースコーディネータが提供する機能が記載されていますので参照ください。

Q0111: V13.X から V13.1 あるいは V13.2 へのアップグレード手順を教えてください。

A0111: バックアップ・リストアツールを使用した手順になります。

ツールの入手方法とアップグレード手順を、サポートまで問い合わせください。

Q0112: デュアルコア CPU のマシンを使用しても問題ありませんか。

A0112: 問題ありません。

Q0113: Hyper-Threading を有効にして問題ありませんか。

A0113: Hyper-Threading を有効にして問題ありません。

また、Hyper-Threading が出荷時 enable のサーバで disable に設定した場合、RHEL のブート CD

による OS 起動や、プール管理 OS 起動時に kernel panic になることがあります。その場合は、Hyper-Threading を有効にしてください。

Q0114: リソースコーディネータで管理対象サーバノードのバックアップ・リストアによる保守を使用する場合には、SystemcastWizard Professional が必要でしょうか。

A0114: バックアップ・リストアによる保守を使用する場合も、SystemcastWizard Professional は必要ありません、リソースコーディネータのみで可能です。

Q0115: Solaris10 の UNICODE (UTF8) ヘルソースコーディネータをインストールすると動作に影響がありますか？

A0115: Solaris で UTF8 の環境にインストールした場合でも、製品としての動作に影響や制約などはありません。

Q0116: VMware はサポートしていますか。

A0116: V13.1 より、VMware Infrastructure 3 をサポートしています。

Q0117: ドメイン管理サーバを Solaris、管理対象サーバノードを Windows で構成することは可能ですか。

A0117: ドメイン管理サーバが Solaris の場合、管理対象サーバノードは Solaris のみサポートします。管理対象サーバノードが Windows の場合は、ドメイン管理サーバは Linux か Windows 版を使用してください。

Q0118: 複数の運用管理クライアントでログインし操作した場合、制御に排他がかかりますか。

A0118: 排他制御は内部的に行っています。同じ処理を同時に操作することは出来ません。操作する機能によって、下記のいずれかになります。

- ・ 並列に動作する。
- ・ 先方の処理完了を待ち合わせて、後発の処理が実施される。
- ・ 後から操作した方がエラーになる

Q0119: サーバ登録時にストレージプールグループに同容量のディスクが複数登録されている場合には、どの LogicalVolume が使用されますか。

A0119: LogicalVolume は番号の小さいものから優先して自動選択されます。詳細はユーザーズガイド「5.2.15.1 管理対象サーバノードの追加 (マスタイメージがない場合)」を参照してください。

Q0120: リソースコーディネータと ETERNUS SF Storage Cruiser で、同一ストレージ (ETERNUS) を管理する場合の注意事項を教えてください。

A0120: 1 台のストレージ装置をリソースコーディネータと ETERNUS SF Storage Cruiser のどちらからも

管理する場合は、設定操作は同時に行わないでください。

Q0121: サイトマネージャ、ドメインマネージャ、管理クライアントのリソースコーディネータの使用する通信ポートについて教えてください。

A0121: ユーザーズガイド「付録 E ポート一覧」を参照ください。

Q0122: FC スイッチを、手動で WWPN ゾーニングし、リソースコーディネータでスイッチを認識させた場合、手動ゾーニングが問題となるか教えてください。

A0122: リソースコーディネータでは、ゾーン名として“SNM\_BCSI”を使用します。したがって、WWPN ゾーニングを設定する上で、ゾーン名は“SNM\_BCSI”以外を使用してください。

また、下記のように必ず 1 対 1 (WWPN が 2 つ) のゾーンにしてください。

```
zoneCreate "SNM_1111", "WWPN1; WWPN2"
```

下記のように 3 つ以上指定してはいけません。

```
zoneCreate "SNM_1111", "WWPN1; WWPN2; WWPN3"
```

その他に制限、留意点はありません。

Q0123: リソースコーディネータで時刻同期を行う処理はありますか。

A0123: リソースコーディネータでは時刻同期を行う処理は行われておりません。

Q0124: リソースコーディネータが使用する IPC キーの範囲 (共有メモリ/セマフォ/メッセージキュー) を教えてください。

A0124: リソースコーディネータでは、OS が提供する System V IPC 資源 (メッセージキュー、セマフォ、共有メモリ) を使用していません。

Q0125: マネージャとエージェントのバージョンが違う場合、動作させることができますか？

A0125: サイト管理マネージャとドメイン管理マネージャのバージョン/レベルは同じである必要があります。

マネージャとエージェントのバージョン/レベルの関係も、原則同じである必要があります。サポートが必要な組み合わせがありましたら、サポートまで連絡ください。

Q0126: 「システムボリュームのスナップショット機能を使用したオンラインパッチ適用」にてパッチ適用可能な製品を教えてください。

A0126: 「システムボリュームのスナップショット機能を使用したオンラインパッチ適用」にてパッチ適用可能な製品は、適用するパッチが patchadd コマンドの -R オプションに対応していることが前提条件となります。-R 対応されているかどうかは、パッチの README を参照ください。

Q0128: リソースコーディネータのマスタイメージの配布は、SystemcastWizard の OS のネットワークインストール機能と同等の機能でしょうか。

A0128: 同等の機能になります。

Q0129: 自動リカバリ処理の発生は、どのように判断しているのですか。

A0129: 機器が故障した場合、SNMP Trap が送信されます。リソースコーディネータの管理サーバは、その SNMP Trap を受け取った後 ServerView と管理装置(マネージメントブレードあるいはRSB)から装置状態を採取し、その両者の装置状態をリソースコーディネータのステータスに変換しています。そのステータスが“fatal”か“error”で、かつ、OS が動作していないと判断した場合に自動リカバリが動作します。

Q0130: ETERNUS SN200 ファイバチャネルスイッチ モデル 540 FCR・FCIP ブレードはサポートしていますか。

A0130: V13.1.1 まではサポートしておりません。V13.2 でサポートしております。

Q0131: バックアップイメージの世代の最大値はいくつですか。その値を超えた場合どうなりますか。

A0131: バックアップイメージ世代の最大値は 2,147,483,647 です。最大値に達した場合の動作は、仕様として定義しておりません。たとえば毎日 1,000 回のイメージ生成を行ってもオーバーフローするのは 5,879 年後となります。

Q0133: リソースコーディネータのプロビジョニングに対応している製品を教えてください。

A0133: Systemwalker 技術情報ページ(URL は下記)にある、「MW 製品のプロビジョニング手順」内のプロビジョニング連携製品一覧を参照してください。

・ V13.1.0 Linux/Windows 版

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/man/resource/resource-coordinator/v13.1/list.html>

・ V13.1.1 Windows 版

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/man/resource/resource-coordinator/v13.1.1/list.html>

Q0134: サーバプール管理 OS で起動されている予備サーバが故障した場合、障害の通知はどのように行われますか。

A0134: 業務を構成しているサーバと同じく、SNMPTrap によって障害通知されます。

Q0135: 管理対象サーバノードで ETERNUS 装置を使用しない場合、「ETERNUS マルチパスドライバ V2.0 for Windows」と「SNIA HBA API ライブラリ」は、必要でしょうか？

A0135: 必要ありません。



Q0136: マネージャ(サイト管理サーバ, ドメイン管理サーバ)にREMCSをインストールする場合の留意事項を教えてください。

A0136: ServerView トラップ転送プログラム(trpsrvd)をインストール・設定してください。  
詳細は、インストールガイド「4.1.2 注意事項」を参照してください。

Q0137: 管理対象サーバノード1台から複数のストレージ装置に対して、それぞれアクセスパスを設定することは可能でしょうか。

A0137: 管理対象サーバノード1台から複数のストレージ装置に対して、それぞれアクセスパスを設定することは可能です。  
手順は、“ユーザズガイド ストレージ管理編”の“6.3.3.2 実設定”を確認してください。

Q0138: バックアップソフトウェアを利用して、リソースコーディネータの管理対象サーバノードをバックアップ/リストアする場合の注意事項を教えてください。

A0138: リソースコーディネータとして、バックアップを行った同一の環境にリストアが行われる場合、特に注意事項はありません。

Q0139: 運用管理サーバ間でマスタイメージを複製することができますか。

A0139: 運用管理サーバ間でマスタイメージを複製する機能がリソースコーディネータにないため、運用管理サーバ間でのマスタイメージの複製はできません。

Q0140: 監視専用で登録された管理対象サーバノードに対しても、リソースコーディネータでサーバとストレージ装置間のアクセスパスの管理を実施することは可能でしょうか。

A0140: 監視専用で登録された管理対象サーバノードに対しても、アクセスパスの管理を実施することが可能です。

Q0141: プロビジョニング機能を利用する場合に、Windows エージェント「基盤モジュールのインストール」のWindows のプロダクトキーには何を入力すればいいですか。

A0141: Windows のプロダクトキーには、ボリュームライセンスのプロダクトキーを入力してください。

Q0142: リソースコーディネータクライアントをインストールした端末に、リモートデスクトップを使用し、同時に複数のユーザでログインし、リソースコーディネータクライアント利用することは可能でしょうか。

A0142: リソースコーディネータクライアント端末に、複数のユーザでログインし、リソースコーディネータクライアントを同時に利用することは出来ません。

Q0143: リソースコーディネータのサイト・ドメイン管理サーバのバックアップを取る際に、リソース

コーディネータのマネージャを停止してから行わなければなりませんか。

A0143: リソースコーディネータのマネージャがデータをファイルに書き込んでいる途中かも知れないため、リソースコーディネータのマネージャを停止してからバックアップを実施してください。また、ファイルシステム全体をバックアップする場合は、ファイルシステムの保護の観点から、当該ファイルシステムを umount 後、バックアップを採取したほうが良いと考えます。

Q0144: 予備サーバへの自動切替えのテストを行う方法を教えてください。

A0144: 残念ながら、PRIMERGY に擬似故障を発生させる機能はありません。

ただし、作動後の動作は、手動による自動リカバリの切替えとまったく同じですので、手動による自動リカバリのテストを実施することで、自動リカバリの動作確認を代替できると考えます。

Q0145: システムイベントログを確認したいのですが、すぐに上書きされてしまいます。イベント数を拡大する方法を教えてください。

A0145: イベント取得数は、デフォルト 100 行ですが 1000 行まで変更することができます。ユーザーズガイド ストレージ管理編「3. SES\_FILE\_MAX\_SIZE」を参照してください。

Q0146: サーバ追加や削除時に、ファイバチャネルスイッチに対してゾーニングが自動で設定される場合、リソースコーディネータで管理外のサーバのゾーニング設定が上書きされないでしょうか。

A0146: 管理外のサーバに対するゾーニング設定を変更することはありません。

Q0147: FC スwitchのファームアップを行う予定です。リソースコーディネータで対応可能でしょうか。

A0147: サポートしているファーム版数か確認してください。サポートしている版数は、リソースコーディネータのハンドブック「4. 管理可能なファイバチャネルスイッチ」のファームウェア版数を確認してください。

Q0148: FC スwitchに手動でゾーニングを設定する必要がありますか？

A0148: ユーザーズガイドの「5.2.9.2 ストレージ装置の登録」に記載されているとおり、“以降のアクセスパス設定時に WWPN\_Zoning の設定を実施(推奨)”を選択することにより、アクセスパス設定時に自動設定します。

Q0149: unknown 状態の管理対象サーバノードのバックアップ・リストアは可能でしょうか。

A0149: バックアップは管理対象サーバノードの状態が、正常(normal)あるいは警告(warning)の場合にだけ行うことができます。unknown状態になっている原因を、[Q0406](#)を参照して取り除いてから実施してください。

Q0150: 自動リカバリ用の予備サーバを、普段検証用のサーバとして使用することは可能でしょうか。

A0150: 自動リカバリ用の予備サーバは、プール管理 OS という特別な OS をネットワーク経由し動作しており、リソースコーディネータで監視しております。したがって、通常の使用はできません。

Q0151: ホストアフィニティの設定は、自動作成されますか。

A0151: アクセスパスの設定機能でホストアフィニティ定義を自動設定いたします。

Q0152: ウイルス対策ソフトウェアを使用する際の注意事項はありますか。

A0152: 下記のディレクトリをチェックから外してください。

- ・Linux マネージャ版

- /var/opt/FJSVscw-deploysv/tmp

- /tmp

- ・Windows マネージャ版

- <インストールディレクトリ>\Systemwalker Resource Coordinator\DeploymentServer

Q0153: 複数のサイト管理サーバから 1 台の同ストレージ装置を管理することは可能でしょうか。

A0153: 可能です。注意事項がありますので、ユーザーズガイドの「1.3 運用形態」内の【注意】記載を確認してください。

Q0154: インストールガイド「4.3.2.5.2 HRM/server のインストール」に“SDB 連携を有効にしてください”という記載がありますが、SDB(SystemDefenderBox)を使用しない構成の場合でも、有効にする必要があるのでしょうか。

A0154: 稼働管理ツール(SDB: SystemDefenderBox)を使用しないのであれば、SDB 連携を有効にしなくても問題ありません。

Q0155: ユーザーズガイド「4.3.1.1 スイッチングハブの設定」に、「スイッチングハブの設定項目のうち、“オートネゴシエーション”は、必ず、“自動設定”を指定してください。」とありますが、固定にしたときの影響を教えてください。

A0155: トラブルを未然に防ぐために、マニュアルで“自動設定”を指定するように記載しています。ネットワーク管理が正しく行われており、正しく通信できるように設計されているのであれば、固定でも問題ありません。トラブル防止のため、自動設定を推奨しています。

Q0156: プールの管理対象サーバノードがシャットダウン後の再起動に失敗します。原因と対処方法を教えてください。

A0156: 他の DHCP サーバが同一セグメント内で起動されていた場合は正常に動作しません。同一セグメント内で起動されている DHCP サーバが無いか確認してください。

Q0157: HBA からストレージ装置までの経路が複数ある環境で、サーバグループにサーバを追加 (attach) した場合、どのようにアクセスパスが設定されますか。

A0157: HBA からストレージ装置までの経路が複数ある場合は、リソースコーディネータにて任意に経路を設定します。

Q0158: サーバグループ名とホスト名が同一のものを設定して問題ないでしょうか。

A0158: サーバグループ名とホスト名を同一の名前に設定して問題ありません。

Q0159: リソースコーディネータの管理サーバで、`rcxmgrctl stop/rcxdmctl stop` を実施しましたが、`nwsnmp-trapd` (SNMPtrap 受信デーモン) が停止しません。原因を教えてください。

A0159: Centric Manager と共存している場合、`nwsnmp-trapd` は Centric Manager が起動/停止させます。したがって、リソースコーディネータのコマンドで停止させることはできません。

## 2. 設計に関する質問

---

Q0201: Systemwalker Resource CoordinatorV13 と Systemwalker Centric Manager V13 の混在は可能でしょうか。

A0201: 混在可能です。

Q0202: Systemwalker Resource CoordinatorV13 と Systemwalker Centric Manager V12 の連携は可能でしょうか。

A0202: 連携可能です。

Q0203: 同一シャーシ内に SAN ブート環境と ローカルブート環境を混在することは問題ありませんか。

A0203: V13.0 より、同一シャーシ内での SAN ブート環境とローカルブート環境の混在をサポートしています。

Q0204: PRIMERGY で SAN ブート環境を構築する場合、サポートしているのはブレードサーバのみですか。

A0204: ブレードサーバのみサポートしています。

Q0205: 自動リカバリで故障発生時に切り替えを行う運用を行いたい場合、必要な予備ブレードの構成条件を教えてください。

A0205: 同じモデル(BX620 S2 など)であることが条件です。CPU クロックやメモリ量には条件は無く、業務サーバと予備サーバで異なっても問題ありません。ただし、拡張カードは同一の箇所と同じものが挿入されている必要があり、内蔵ディスクは業務サーバと予備サーバで同じ個数、同じサイズを搭載する必要があります。

Q0206: OS イメージをバックアップした際のデータサイズは、対象ボリュームのサイズと同じ大きさになるのでしょうか。

A0206: 対象ボリューム内の使用しているデータを圧縮してイメージにしていますので、対象ボリュームのサイズとも、使用しているデータのサイズとも異なります。インストールガイド「4.2.1.2.6 動的ディスク容量」に詳細な記載があります。

Q0207: 同一 NIC を業務 LAN、および管理 LAN で共有し、冗長化することが可能か教えてください。

A0207: 可能です。

Q0208: リソースコーディネータで管理しているサーバで、bonding による LAN の冗長化はできますか。

A0208: 業務 LAN に関しては、リソースコーディネータで制御されないことが使用上の条件となります。例えば、自動リカバリが発生してもスイッチブレードの VLAN 変更は実行されません。その他に

は特に条件はありません。

管理 LAN に関しては、以下の条件などがありますので bonding を推奨しておらず、冗長化には GLS を推奨しています。bonding を使用したい場合は、サポートまで連絡ください。

- ・イメージ操作を行う場合には、あらかじめ手動で設定を解除し、操作完了後、再定義する必要があります。
- ・イメージ操作は、プライマリ側の LAN でのみ可能です。
- ・管理対象サーバノード側で LAN 切り替え発生後は、サーバ監視のみ使用可能です。サーバプロビジョニングやイメージ操作、自動リカバリの動作は保証されません。

Q0209: 「3.3.2 管理 LAN の設計」に下記の注意事項がありますが、スイッチブレードのスロット 2 (NET2) を管理 LAN に使用することはできないのでしょうか。

“管理対象サーバノードに PRIMERGY ブレードサーバを使用する場合で、かつ、管理 LAN を冗長化しない場合は、管理 LAN はスイッチブレードのスロット 1 (NET1) に接続してください。”

A0209: 管理 LAN をスイッチブレードのスロット 2 (NET2) に接続した場合は、下記の問題があるため、管理 LAN はスイッチブレードのスロット 1 (NET1) に接続することを推奨しています。

1) サーバ管理装置指定でのサーバ登録は、使用できません。

サーバ管理装置指定では、スイッチブレード 1 の MAC アドレスを使用してサーバの登録を行っていますので、サーバ登録が完了しません。スイッチブレード 2 の MAC アドレスを指定して、一台ずつ、サーバの登録を行ってください。

2) イメージ(マスタイメージおよびバックアップイメージ)の配付の性能が低下します。

(1MByte/分程度に低下します)

イメージ(マスタイメージおよびバックアップイメージ)の作成・更新時の性能は低下しません。

Q0210: 業務サーバ側の OS 領域を ETERNUS の ADVANCED COPY 機能にてバックアップしたいのですが、どうすればいいのでしょうか。

A0210: V13.1 よりサポートしております。ユーザーズガイド「付録 M ストレージ装置の高速バックアップ機能との連携」を参照してください。

Q0211: 非ブレードの PRIMERGY を使い、外部から電源制御を行う予定が無い場合、BMC/iRMC の設定は必要でしょうか。また、これは BMC/iRMC 専用の LAN とする必要があるのでしょうか。

A0211: サーバプロビジョニングを利用しないサーバノードでサーバ登録し、リソースコーディネータを利用したバックアップ・リストア機能と電源制御操作を行わない場合は、BMC/iRMC の設定は不要です。設定する場合は、結線は管理 LAN と共用 (LAN ポート 1) あるいは BMC/iRMC 専用 (PRIMERGY の機種によって異なる) となり、BMC/iRMC 専用の IP アドレスは別途必要となります。

Q0212: タグ VLAN を使用している環境で、同一筐体内に Windows サーバと Linux サーバを混在させる方

法を教えてください。

A0212: Windows と Linux でサーバドメインを分ける方法と、Windows と Linux を同一サーバドメイン上に構築する方法があります。

- ・ Windows と Linux でサーバドメインを分ける。

サーバドメインが分かれるため、自動リカバリ時の予備サーバの共用ができず、Windows 用と Linux 用の予備ブレードを準備する必要があります。

- ・ Windows と Linux を同一サーバドメイン上に構築する。

Windows 用のサーバグループと Linux 用のサーバグループを作成し、ブレードサーバを、それぞれのサーバグループに追加します。この場合、予備機は共有できますが、Linux の場合にのみ利用できる「マスタイメージ採取/配付時のネットワークの自動設定」の機能が利用できなくなり、採取/配付の前後に、手作業でネットワークの設定変更が必要となります。

Q0213: 予備サーバへの切替え時にスイッチブレードの VLAN 設定を引き継ぐことは可能でしょうか。

A0213: リソースコーディネータでは LAN スイッチブレードの VLAN 設定は管理していないため、切替え時に引き継ぎません。事前に予備サーバに対して業務サーバと同じ VLAN 設定を行っておくか、切替り後、切替り先で同じ設定を行ってください。

Q0214: SNMP コミュニティ名は、どのように設計すればいいのでしょうか。

A0214: リソースコーディネータとしては、1つの統一した SNMP コミュニティ名を決めて、運用していただくこととなります。リソースコーディネータで運用に使用する SNMP コミュニティの条件は下記の通りです。

- 1) 管理対象サーバノードとサーバ管理装置(マネジメントブレードなど)の SNMP コミュニティ名が同一、かつ、
- 2) 管理対象サーバノードには Read(参照権)を設定、かつ、
- 3) サーバ管理装置には Read(参照権)と Write(更新権)の両方を設定する。

参考: 2)の管理対象サーバノードの Read(参照権)の設定は各サーバの snmpd.conf で行います。

3)のサーバ管理装置の Read/Write(参照更新権)の設定は各装置に対して行います。(各装置の取扱説明書をご参照ください)

例) マネージメントブレードであれば、Web UI または CLI で設定します。

Q0215: SANboot の Windows サーバで、データボリュームも持つ場合、データボリュームにパーティションを作成する際に、プライマリパーティションで作成しても問題ないでしょうか。

A0215: データボリュームにパーティションを作成する際、プライマリパーティションで作成して問題ありません。

Q0216: 管理対象サーバノードに対し、GLS による LAN の冗長化設定を行なう場合、仮想 IP アドレス

(virtualIF IP)と物理 IP アドレス (physicalIF IP)の2つの IP アドレスを設定しますが、通常の業務 LAN の通信時に使われる IP アドレスはどちらの IP アドレスになるのでしょうか。

A0216: 管理対象サーバノード側からの業務 LAN の通信に関しては、OS は ethX に設定している物理 IP アドレス (physicalIF IP)を送信元 IP アドレスとしてパケットを送信します。他のサーバからは、ethX、ethX:Y それぞれに設定している2つの IP アドレスが両方見え、どちらに対しても通信が可能です。つまり、どちらの IP アドレスも業務としては使用可能ですが、リソースコーディネータとしては仮想 IP アドレス (virtualIF IP)を使用することを推奨しています。

Q0217: ブレードサーバに LAN カードを増設し、Intel 製の NIC と Broadcom 製の NIC を IntelPROSet で冗長化することができますか。

A0217: Intel 製の NIC と Broadcom 製の NIC を IntelPROSet で冗長化する構成は、リソースコーディネータとしてはサポートしていません。

Q0218: 各サーバブレードの通信相手を管理サーバに限定するような設定をした場合、リソースコーディネータの動作上問題ありませんか。また、クライアント PC からリソースコーディネータの GUI 画面より、ServerView を呼び出した場合も影響はありませんか。

A0218: リソースコーディネータの管理 LAN において、管理対象サーバノードはドメイン管理サーバとだけ通信を行いますので、問題ありません。また、リソースコーディネータの GUI から ServerView を起動する場合も、ドメイン管理サーバを中継して管理対象サーバノードの画面を表示していますので、影響はありません。

Q0219: 複数台のドメイン管理サーバで1つのシャーシを管理することは可能でしょうか。管理 LAN を別セグメントとし、管理対象サーバノードを同一シャーシ内で分割して使用します。

A0219: サーバ管理装置 (MB) が片方のサブネットにのみ属する状態になるため、複数のドメイン管理サーバで同一シャーシを管理できません。管理する装置の管理 LAN は同一のサブネットに属する必要があります。

Q0220: リソースコーディネータ (エージェント) の HOSTS 参照は、正引き or 逆引きどちらを使用していますか。正引きの場合、リソースコーディネータの HOSTS 設定より後ろの行に重複ノード名 (IP が異なる) を追記しても問題無く動作しますか。

A0220: V13 のリソースコーディネータのエージェントでは、hosts の定義は使用していません。V13 以前バージョン (V12) の互換性を維持するために設定しているものです。また、V13 のリソースコーディネータでは hosts 定義を意識していないので、追記しても動作的に問題ありません。

Q0221: ドメイン管理サーバ配下のサーバが全てサーバプロビジョニングを利用しないため、DHCP サービスを停止する方法を教えてください。



A0221: DHCP を動作させない方法はありません。DHCP の範囲の IP アドレスには、使用しない IP を使用してください。どうしても使用しない IP アドレスが確保できない場合は、ドメイン管理サーバの IP アドレスを DHCP 範囲(上限と下限)としてください。

Q0222: 管理対象サーバノードが VMware Infrastructure 3 の場合、VMware Infrastructure 3 の機能、VMware HA、VMotion、DRS など全ての機能が利用可能でしょうか。

A0222: インストールガイドの「3.2 リソースコーディネータの注意事項」に記載があるとおり、VMware 環境をリソースコーディネータで運用する場合は、VMotion や VMware HA は使用できません。

Q0223: 管理対象サーバノードに PRIMEQUEST と PRIMERGY が存在します。PRIMEQUEST と PRIMERGY の管理 LAN のセグメントを分けた方が良いのは理解していますが、機器構成の都合で同一セグメント上に存在させる必要があります。どのように設定すれば良いのか教えてください。(リソースコーディネータ内の SystemcastWizard と PRIMEQUEST 用の SystemcastWizardLite の DHCP サーバが競合すると思っています。)

A0223: リソースコーディネータ内の SystemcastWizard と PRIMEQUEST 用の SystemcastWizardLite の DHCP サーバの両方を「ノンアグレッシブモード」とすることで、DHCP サーバの競合を回避することが可能です。SystemcastWizardLite の設定方法は、当該マニュアルを参照ください。リソースコーディネータ内の SystemcastWizard はデフォルトが「ノンアグレッシブモード」ですので、変更不要です。

Q0224: 内蔵ディスクブートの環境で、ハードウェア異常が発生した場合に予備ブレードと切替えることは可能でしょうか。

A0224: V13.1 以降の版より、内蔵ディスクブートの環境で、ハードウェア異常が発生した場合に予備ブレードと切替えることが可能です。

Q0225: 同一セグメント内に運用管理サーバを複数台設置することに問題はありますか。

A0225: サーバ登録時に、IP アドレスが重複しないように DHCP スコープの IP アドレスを設定することにより運用することはできますが、管理ミスなどで IP 重複が発生する可能性があるため推奨しておりません。

Q0226: 「複数業務 LAN の冗長化と管理 LAN の冗長化」を実施後に、マスタイメージを作成することは可能でしょうか。また、保守モードから運用モードに変更した際に、業務 LAN は通信可能な状態でしょうか。

A0226: マスタイメージの作成は可能です。保守モードでは、業務 LAN に対して非活性処理を実施しませんので、業務 LAN の通信状態に影響を及ぼすことはありません。

Q0227: ユーザーズガイド「付録 I 複数業務 LAN の冗長化と管理 LAN の冗長化」を実施予定です。マニュアルでは、業務 LAN+管理 LAN を冗長化していますが、業務 LAN のみの冗長化は可能ですか。

A0227: 業務 LAN のみの冗長化は可能です。サーバグループごとの設定定義ファイル、サーバノードごとの設定定義ファイルともに、業務 LAN のみの記述で問題ありません。

Q0228: ユーザーズガイド「付録 I 1.1 前提条件および注意事項」に GLS を使用する場合は NIC 切り替え方式の論理 IP アドレス引継ぎと記載がありますが、物理 IP アドレス引継ぎは使用できませんか。

A0228: ユーザーズガイドの前提条件に記載のとおり、プロビジョニングを使われる場合、NIC 切り替え方式の論理 IP アドレス引継ぎとなります。物理 IP アドレス引継ぎは使用できません。

Q0229: リソースコーディネータに、ルータを制御する機能はありますか。

A0229: ルータを制御する機能はありません。

Q0230: リソースコーディネータのエージェントに ServerView WebExtension あるいは ServerView S2 をインストールしても問題はありませんか。

A0230: リソースコーディネータとしては、エージェント(管理対象サーバノード)では ServerView WebExtension あるいは ServerView S2 を必要としませんが、インストールしても問題ありません。

Q0232: ファイバチャネルスイッチ、ストレージの性能管理機能で、権限(特権管理者、一般管理者)による使用できる機能の違いを教えてください。

A0232: 特権管理者は、全ての性能管理機能が使用可能です。一般管理者は、性能監視の開始/停止に関する設定動作以外の機能が使用可能です。性能管理設定の開始/停止以外の利用可能な機能については、特権管理者との違いはありません。

Q0233: サーバノードを別のサーバグループに移し、新たなボリュームを割り当てて起動し、その際移動前のボリュームに残っている OS はそのまま残しておきたいのですが、可能でしょうか。

A0233: リパーパシング機能を使用することで可能です。ユーザーズガイド「6.4 リパーパシング(サーバの用途替え)」を参照しリパーパシングの設定を行ってください。

Q0234: 管理対象サーバノードの管理 LAN の IP アドレスは、DHCP 設定した IP アドレスの範囲内である必要があるでしょうか。

A0234: ユーザーズガイド「3.3.2 管理 LAN の設計」に記載していますように、サーバプロビジョニング、バックアップ・リストア機能を使用される場合は、管理対象サーバノードの管理 LAN の IP アドレスを DHCP サーバが管理する IP アドレスの範囲内に設定する必要があります。

Q0235: 管理対象サーバノードが Windows の場合、管理 LAN のネットワーク設定で“NetBIOS over TCP/IP”は必要でしょうか。

A0235: マスタイメージ、バックアップイメージの作成と配布時に使用します。このため、管理 LAN のネットワーク設定で“NetBIOS over TCP/IP”は有効にしてください。

Q0236: ストレージテンプレートを使用しないで SAN ブート環境を構築した場合、サーバプロビジョニングは使用できますか。

A0236: ストレージテンプレートを使用しない場合、ブート領域が内蔵ディスクの場合のみサーバプロビジョニングを使用できます。

Q0237: 管理対象サーバノードの OS が 2 種類あった場合、サーバプール管理 OS をそれぞれ作成する必要がありますか。

A0237: サーバプール管理 OS を構築するために使用する OS は、ドメイン管理サーバの OS と同じ OS になります。したがって、管理対象サーバノードの OS には関係なく、複数のサーバプール管理 OS は不要です。ただし、管理対象サーバノードとして複数の機種/モデルが存在し、1 つのサーバプール管理 OS では動作できない場合、ドメイン管理サーバを分け、それぞれのサーバプール管理 OS を作成する必要があります。

Q0238: リソースコーディネータで、マネージャ側のバックアップを採取する方法はありますか。

A0238: ありません。リソースコーディネータ以外の方法でバックアップを採取するようお願いします。

### 3. 構築時エラー関連

---

Q0301: 新規ブレードサーバを追加登録しようとしたところ、処理が 50%のところで停止してしまいサーバノード登録 (MAC アドレス指定) がエラーになりました。対処方法を教えてください。

A0301: 追加したブレードがタグ付きの vlan になっていないか、確認してください。サポート/SE から提供しているサーバプール管理 OS は、タグ付きの vlan では動作できません。タグ付きの vlan になっている場合は、LAN スイッチブレードの設定で管理 LAN の VLAN ID を“untagged”の設定に変更してください。

Q0302: PRIMERGY のサーバを登録した際に、下記のエラーメッセージが出力され登録に失敗しました。原因と対処方法を教えてください。

FJSVrcx:ERROR:67231:rcxserver:failed to get the information from the managed server node

A0302: 下記の問題でないか確認してください。

- ・登録時に指定した管理の IP アドレスが仮想 IP でないか確認してください。物理 IP で登録する必要があります。
- ・当該サーバで、snmpd デーモンと ServerView Agent が正しく動作しているか確認してください。SNMP による情報が正しく取得できない場合、本エラーになります。
- ・ブレード機の場合、マネージメントブレードと通信ができるか確認してください。マネージメントブレードと通信ができず、管理対象サーバノードの情報が取得できない場合、本エラーになります。
- ・リソースコーディネータの内部コマンドの中で呼び出している `exportfs -r` が一定時間内に復帰していない可能性があります。/usr/sbin/exportfs -r を実行し、時間が掛かる場合はネットワークの設定に問題がないか、named サービスの設定が正しくされているか、確認してください。

Q0303: PRIMEQUEST のサーバ登録 (IP アドレス指定) を実行したところ、下記のエラーメッセージが出力され、管理対象サーバノードを登録できません。原因を教えてください。

FJSVrcx:ERROR:67235:rcxserver:chassis is not registered

A0303: 下記の確認を実施してください。

- ・登録しようとしているパーティションが存在する筐体は既に登録済みか。
- ・パーティション側 IP アドレス情報のデータ型定義 (SNMP MIB 定義) に誤りが無いか。
- ・パーティションの管理 LAN と業務 LAN が、それぞれ別サブネットになっているか。

Q0304: サーバ登録 (IP アドレス指定) を実行したところ、下記のエラーメッセージが出力され、管理対象サーバノードを登録できません。

FJSVrcx:ERROR:67192:rcxserver:communication error. target=*target*

A0304: 以下の原因が考えられます。

- (1) ネットワーク環境が異常(ケーブル抜け等)
- (2) ファイアウォールソフトが、通信を遮断している。
- (3) サイトマネージャが持つ「通信を行うための証明書」と、通信先エージェントが持つ「通信を行うための証明書」が異なる。
- (4) 通信先のリソースコーディネータのエージェントが起動していない。
- (5) 通信先のポート番号がデフォルトではない値に変更されている。
- (6) 通信先の IP アドレスが間違っている。

Q0305: 登録したサーバノードのステータスが“unknown”のままです。原因と対処方法を教えてください。

A0305: 下記の確認を実施してください。

- ・ドメイン管理サーバから当該サーバノードへ通信可能か。  
ping で通信可能か確認(通信不可能な場合は、結線、NIC の状態、タグ付き VLAN の設定、ファイアウォールの設定などを確認)
- ・当該サーバノードで ServerView は動作しているか。  
Linux: `/etc/init.d/srvmagt status` で確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“Fujitsu ServerView Services”の状態を確認
- ・当該サーバノードで snmpd は動作しているか。  
Linux: `/etc/init.d/snmpd status` で確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“SNMP Service”の状態を確認
- ・当該サーバノードでリソースコーディネータのエージェントは動作しているか。  
Linux: `ps -ef | grep FJSVssagt` で確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“Systemwalker Resource Coordinator Agent”の状態を確認
- ・ドメイン管理サーバと当該サーバノードの時間が 5 分以上ずれていないか。
- ・当該サーバノードの SNMP 設定(コミュニティ名/受付ホスト)は正しいか。  
Linux: `/etc/snmp/snmpd.conf` を確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“SNMP Service”-“プロパティ”-“セキュリティ”で確認
- ・“通信を行うための証明書”が管理サーバと当該サーバで一致しているか。
- ・管理対象サーバノード名が、マネージャと当該サーバで一致しているか。  
サイト管理サーバで、下記のコマンドを実行し、名前を確認。  
`# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxinfo -type server -v`  
管理対象サーバノードで、下記のコマンドを実行し、名前を確認。  
`# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl info`  
食い違っている場合、下記のコマンドで、管理対象サーバノード側の名前を変更して合わせる  
ことが可能。

```
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl stop
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl modify -ipaddr IPアドレス -node 合わせたいノード名
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl start
```

Q0306: サーバノードの登録で、プール管理 OS が起動せず、エラーとなります。原因を教えてください。

A0306: 下記の確認を実施してください。

- ・SNMP トラップデーモンが動作しているか。

ドメイン管理サーバで、`ps -ef | egrep nwsnmp` を実行し、`nwsnmp-trapd` が存在するか確認。

- 動作していない場合は、他の SNMP トラップデーモン (REMCS など) が動作している可能性が高いので確認してください。
- 動作している場合は、“ServerView SNMP トラップ転送プログラム”を使用していると考えられますが、その際の設定ファイル (`/usr/share/SWAWtrpsv/conf/trpsrvtargets`) が正しいポート (`nwsnmp-trapd` の移動したポート) に設定されているか確認してください。

Q0307: `rcxhalanset` コマンドで LAN の二重化を行おうとした場合、下記のエラーメッセージが表示されます。原因を教えてください。

```
FJSVnrm:ERROR:64683:ip address not defined in the ha_ipaddr.conf file(code=)
```

A0307: ホスト名 (サーバノード名) を変更していないか確認してください。リソースコーディネータ上で管理している名前を変更する場合には、管理対象サーバノードの再登録が必要となります。

ホスト名を変更する場合には、ユーザズガイド「8.3.1 システムノード名、またはコンピュータ名の変更」を参照してください。

Q0308: ブレードに Windows を導入し、リソースコーディネータ エージェントをインストールしたのですが最後に実行するバッチ (`sscsetmp.bat`) が下記のエラーとなります。原因を教えてください。

```
FJSVssagt:ERROR:52001 HBA_LoadLibrary failed: 1
```

```
FJSVssagt:ERROR:52002 Environment and status of HBA are incorrect.
```

A0308: 「インストールガイド 付録 B SNIA HBA API ライブラリのインストール」を参照し、SNIA HBA API ライブラリがインストールされているか確認してください。

Q0309: Solaris の SANboot 環境でリソースコーディネータ エージェントをインストールすると OS が起動しなくなりました。原因と対処方法を教えてください。

A0309: Solaris 版リソースコーディネータのエージェントをインストールすると `FJSVsdx` と `FJSVsdxss` がインストールされますが、インストールの順序を誤ると本現象が発生します。SAN ブート環境の構築手順につきましては、ユーザズガイド ストレージ管理編「付録 F SAN ブート環境構築と保守 (PRIMEPOWER 編)」を参照してください。

※ インストール手順の説明は、以下の箇所にあります。

### F. 1. 8 OS インストールとインストール後の作業

復旧は、下記の手順で実施してください。

- 1) ネットワークからブートします。

```
ok boot net -s
```

- 2) システムディスクのルートパーティションをマウントします。

```
# mount /dev/dsk/cXtXdXsX /mnt
```

※ cXtXdX には、システムディスク (mp1b0) を構成するマルチパスデバイスのいずれかを指定してください。sX には、ルートパーティションを指定してください。

- 3) mp1b デバイスのメジャー番号を確認します。

```
# ls -l /mnt/dev/FJSVmp1b/rdisk/mp1b0s0
```

```
crw-r----- ~ XXX, YYYYYY ~ /mnt/dev/FJSVmp1b/...
```

- 4) name\_to\_major ファイルを編集します。

```
# vi /mnt/etc/name_to_major
```

```
~
```

mp1b ZZZ ← ZZZ を 3) で調べた XXX に変更する。

```
~
```

```
# umount /mnt
```

※ 念のため、XXX が他の行に記載されていないことを確認してください。記載されていた場合は、ご連絡ください。

※ 通常の運用では、name\_to\_major ファイルの編集は行わないでください。

- 5) システムを再起動します。

```
# init 0
```

```
~
```

```
ok boot
```

Q0310: 基本ドメインのサーバノードをサーバドメインへ移動したところ、下記のエラーメッセージが出力されます。原因を教えてください。

```
FJSVrcx:ERROR:67242:command:failed to control switching HUB.
```

A0310: 制御対象のスイッチブレードの管理 LAN の VLAN-ID を確認してください。管理 LAN の VLAN-ID は“スイッチングハブの全ポートに設定されているデフォルト VLAN ID”以外の値に設定変更をしてください。なお、本件はユーザーズガイドの「4.3.1.1 スイッチングハブの設定」の注意事項に記載されています。

Q0311: FC 定義情報の作成で下記のエラーメッセージが表示され、失敗します。(シャーシに登録可能なサーバが見つからない)

```
FJSVrcx:ERROR:67185:rcxconfig:server node not found in the chassis
```

A0311: 存在する FC-HBA のうちいくつかの情報しか取得できない状態です。そのため、rcxconfig コマンドにより、FC 定義情報を作成することができていません。これには、以下の原因が考えられます。

1) サーバブレードの BIOS 設定で、FC-HBA が有効になっていない

Fast!UTIL ユーティリティの [Host Adapter Settings] サブメニューで、“Host Adapter BIOS” の設定値が “Enable” になっていることを確認してください。

2) FC-HBA、または、接続されている FC スイッチブレードのポートが故障しています。

FC スイッチにログインし、switchshow コマンドを実行してください。正常な場合は、ポートに FC-HBA の情報が表示されます。

Q0312: サーバグループへのサーバ追加時に、下記のエラーメッセージを出力し、サーバ追加に失敗します。原因と対処を教えてください。

・ V13.1 以前のバージョン

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcxserver:command execution error. (rcxfunc=SoftRM,
command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=83)
```

```
FJSVrcx:ERROR:68083:rcxsoftdeploy:request: /PADDR: io error
```

・ V13.2 以降のバージョン

```
FJSVrcx:ERROR:68283:rcxsoftdeploy:request: /PADDR: io error
```

A0312: 以下の原因が考えられます。

- (1) ネットワーク環境が異常(ケーブル抜け等)
- (2) ファイアウォールソフトが、通信を遮断している。
- (3) サイトマネージャが持つ「通信を行うための証明書」と、通信先エージェントが持つ「通信を行うための証明書」が異なる。
- (4) 通信先のデーモンが起動していない。
- (5) 通信先のポート番号がデフォルトではない値に変更されている。
- (6) 通信先の IP アドレスが間違っている。
- (7) カスケードスイッチの状態がゾーン情報不一致となっている。
- (8) 「6.2.3.3 インストール手順」で導入した Sysprep.exe (Deploy.cab) の対象 OS が間違っている可能性があります。例えば、64bit の Windows2003 SP2 が対象の場合は、64bit の Windows2003 SP2 に対応の Sysprep.exe を使用し、再度マスタイメージを採取してください。

Q0313: ストレージ装置のストレージドメインへの移動で、下記のエラーが出力されます。

原因と対処方法を教えてください。

```
FJSVrcx:ERROR:62042:rcxstorage:Redundant access paths between Server(s)-Storage is
insufficient. number paths needed.
```

A0313: FC スイッチへ仮ゾーニングの設定がされていないため、ストレージドメインへの移動が失敗している可能性があります。その場合、仮ゾーニング設定後ストレージドメインへの移動を再実行し



てください。

Q0314: ETERNUS SP5000 をリソースコーディネータの監視対象として登録する手順を教えてください。

A0314: SP5000 のサーバ登録につきましては、ユーザズガイド「5.2.7 基本ドメインへのサーバノードの登録」を参照してください。

Q0315: ETERNUS LT series テープライブラリをリソースコーディネータの監視対象として登録する手順を教えてください。

A0315: 「ユーザズガイド」と「ユーザズガイド ストレージ管理編」を参照してください。

LT series の登録につきましては、ユーザズガイド「5.2.8 基本ドメインへのストレージノードの登録」を参照してください。LT のモデルでのサポートレベルは、ユーザズガイド ストレージ管理編「1.3.4 サポートレベル」を参照してください。

- ・「サブネット内装置検出」機能に対応していない機種は、IP アドレスを指定する「単体検出」機能を使用してください。
- ・「手動組み込みの装置」の接続構成については手動組み込み装置の物理線編集が必要になります。手動組み込み装置の物理線編集の詳細に関しましては、ユーザズガイド ストレージ管理編「6.1.9 手動組み込み装置の物理線編集」を参照ください。

Q0316: ブレードではない PRIMERGY (RX, TX シリーズ) の筐体登録でエラーが発生します。

A0316: ユーザズガイド サーバ管理編 「4.2.2 筐体登録」に記載しているように、筐体登録は、PRIMEPOWER/SPARC Enterprise のパーティション機能を持つモデル、PRIMERGY のブレードサーバ、PRIMEQUEST など、システム共通の部品を保持する筐体を登録する場合に使用するもので、ブレードではない PRIMERGY (RX, TX シリーズ) では、筐体登録は不要です。

Q0317: インストールガイド「6.2.3.3 インストール手順」の、「a. イメージ操作モジュール(クライアントエージェント)のインストール」手順4で、指定するファイルが二種類あるのですが、一種類しか選択できません。また、同手順において Microsoft のサイトよりダウンロードしたファイルは「WindowsXPKB838080-SP2-DeployTools-JPN.cab」というファイルなのですが、このファイルで間違いはないでしょうか。

A0317: いずれかの方法で対応してください。

- 1) 「WindowsXP-KB838080-SP2-DeployTools-JPN.cab」を解凍して、sysprep.exe setupcl.exe を指定する
- 2) deploy.cab に rename して直接指定する

Q0318: 管理対象サーバノードのコンソールに DHCP からの応答がないことを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

A0318: トラブルシューティングガイドの 1.2.2 を参照してください。

Q0319: 管理対象サーバノードのコンソールに TFTP の timeout を示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

A0319: トラブルシューティングガイドの 1.2.3 を参照してください。

Q0320: 管理対象サーバノードのコンソールに“mount: RPC: Program not registered”というメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

A0320: トラブルシューティングガイドの 1.2.5 を参照してください。

Q0321: 管理対象サーバノードのコンソールに“mount: RPC: Timed out”というメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

A0321: トラブルシューティングガイドの 1.2.6 を参照してください。

Q0322: 管理対象サーバノードの登録時、「FJSVrcx:ERROR:swsag0018」メッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

A0322: トラブルシューティングガイドの 1.2.12 を参照してください。

Q0323: サーバグループ間の接続方式で SLB を選択したところ、下記のエラーメッセージが出力されます。原因を教えてください。

```
FJSVrcx:ERROR:67248:rcxgroup:failed to control the load balancer
```

A0323: 使用するロードバランサへの操作中に異常が発生しました。メッセージ集の“67248”の対処に記載されている確認を行ってください。

ロードバランサの設定項目については、ユーザズガイド「4.3.1.2 ロードバランサの設定」を参照し確認してください。

また、設定完了後は、ロードバランサ上で必ずポリシー配信を実行してください。

Q0324: サーバとストレージのアクセスパスが GUI 上で黄色表示 (Warning) になっています。原因と対処方法を教えてください。

A0324: 下記の理由が考えられます。

- ・ファイバチャネルブレードのポート使用の許可があるか確認してください。許可がない場合、結線異常で Warning となります。その場合は、ポートのライセンスを追加してください。
- ・構成されているストレージのホストアフィニティの設定が正しいか確認してください。設定が正しくない場合は、ストレージのホストアフィニティ設定の見直しをお願いします。
- ・ブレードサーバの HBA を交換していないか確認してください。交換している場合、アクセスパス継承が必要になります。“アクセスパスの継承”を実施し復旧してください。

Q0325: ブレード機ではない PRIMERGY の管理対象サーバノードをサーバグループへ登録した際、サーバを再起動後、プール管理 OS で起動されてしまいました。原因と対処方法を教えてください。

A0325: ブレード機ではない PRIMERGY で、電源制御に Baseboard Management Controller、またはリモートマネジメントコントローラを用いるモデルの場合、管理対象サーバノードにインストールガイド「6.1.4.7 電源制御の設定【Linux】」あるいは「6.2.4.6 電源制御の設定【Windows】」の設定が必要です。その際、管理対象サーバノードの IPMI あるいは iRMC のパスワードには、“SNMP コミュニティ名”を設定する必要があります。詳細は、インストールガイド(6.1.4.7 か 6.2.4.6)を参照ください。

Q0326: 管理対象サーバノードの登録時、下記のエラーメッセージが出力されました。原因と対処方法を教えてください。

```
FJSVrcx:ERROR:67230:command:error occurred on the domain admin server
```

A0326: メッセージ集より、ERROR:67230 の対処を確認し、それでもだめだった場合、下記の方法で SystemcastWizard のサービスを再起動した後、再度登録を試してください。

```
# /etc/init.d/scwdepsvd stop
# /etc/init.d/scwpxesvd stop
# /etc/init.d/scwtftpd stop
# /etc/init.d/scwtftpd start
# /etc/init.d/scwpxesvd start
# /etc/init.d/scwdepsvd start
```

Q0327: 管理対象サーバノードの登録時、管理対象サーバノードのコンソール画面に以下のメッセージが出力され、ネットワークブートができません。原因と対処方法を教えてください。

```
PXE-E51:No DHCP or proxy DHCP offers were received.
```

A0327: ネットワークアドレス 172.16.0.0/16、および VLAN ID 4001 (ネットワーク構成に Cisco 社製スイッチングハブがある場合は、さらに VLAN ID 1001)を管理 LAN に使用していないか確認してください。本アドレスと VLAN ID は、サーバプールグループの制御にリソースコーディネータが使用するため、管理 LAN には使用できません。

Q0328: 管理対象サーバノードをサーバ登録しましたが、ドメイン管理サーバから IP アドレスが割り振られず、サーバプール管理 OS が起動してきません。原因と対処方法を教えてください。

A0328: VLAN の機能により論理的に結線されていないため、管理対象サーバノードがドメイン管理サーバと通信できていない可能性があります。その場合、ドメイン管理サーバと管理対象サーバノード間の通信に利用している管理 LAN 用の Switch Blade の VLAN ID を統一してください。

Q0329: “ETERNUS NR1000F”を手動操作で装置検出作業を行いました。手動組み込みウィンドウの “NR1000F”の装置にポートが表示されません。

A0329: 「手動組み込みの装置」の接続構成については手動組み込み装置の物理線編集が必要になります。手動組み込み装置の物理線編集の詳細に関しましては、ユーザズガイド ストレージ管理編 「6.1.9 手動組み込み装置の物理線編集」を参照ください。(手動組み込みウィンドウで UnknownFC ポートを左クリックしたまま、手動組み込み装置にドロップすることで、“NR1000F”の装置にポートが表示されます。)

Q0330: サーバグループにプールからサーバを移動したところ、  
「FJSVrcx:ERROR:62066:command:invalid access path exists」が発生しました。  
パス状態を確認したところ、アクセスパスが黄色で表示されており下記の状態になっています。  
原因と対処方法を教えてください。

- ・アクセスパス状態：アクセスパス定義矛盾
- ・障害内容：「Configured Storage FC Port's Host Affinity is incorrect.  
Please inspect Storage FC Port's Host Affinity.」

A0330: リソースコーディネータ以外の方法で FC スイッチのゾーニング定義をしていることが原因の可能性がります。リソースコーディネータでは、ゾーニング設定を自動で行いますので、手動設定を実施する必要はありません。先にゾーニング設定があるとアクセスパスの状態異常を検出してエラー終了します。

Q0331: サーバプール管理 OS の作成で、「4.3.2.8.4 ネットワークブートツールの起動」で NFS 情報の入力後、ネットワークブートツールがハングします。

A0331: Linux では、NFS でマウントするデバイスの major/minor 番号の上限は 255 になっております。GDS の sfdsk ドライバのメジャー番号を 255 までの値に変更してください。

Q0332: ETENRUS を自動検出すると自動検出処理が swsag0018 の ERROR により失敗しました。  
原因と対処方法を教えてください。

A0332: 下記を確認してください。

- ・運用管理サーバと当該 ETERNUS 間のネットワーク環境に問題が無いか確認してください。
- ・管理対象サーバノード (ServerView) あるいは管理装置 (マネージメントブレード) から、SNMP トラップが通知され、当該の管理対象サーバノードのステータスが変更されている可能性があります。ハードウェア異常が発生していないか、マネージメントブレードと ServerView で確認をしてください。
- ・コミュニティ名が public ではない場合は、SNMP (エージェント) 環境設定の Community 設定を行う必要があります。

Q0333: 基本ドメインに登録されている管理対象サーバノードをサーバドメインに移動する際に、下記のエラーメッセージが出力され移動に失敗します。原因と対処方法を教えてください。

FJSVrcx:ERROR:67189:command:obj1:obj2:failed to establish a connection

A0333: FC スイッチのファームが、v5. 1. 1b か v5. 3. 0d ではないか確認してください。当該バージョンは、緊急修正を提供することでサポートしています。緊急修正を適用してください。

Q0334: ETERNUSmgr で Volume を作成し、管理対象ストレージノードをストレージドメインへに移動し、ストレージプールグループを確認しても FreeVolume しか表示されず、LogicalVolume が見えません。原因と対処方法を教えてください。

A0334: LogicalVolume を ETERNUS ストレージ装置のアフィニティグループに割り当てているとリソースコーディネータの管理対象外になるため、ストレージプールグループの LogicalVolume は見えなくなります。アフィニティグループへ割り当てを削除し、見えるようになるか確認してください。

Q0335: PRIMEQUEST のパーティションを IP アドレス指定でサーバ登録したところ、エラーメッセージ (ERROR:67235) が出力され、登録できません。原因と対処方法を教えてください。

A0335: PRIMEQUEST のパーティション上で Systemwalker Centric Manager の CPU 等の使用率監視用 Agent プロセス (FJSVspmex) を動作させている場合、FJSVspmex の SNMP 設定を見直してください。

Q0336: FC スイッチの登録を行ったところ「swsag0018」のエラーが表示され登録が行えません。原因と対処方法を教えてください。

A0336: FC スイッチが下記のものである場合は、緊急修正が必要です。

- ファームウェア v5. 1. 1b を搭載した SN200
- ファームウェア v5. 3. 0d を搭載した SN200

Q0337: 筐体登録を実行したところ、下記のエラーが出力され、登録できません。

FJSVrcx:ERROR:67999:rcxchassis:internal error, 6

A0337: マネージメントブレード/MMB と通信ができない場合、本エラーになります。

指定した IP アドレスで、マネージメントブレード/MMB と通信ができるか確認してください。

Q0338: サーバ登録をしましたが、FC ケーブルの物理線が片パスしか表示されません。

原因と対処方法を教えてください。

A0338: 接続されている FC ポートがリンクアップしている状態であれば、物理線は表示されるはずですが、当該サーバから接続している、FC スイッチの FC ポートがリンクアップしているか確認してください。

Q0339: FC スイッチブレードの登録の際、“Unsupported Firmware Version”ワーニングメッセージが出

力されます。回避策を教えてください。

A0339: 下記の組み合わせは検証済みのため、sanma.conf ファイルを編集した後に、「定義ファイルの再読み込み」、「最新の情報に更新」を実行することにより、登録することができます。

- ・ V13.0.0(A) : ファームウェア v5.1.1b
- ・ V13.1.0(A) : ファームウェア v5.1.1b
- ・ V13.1.0(A) : ファームウェア v5.2.1b

修正方法 [V13.1.0(A) に v5.2.1b の対応をする例]

(1) sanma.conf ファイルを編集します。

sanma.conf は、Systemwalker Resource Coordinator のサイトマネージャがインストールされているサーバの以下に配置されています。

`/etc/opt/FJSVssmgr/current/sanma.conf`

このファイルに、テキストエディタで以下の 1 行を追加してください。“050201”はファームウェアバージョンの例です。

**SILKWORM\_SUPPORTED\_FIRMWARE\_VERSION = “050201”;**

既に同様の行がある場合は、その行に 050201 を追加してください。

例) “050101, 050201”

マネージャプログラムやサーバの再起動などは不要です。マネージャ動作中に編集して問題ありません。

- (2) GUI クライアントのメニューから [ツール]-[オプション]-[定義ファイル再読み込み] を実行してください。
- (3) GUI クライアントのメニューから [表示]-[最新の情報に更新] を実行してください。

Q0340: サーバプール管理 OS を構築し、管理対象サーバノードをサーバプール管理 OS で起動したところ、「Server View modules not loaded because of compile errors」が出力され起動に失敗します。対処方法を教えてください。

A0340: OS のカーネル版数と異なったカーネル版数の ServerView をインストールしていないか確認してください。間違っている場合は、既存のサーバプール管理 OS を rcxpoolosing コマンドで削除してから、サーバプール管理 OS の再構築を行ってください。

Q0341: 物理画面リソース管理画面の管理対象サーバノードのアイコンに HBA が表示されません。原因と対処方法を教えてください。

A0341: HBAnyware (SNIA HBA API) のインストール後、HBAAPI.dll の改名を実施していない可能性があります。改名していない場合は、HBAAPI.dll ファイルの改名を実施してください。

Q0342: 基本ドメインからの管理対象サーバノードの移動で、下記のエラーメッセージが出力され失敗します。原因と対処方法を教えてください。

FJSVrcx:ERROR:67192:rcxserver:communication error.target=*target*

A0342: 制御対象のスイッチブレードのポートのVLANがデフォルトVLANになっているか確認してください。デフォルトVLAN になっていない場合は、管理対象サーバノードと接続するスイッチブレードの  
の  
ポートにはデフォルトVLANを設定し、再実行してください。

## 4. 装置状態関連

---

Q0401: ドメイン管理サーバ上に AlarmService (REMCS) をインストールしたところ、各ブレードサーバが unknown となりました。原因と対処方法を教えてください。

A0401: サイトマネージャやドメインマネージャをインストールしたサーバにおいて、ServerView の AlarmService を使用する場合には、SNMP Trap を転送する “ServerView トラップ転送プログラム (trpsrvd)” を使用して、ポート変更、SNMP トラップの転送を行ってください。インストールガイド「4.1.2 注意事項」を参照ください。

Q0402: テープ装置を通常に登録しましたが、物理画面に結線がはられていません。原因と対処方法を教えてください。

A0402: FC スイッチが登録されているか確認してください。FC スイッチが登録されていないと、パスが不明のため、物理画面にパスが張られません。FC スイッチを登録することで、物理画面にパスが張られます。

Q0403: 運用管理クライアントでサーバアイコンが黄色で表示されています。構成ツリーからはエラーは見当たりません。原因と対処方法を教えてください。

A0403: リソースコーディネータに登録していないが、fjpfca.conf にバインド定義されている HBA に接続されている FC スイッチやテープ装置が存在しないでしょうか。存在する場合、FC スイッチやテープ装置を登録してください。

Q0404: ファイバチャネルカードが 2 つ搭載されていますが、1 つしか使用していません。その場合、赤いエラー表示されるのですが、クリアする方法を教えてください。

A0404: 結線していただく以外にエラーを解除する方法はありません。

Q0405: 運用管理クライアントでサーバアイコンに「？」が付いたサーバがあります。対応方法を教えてください。

A0405: 下記の確認を実施してください。

- ・ドメイン管理サーバから当該サーバノードへ通信可能か。  
ping で確認(通信不可能な場合は、結線、NIC の状態、タグ付き VLAN の設定、ファイアウォールの設定などを確認してください。)
- ・当該サーバノードで ServerView は動作しているか。  
Linux: `/etc/init.d/srvmagt status` で確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“Fujitsu ServerView Services”の状態を確認
- ・当該サーバノードで snmpd は動作しているか。  
Linux: `/etc/init.d/snmpd status` で確認



- Windows: “管理ツール”-“サービス”-“SNMP Service”の状態を確認
- ・当該サーバノードでリソースコーディネータのエージェントは動作しているか。  
Linux: `ps -ef | grep FJSVssagt` で確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“Systemwalker Resource Coordinator Agent”の状態を確認
- ・ドメイン管理サーバと当該サーバノードの時間が5分以上ずれていないか。
- ・当該サーバノードのSNMP設定(コミュニティ名/受付ホスト)は正しいか。  
Linux: `/etc/snmp/snmpd.conf` を確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“SNMP Service”-“プロパティ”-“セキュリティ”で確認
- ・“通信を行うための証明書”が管理サーバと当該サーバで一致しているか。
- ・`rcxagtctl modify` を使用せずに、管理LANのIPアドレス、およびサーバ名を変更していないか。
- ・管理対象サーバノード名が、マネージャと当該サーバで一致しているか。  
サイト管理サーバで、下記のコマンドを実行し、名前を確認。  
`# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxinfo -type server -v`  
管理対象サーバノードで、下記のコマンドを実行し、名前を確認。  
`# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl info`  
食い違っている場合、下記のコマンドで、管理対象サーバノード側の名前を変更して合わせることが可能。  
`# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl stop`  
`# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl modify -ipaddr IPアドレス -node 合わせたいノード名`  
`# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl start`

Q0406: サーバノードのステータスが“unknown”のままです。原因と対処方法を教えてください。

A0406: 下記の確認を実施してください。

- ・ドメイン管理サーバから当該サーバノードへ通信可能か。(pingで確認)  
通信不可能な場合は、結線、NICの状態、タグ付きVLANの設定、ファイアウォールの設定などを確認してください。
- ・当該サーバノードでServerViewは動作しているか。  
Linux: `/etc/init.d/srvmagt status` で確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“Fujitsu ServerView Services”の状態を確認
- ・当該サーバノードでsnmpdは動作しているか。  
Linux: `/etc/init.d/snmpd status` で確認  
Windows: “管理ツール”-“サービス”-“SNMP Service”の状態を確認
- ・当該サーバノードでリソースコーディネータのエージェントは動作しているか。  
Linux: `ps -ef | grep FJSVssagt` で確認

Windows: “管理ツール”-“サービス”-“Systemwalker Resource Coordinator Agent”の状態を確認

- ・ドメイン管理サーバと当該サーバノードの時間が5分以上ずれていないか。
- ・当該サーバノードのSNMP設定(コミュニティ名/受付ホスト)は正しいか。

Linux: /etc/snmp/snmpd.confを確認

Windows: “管理ツール”-“サービス”-“SNMP Service”-“プロパティ”-“セキュリティ”で確認

- ・“通信を行うための証明書”が管理サーバと当該サーバで一致しているか。
- ・rcxagtctl modify を使用せずに、管理LANのIPアドレス、およびサーバ名を変更していないか。
- ・管理対象サーバノード名が、マネージャと当該サーバで一致しているか。

サイト管理サーバで、下記のコマンドを実行し、名前を確認。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxinfo -type server -v
```

管理対象サーバノードで、下記のコマンドを実行し、名前を確認。

```
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl info
```

食い違っている場合、下記のコマンドで、管理対象サーバノード側の名前を変更して合わせることが可能。

```
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl stop
```

```
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl modify -ipaddr IPアドレス -node 合わせたいノード名
```

```
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl start
```

Q0407: ファイバチャネルカードの交換後、物理画面でアクセスパスの結線が“黄色”の状態になります。原因と復旧方法を教えてください。

A0407: ファイバチャネルカードの交換によってWWNが変更されたため、アクセスパスの結線が“黄色”の状態になっています。“アクセスパスの継承”を実施し復旧してください。

Q0408: 物理画面で、管理対象サーバノードとFCスイッチ間の物理結線が表示されていない状態です。原因と対象方法を教えてください。

A0408: ファイバチャネルカード(HBA)のドライバ版数が未サポート版数のため現象が発生している可能性があります。HBAドライバ版数がサポートしている版数か確認してください。サポートしている版数は、リソースコーディネータのハンドブック「2. 管理可能なHBA」に記載されています。HBAドライバは、<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>から入手してください。

Q0409: リソースコーディネータの管理画面上で、error状態をクリアする手順を教えてください。

A0409: 回転灯アイコンをクリックし、最新の情報に更新したあと、リカバリ処理を行ってください。PRIMEPOWERの場合、error状態のリソースは、保守によりエラーとなった原因を取り除いたあと、

当該リソースを選択し、ポップアップメニューから [故障状態の回復(R)] を選択してください。詳細は、ユーザズガイド「A. 1.2 リソースコーディネータ画面」とユーザズガイド サーバ管理編「5.2.1.2 画面操作」を参照してください。

Q0410: リソースコーディネータ管理画面で、管理対象サーバノードの状態アイコンが“error”となっております。原因を教えてください。

A0410: 運用管理サーバにて、管理対象サーバノードのハードウェア故障を検出したため、GUI 画面の状態アイコンが“error”となっております。

Q0411: 運用管理クライアントで、管理対象サーバノード(PRIMEQUEST)のステータスが復旧せず Warning 状態です。対処方法を教えてください。

A0411: PRIMEQUEST の Web-UI 上で、被疑箇所のステータスをクリアしていないため Warning 状態になっております。被疑箇所のステータスをチェックして、異常が残っているならばクリアしてください。

Q0412: 物理リソース画面にアクセスパスが緑色である場合と青色である場合が存在します。問題ないでしょうか。

A0412: アクセスパスの色(緑色、青色)はどちらも正常状態を表しており、問題ありません。HBA のバインディング種別が WWPN バインディングである場合はアクセスパスの色は緑色となり、それ以外の場合には青色となります。

Q0413: 運用管理クライアントの論理リソース管理画面は正常に表示されているが、物理リソース管理画面を確認すると、1つのサーバの物理結線が赤い表示になっています。

原因と対処方法を教えてください。

A0413: 当該サーバの電源が落ちた状態で、[最新の情報に更新(R) F5]が行われたため、当該サーバと FC スイッチ間の接続情報が得られず、アクセスパスが赤くなっている可能性があります。再度、[最新の情報に更新(R) F5]を実行してください。

Q0414: アクセスパスの設定を行ったところ、黄色(アクセスパス定義矛盾)になっています。

原因と対処方法を教えてください。

A0414: ファイバチャネルスイッチのゾーニングが設定されていない可能性があります。ユーザズガイド ストレージ管理編を確認してください。

Q0415: VMware Infrastructure 環境にエージェントをインストールしたが状態が unknown になっております。原因と対処方法を教えてください。

A0415: エージェントが使用するポート番号のファイアウォール設定を有効にしているためです。

インストールガイドの「6.3.4.1 /etc/services の設定」を参照し設定を無効にしてください。

Q0416: サーバの状態が Warning または Error になっています。原因の特定方法を教えてください。

A0416: 「最新の情報に更新」を実行しても状態が変わらない場合は、ユーザズガイド サーバ管理編「6.1 対処手順」を参照し対処してください。

Q0417: 管理対象サーバノードの異常原因を復旧しましたが、ステータスが normal に変更されません。原因と対処方法を教えてください。

A0417: ストレージ異常、サーバ異常を復旧した場合は、[最新の情報に更新(R) F5]を実施し最新の状態に更新していただく必要があります。

Q0418: 運用管理クライアントのイベントログに下記のメッセージが出力されています。原因と対処方法を教えてください。

```
FJSVrcx:WARNING:41304:service_name:status is changed to status
```

A0418: サービスの状態が変わったためメッセージを表示しています。

メッセージ集の 41304 の箇所を参照してください。

また、41304 のメッセージの前に RC で監視している機器のトラップメッセージが出力されていると思われます。メッセージが不明な場合は、出力しているハード担当部署(SE)にお問い合わせください。

## 5. イメージ操作関連

---

Q0501: イメージの採取・配信には、どのくらいの時間がかかりますか。

A0501: ハードやネットワークの状況によってことなります。おおよその時間は下記のとおりです。

・ SAN (LUN サイズ: 20GB) の例

– イメージ採取: 15~20 分 (イメージ転送: 5~10 分, 再ブート等: 10 分)

– イメージ配信: 25~30 分 (イメージ転送: 5~10 分, 再ブート等: 20 分)

・ 内蔵ディスク (DISK サイズ: 73GB) の例

– イメージ採取: 15~20 分 (イメージ転送: 5~10 分, 再ブート等: 10 分)

– イメージ配信: 30~40 分 (イメージ転送: 10~20 分, 再ブート等: 20 分)

上記の値はあくまで目安であり、そのときのシステムの状態などによっては、もっと時間がかかる場合があります。

Q0502: リソースコーディネータのエージェントが含まれているマスタイメージを、他の管理対象サーバノードに配信して問題ないでしょうか。

A0502: リソースコーディネータのエージェントが含まれているマスタイメージを、他の管理対象サーバノードに配信して問題ありません。マスタイメージには、リソースコーディネータのエージェントが含まれている必要があります。

Q0503: OS イメージのバックアップ機能がありますか。

A0503: ソフトウェアイメージの世代管理を行うことが可能であり、バックアップ・リストア機能も使用できます。詳細は、ユーザズガイド「7.2.3 バックアップ・リストアによる保守」を参照ください。

Q0504: マスタイメージ名の変更方法を教えてください。

A0504: マスタイメージ作成後、マスタイメージ名のみを変更することはできません。代替手段として、新規にサーバグループを作成後、マスタイメージを複写し複写時にマスタイメージ名を変更することが可能です。

[手順]

1. 新規サーバグループを作成します。

2. 作成した新規サーバグループに既存のサーバグループからマスタイメージを複写します。

マスタイメージ複写画面で、複写先に割り当てるマスタイメージ名を入力します

新規に作成したサーバグループ名を既存のサーバグループ名と同じにするには、上記の手順実施後、既存のサーバグループを削除して、同様のサーバグループ名で新規にサーバグループを作成し、手順 2 で作成したマスタイメージを再度複写する必要があります。

Q0505: マスタイメージは既に採取しています。ディスク交換する場合、そのマスタイメージを使用することは可能でしょうか。

A0505: 交換後のディスクに、そのマスタイメージを配付することができます。

Q0506: マスタイメージの作成/配布/複写で、イベントログに下記のエラーメッセージが出力されました。原因を教えてください。

・ V13.1 以前のバージョン

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error. (rcxfunc=SoftRM,
command=rcxsoftimage, rcxerrorno=95)
```

```
FJSVrcx:ERROR:68095:rcxsoftimage:create: target:scw_rid=id:deployment engine error
```

・ V13.2 以降のバージョン

```
FJSVrcx:ERROR:68295:rcxsoftimage:create: target:scw_rid=id:deployment engine error
```

A0506: メッセージ集「1.3.7 68XXX 系」の 68295 の対処を実施してください。それでも解決できない場合は、下記の確認を実施してください。

1. システム BIOS の設定で、管理 LAN で使用するネットワークインタフェースからブートしているか確認してください。(起動ネットワークインタフェース[NIC]が間違っていた事例がありました)
2. 管理 LAN に設定されているネットワークインタフェースからの DHCP 要求が運用管理サーバに届いていない可能性があります。BIOS の設定とブートの優先順位をチェックしてください。
3. LAN の冗長化を解除していない状態で、マスタイメージの作成をしていないでしょうか。その場合は、メッセージ集の“67198”、対処 1、4. 復旧 の手順にしたがい復旧作業を行なってください。
4. 管理対象サーバノード上で、DOS が起動途中で停止していないか確認してください。
5. 管理対象サーバノードの設定ファイルにドメイン管理サーバの IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。

- Linux の場合

ファイル名: /etc/scwagent.conf

```
-----
server_ip=192.168.1.2 ←この IP アドレスです
-----
```

- Windows の場合

イメージ操作モジュールインストールパス¥config.bat を実行します。

+-デプロイメントサーバ情報-----+

| サーバ名(S) 192.168.1.2 ←この IP アドレスです

| ポート(P) 4972 |

-----+

6. インストールガイド「6.1.3.3 インストール手順【Linux】」あるいは「6.2.3.3 インストール手順【Windows】」に記載しているように、インストール時にドメイン管理サーバの IP アドレスを指定したか、サーバ名を入力する場合にはドメイン管理サーバの IP アドレスが解決できるようになっているか確認してください。インストール時に入力した内容は、5.の方法で確認できます。

7. ScW エージェントが停止していることが原因の可能性があります。

下記の 1) の手順で確認してください。

1) クライアントエージェントデーモンの起動確認

(2~5 が ON であれば自動起動です)

```
# chkconfig --list scwagent
```

```
scwagent 0:オフ 1:オフ 2:オン 3:オン 4:オン 5:オン 6:オフ
```

2) 1) で自動起動設定でなければ、自動起動の設定にしてください。

実行後、自動起動の設定になったことを確認してください。

```
# chkconfig scwagent on
```

```
# chkconfig --list scwagent
```

```
scwagent 0:オフ 1:オフ 2:オン 3:オン 4:オン 5:オン 6:オフ
```

3) クライアントエージェントを起動してください。

```
# /etc/init.d/scwagent start
```

4) クライアントエージェントが起動したことを確認してください。

```
# /etc/init.d/scwagent status
```

```
scwagent (pid 3818) is running ...
```

5) マスタイメージ作成を再度実行してください。

8. 管理対象サーバノードが BX620 S3 で、FC カードのファームウェア版数が“3.01.20”の場合、NDIS ドライバの問題である可能性があります。下記の応急修正を適用してください。

- V13.1.0

```
RHEL3 用 ... T000570LE-01
```

```
RHEL4 用 ... T000571LE-01
```

- V13.1.0A

```
RHEL3 用 ... T000553LE-01
```

```
RHEL4 用 ... T000554LE-01
```

9. FC カードの版数が古くないか確認してください。HBA BIOS を 1.47A 以降の版へアップデートしてください。

- HBA BIOS v1.47A (ISP2312 BootROM v3.03.08)

該当ファームは、PRIMERGY の Web サイトからダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

・ 検索対象

ソフト名： Fibre Channel Daughter Card HBA BIOS

バージョン： V1.47A (公開日： 2006 年 9 月 19 日)

・ 検索キー

製品名： PRIMERGY BX620 S2 サーバブレード

型名： 任意(なんでも良い)

カテゴリ： ファームウェア

10. 当該サーバの管理 LAN の MAC アドレスが、サーバ登録時に指定した MAC アドレスと変わっている可能性があります。

NIC, マザーボードの交換などにより MAC アドレスが変わっている場合は、rcxserver modify コマンド(詳細はコマンドリファレンス「5.2 rcxserver」を参照)を実行して、MAC アドレス情報を変更してください。

11. デプロイメントサーバ起動時に管理対象サーバノードとの通信ができなかったため、マスタイメージの作成/更新に失敗した可能性があります。管理対象サーバノードを再起動し、再度マスタイメージの作成/更新を実行してください。

12. 下記の条件の場合、ServerStart が原因でこのような状態になります。

1) 管理対象サーバノードが BX620 S4 である。

2) マスタイメージが Windows2003 である。

3) 2)の Windows2003 を、ServerStart を使用してインストールした。

この場合、マスタイメージを、ServerStart を使用せず、Windows 2003 のインストール CD を使って手動でインストールし、再作成してください。

13. マスタイメージ作成元の管理対象サーバノードで、ifcfg-eth\*(管理 LAN)に HWADDR=の行を記述していないか確認してください。

14. ドメイン管理サーバのルーティング情報の設定が正しくない可能性があります。

「インストールガイド」の「4.2.3.1 インストール前準備」を参照し、ルーティング情報の設定を確認してください。

15. Windows OS の問題が発生した可能性があります。

マイクロソフトから、下記の回避方法が広報されています。

<http://support.microsoft.com/kb/913659/ja>

16. 問題があるファームウェアを使用している可能性があります。

下記以降の BIOS/ファームウェアを使用してください。

[名称]

PRIMERGY BX620 S3 BIOS 3B26/BMC 3B34/LAN Firmware 3.0.0, BX620 S4 BIOS 3A14/BMC 3A12  
Update tool

[URL]

[http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviadownload.cgi?DRIVER\\_NUM=F1006849](http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviadownload.cgi?DRIVER_NUM=F1006849)

17. LAN Manager モジュールが正しく格納されていない可能性があります。



インストールガイドの“4.2.4.4 Microsoft LAN Manager モジュールの配置”にしたがい、作業を行なってください。

18. 管理対象サーバノードで管理 LAN 用のネットワークの“NetBIOS over Tcpip”の設定が“Disabled”になっている可能性があります。  
該当ノードの管理 LAN に対する“NetBIOS over Tcpip”の設定を“Enable”とし、再実行してください。
19. リソースコーディネータのバージョンが V13.0.0A で管理対象サーバノードが BX620S3 で SAN ブートの場合、ドメイン管理サーバに必要な修正が適用されていない可能性があります。T000147LP-01 緊急修正パッチの適用有無を確認してください。
20. 「ユーザズガイド」の「1.2.1 前提条件、および注意事項」に記載されているとおり冗長化している管理 LAN が待機側に切替っている場合、バックアップイメージを採取することはできませんので、確認してください。

Q0507: マスタイメージを配付中に、下記のエラーメッセージを出力し、マスタイメージの配付に失敗しました。原因と復旧方法を教えてください。

・ V13.1 以前のバージョン

```
FJSVrcx:ERROR:67200:rcximage:target:process was terminated because of error occurred on other node
```

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error. (rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftrm, rcxerrorno=82)
```

```
FJSVrcx:ERROR:68082:rcxsoftrm:execevt:socket time out
```

・ V13.2 以降のバージョン

```
FJSVrcx:ERROR:67200:rcximage:target:process was terminated because of error occurred on other node
```

```
FJSVrcx:ERROR:68282:rcxsoftrm:execevt:socket time out
```

A0507: マスタイメージの配付が完了する前にドメイン管理サーバをシャットダウンしていないか確認してください。再度イメージ配付することで、問題なくイメージを配付することができます。

Q0508: マスタイメージを配付中に、下記のエラーメッセージを出力し、マスタイメージの配付に失敗しました。原因を教えてください。

```
FJSVrcx:ERROR:68096:rcxsoftdeploy:request:lp powerctl set poff1(156):scwclierror
```

A0508: OS のバージョン(Linux カーネルの版数)と ServerView エージェントの版数の組み合わせが正しいか確認してください。

Q0509: マスタイメージ作成後、アプリケーションの起動に失敗します。原因と対処方法を教えてください。

A0509: マスタイメージ作成後、業務 LAN の IP アドレスの活性化処理より前に業務 LAN を使用するアプリケーションが起動された場合、アプリケーションの起動に失敗する場合があります。対処方法として、該当のサーバを再起動してください。

Q0510: バックアップイメージ採取コマンドを実行したところ、進捗 5% あたりで止まってしまい、バックアップが開始されません。原因と対処方法教えてください。

A0510: 管理対象サーバノード起動時に、LAN Teaming が組まれていたため、MAC アドレスの取得が適切に行えていない可能性があります。その場合は、LAN Teaming 解除後、“Deployment Agent” サービスを再起動してください。

Q0511: マスタイメージ名の変更を行うことによって、ミドルウェア連携に影響があるか教えてください。

A0511: マスタイメージ名を変更してもミドルウェア連携の動作には影響しません。

Q0512: バックアップイメージのリストアの際、対象のサーバは停止している状態で問題ないでしょうか。

A0512: リストアの際、対象のサーバは停止している状態でも問題ありません。

Q0513: バックアップイメージ作成時に、管理対象サーバノードは自動的に再起動されるのでしょうか。

A0513: 管理対象サーバノードは、バックアップイメージ作成時に自動的に再起動されます。なお、バックアップイメージの作成時の動作につきましては、ユーザズガイドの「7.2.3 バックアップ・リストアによる保守」を確認ください。

Q0514: マスタイメージ更新時に、下記のエラーメッセージが出力され失敗しました。

原因と回避方法を教えてください。

```
FJSVrcx:ERROR:67245:command:failed to execute the command on managed server. (mip=mip)
```

A0514: mip に示す管理対象サーバノードにおいて、以下の確認と対処を行ってください。

- ・管理対象サーバノードの OS が Linux の場合、`/sbin/ifconfig -a` コマンドを実行して、使用する LAN カードがシステムに正しく組み込まれているかを確認し、組み込まれていない場合には、Linux のインストールガイドに従って、LAN カードの組み込みを行ってください。
- ・管理対象サーバノードがダウンしていないかを確認し、ダウンしている場合には正しい OS でシステムを起動してください。
- ・管理対象サーバノードが正しい OS で起動されているかを確認し、正しくない場合には、各機種のマニュアルに従って BIOS の設定変更を行ってください。

上記の対処を行っても問題が解決しない場合には、当該メッセージ、および調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。

Q0515: マスタイメージの更新中にディスク枯渇が発生しエラーとなりました。他の空いている領域を使

用する方法を教えてください。

A0515: イメージ格納域を確保し(例: `/image` に領域を確保)、ドメインマネージャで、以下の手順を実施してください。

1) `/var/opt/FJSVscw-deploysv/depot` ディレクトリを変名します。

例) `# mv /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot.bak <RETURN>`

2) 用意したイメージ格納域へのシンボリックリンクファイルを

`/var/opt/FJSVscw-deploysv/depot` ディレクトリ配下に作成します。

例) `# ln -s /image /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot <RETURN>`

3) 手順 1) で変名したディレクトリ配下を、新イメージ格納域ディレクトリ配下にコピーします。

例) `# cp -r /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot.bak/* /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot <RET>`

4) マスタイメージの作成を実行し、マスタイメージが新イメージ格納域に格納されていることを確認してください。

格納されていない場合は、シンボリックリンクの設定が正しく行われていないことが考えられますので、見直しを行ってください。

<参考> 新イメージ格納域/`CLONEIMG/サーバグループ名@1` フォルダ配下に作成されます。

2世代、3世代については、サーバグループ@2、@3 とフォルダが作成されます。

5) 4) で問題ないことを確認できましたら、1) で変名したディレクトリを削除してください。

例) `# rm -rf /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot.bak <RETURN>`

Q0516: Logical Volume Management (LVM) のファイルシステムのマスタイメージ・バックアップイメージの作成・配付を行うことができますか。

A0516: LVM ファイルシステムをサポートしていませんので、マスタイメージ・バックアップイメージの作成・配付はできません。

Q0517: リソースコーディネータでバックアップした2代前のマスタイメージを配布する方法を教えてください。

A0517: ユーザーズガイド「7.2.2.6 旧版のマスタイメージ配付による復旧」に記載していますので参照ください。

Q0518: 現在使用している管理対象サーバノードの再構築のため、マスタイメージを配布したいのですが、同世代の版数のイメージが適用されているため、マスタイメージ配付でエラーとなります。対処方法を教えてください。

A0518: 一旦該当する管理対象サーバノードをサーバグループから削除し、再度サーバグループに登録してください。現世代のマスタイメージが配付されます。

Q0519: マスタイメージ作成で、68295 エラーメッセージが出力され、メッセージ集に従い対処しています。その中にある、業務 IP アドレスの活性化は、管理対象サーバノードの全ての業務 LAN に対して行う必要があるのでしょうか。

A0519: サーバグループ間接続ありなら、nrcsgipset で全ての業務 LAN の活性化が必要になります。グループ間接続なしなら、nrcsgipset の実行は不要です。

Q0520: マスタイメージがどのディレクトリに作成されているのか教えてください。

A0520: /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot/CLONEIMG ディレクトリ配下に作成されます。

Q0521: マスタイメージを配布した後、そのサーバノードのコンピュータ名、管理 LANIP アドレスは、サーバノード登録時の「ノード名」「IP アドレス」の設定値に変更されているのでしょうか。

A0521: マスタイメージを配布したサーバノードで、OS 上のホスト名や IP アドレスなどの固有情報を再設定していますので、コンピュータ名、管理 LANIP アドレスは、サーバノード登録時の「ノード名」「IP アドレス」になります。

Q0522: マスタイメージを配付する際、ディスクやパーティションを指定することは可能でしょうか。

A0522: ソフトウェアイメージ(マスタイメージ、またはバックアップイメージ)の採取、および配付の対象はブートディスク(1 台目のディスク)のみ対象となっています。

Q0523: マスタイメージの再配付を実行したところ、下記のエラーメッセージが出力され配付ができませんでした。

```
FJSVrcx:ERROR:67216:rcximage:server:already distributed
```

A0523: サーバグループのマスタイメージの世代番号と同じイメージ世代番号が既に配付先のサーバに配付されているため、マスタイメージの配付に失敗していないか確認してください。

Q0524: マスタイメージとバックアップイメージの配付は、複数同時に動作可能か教えてください。

A0524: バックアップイメージとマスタイメージの配布処理は、合わせて 4 多重まで並行処理が可能です。

Q0525: マスタイメージの複写は、複数同時に動作可能でしょうか。

A0525: マスタイメージの複写は、複数同時に動作しません。複数実行させた場合、1 つ目の処理が完了するまで、2 つ目以降の処理は待機状態となります。

Q0526: システムボリューム以外をマスターとしてバックアップする方法を教えてください。

A0526: ソフトウェアイメージの採取、および配付の対象はブートディスクのみとなります。ブートディスク以外のデータディスクについては、別の手段でバックアップの採取および配付してください。

Q0527: 1つのLogicalVolumeに対し、Windowsで2つの論理ドライブ(Cドライブ、Dドライブ)を割り当てた場合、イメージ採取/配付・バックアップ/リストア等に問題がないか教えてください。

A0527: 特に問題はありません。対象は、1つのLogicalVolume(1本のブートディスク)のみとなります。イメージ採取/配付・バックアップ/リストアに問題はありません。

Q0528: マスタイメージ、およびバックアップの世代数を変更する方法を教えてください。

A0528: ユーザーズガイド「7.2.4.1 イメージ管理世代数の変更【Linux/Windows】」を参照してください。

Q0529: イメージ採取では、使用していない領域のデータも採取されるのでしょうか。

A0529: 使用している領域のみ採取します。したがって、イメージファイルの採取時間やサイズは、使用量によって異なります。

Q0530: 管理サーバに格納されているバックアップイメージはどのように削除すればいいのでしょうか。バックアップイメージが格納されているディレクトリにアクセスしてイメージファイルを削除してもよいのでしょうか?

A0530: rcximage delete コマンドで削除してください。

詳細は、コマンドリファレンス「5.4 rcximage 【Linux/Windows】」を参照してください。

```
rcximage delete -domain domain -group group -node node -type backup -version version
```

## 6. 自動リカバリ関連

---

Q0601: 自動リカバリの発生条件を教えてください。

A0601: デフォルトの設定では、ユーザズガイド「5.3.2 自動リカバリ」に記載している通り、「ハードウェアで異常が検出され、かつ、OS が動作していないと判断した場合」に自動リカバリが実施されます。

他の条件で自動リカバリを実施したい場合は、ユーザズガイド「付録D シェル連携機能」のスク립トで、rcxspsvr コマンド(コマンドリファレンス「5.5 rcxspsvr」)を発行することにより、実現できます。

Q0602: PRIMERGY を使用している場合、故障が検出可能な管理対象サーバノードのハードウェアを教えてください。

A0602: PRIMERGY の場合、「ServerView ユーザズガイド」の「1.1.1 ハードウェアの監視」の「■監視できるハードウェア」の「表:ハードウェアコンポーネント」を参照ください。

Q0603: 管理対象サーバノードの OS がハングアップ(Linx:OS ハング, Windows:ブルースクリーン)状態になった場合、自動リカバリが自動検知し、復旧可能か教えてください。

A0603: ハードウェア異常と OS の動作状況により自動リカバリが発生いたしますので、OS のハングアップ状態だけでは自動リカバリは発生いたしません。

Q0604: 予備機が複数台存在します。同じサーバに対して自動切り替え操作を行っても、切り替え先の予備機が異なる場合があります。切り替え先の予備機を選択の方式を教えてください。

A0604: 自動リカバリの切替え時、代替サーバとして選出される管理対象サーバノードは固定ではなく、ユーザズガイドの「5.3.2 自動リカバリ」の「・サーバプールグループに存在する管理対象サーバノード(代替サーバとなる条件)」に記載されている条件に一致するサーバのいずれかが選出されます。選出順序は、以下の操作により管理対象サーバノードがサーバプールグループに追加された順序となります。

- ・管理対象サーバノードの移動
- ・管理対象サーバノードの、サーバグループからの削除
- ・自動リカバリによりプールグループに移動する

複数の予備機があり、いずれかの予備機を意図的に代替サーバとしたい場合は、それ以外の予備機の電源を落としたあと、自動リカバリの切替えを行ってください。

Q0605: 自動リカバリが発生し、切戻し操作を行おうとしましたが、GUI 画面で切戻し項目が選択できない状態です。対処方法について教えてください。

A0605: 切替え操作途中で管理サーバの電源が落ちたなどの理由により、切替えが完了していない可能性

があります。その場合は、切替え操作を再実行することで、切替え操作が中断された処理から開始されます。切替え操作の完了メッセージを確認したのち切戻し操作を実施してください。

Q0606: 自動リカバリ実施後、サーバプールグループに移動したサーバの電源が入らず、電源断の状態となります。原因を教えてください。

A0606: 自動リカバリの切替え操作後プールに移動したサーバは、通常ハード保守が行われるため電源断にしています。仕様どおりの正常な動作です。

Q0607: 運用管理クライアントで、“操作”-“自動リカバリ操作”-“切り替え”を行った時の動作は、自動で実施される自動リカバリと同様の動作になりますか。

A0607: 同じ動作となります。

Q0608: 自動リカバリ、あるいは、切り戻しで、下記のエラーメッセージが出力され失敗しました。原因と回避方法を教えてください。

```
FJSVrcx:ERROR:61118:original_server:automatic server recovery to spare_server failed.  
code=str1, str2, str3
```

あるいは

```
FJSVrcx:ERROR:61126:spare_server:failback of automatic server recovery to  
original_server failed. code= str1, str2, str3
```

A0608: code=str1, str2, str3の部分から、下記のチェックを実施してください。

- ・ code=script execution error, /opt/FJSVrcxmr/sys/change\_swbinfo, 30 の場合  
 下記のファイルの内、MACADDR 定義が誤っているものが無いか確認してください。  
 /etc/opt/FJSVrcxmr/autorecover/サーバドメイン名/swport\_mac.conf
- ・ code=script execution error, /opt/FJSVrcxmr/sys/change\_swbinfo, 40 の場合
  - ネットワークスイッチブレードに電源が入っているか確認してください。
  - ネットワークスイッチブレードがハングしていないか確認してください。
  - サイト管理サーバとネットワークスイッチブレード間の通信経路は正常か確認してください。
  - ネットワークスイッチブレードの SNMP 設定が正しいか確認してください。
- ・ code=code=SAN reconfiguration failed, set, swsag0115 の場合
  - 代替サーバの HBA が[アクセスパス継承必要]の状態でないか確認してください。  
 継承が必要な場合は、代替サーバの HBA 削除(HBA を選択しマウス右クリックのメニューから削除を選択:複数 HBA がある場合はすべて削除)後に、再度、手動による自動リカバリの切替え/切り戻しを実施してください。
  - RAID 装置を管理する場合、使用する HBA、OS の版数に合った SNIA HBA API ライブラリを使用する必要があります。SNIA HBA API ライブラリが正しいものか確認してください。OS をアップグレードしたことにより非対応の版数になったため失敗した事例もあります。

- ・ code=SAN reconfiguration failed, set, swsag0215 の場合  
 ストレージ機器にログインしている状態のため、アクセスパスの切替えに失敗した可能性が高いです。ログインを解除して、再度実行してください。
- ・ code=SAN reconfiguration failed, set, 62041 の場合  
 FC スイッチのファームが、v5. 1. 1b か v5. 3. 0d ではないか確認してください。当該バージョンは、緊急修正を提供することでサポートしています。緊急修正を適用してください。
- ・ code=SAN reconfiguration failed, set, 62042 の場合
  - サーバの FC 接続がリンクアップしているか(ハード故障含む)確認してください。
  - FC スイッチは正しく動作しているか確認してください。
- ・ code=SAN reconfiguration failed, set, 62051 の場合  
 ファイバチャネルカード(HBA)のドライバ版数がサポートしている版数か確認してください。サポートしている版数は、ハンドブック“2. 管理可能なHBA”に記載されています。HBAドライバは、“<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>”から入手してください。
- ・ code=SAN reconfiguration failed set 62066 の場合  
 自動リカバリ時に FC スイッチのハードトラブルでゾーニング削除に失敗している可能性があります。ハード部隊にスイッチのエラー状況を確認願います。HBA が黄色になって、アクセスパス継承になっている場合は、サイドビューで当該 HBA を選択して削除(アクセスパスのある方はアクセスパス削除指定)してから、F5 で更新を行い、切り戻しを再実行してください。
- ・ code=boot timeout, info, 97 の場合  
 代替サーバの起動待ち合わせが、タイムアウト(15分)したため、自動リカバリの切替えが異常終了(61118のメッセージ、boot timeout)しています。自動リカバリの切替えを、再度実行してください。代替サーバで起動済の業務 OS へは影響を与えません。  
 タイムアウトが発生した原因は、リソースコーディネータで管理している、各装置(サーバ、ストレージ、FC スイッチ)の管理 LAN の IP アドレスから、名前解決を行うために時間がかかっていることが原因の可能性があります。下記の確認・対応を行ってください。
  - 名前解決に DNS を使用していない環境の場合  
 hosts ファイルに、管理 LAN の IP アドレス(サーバ、ストレージ、FC スイッチなど)と名前が記載されているか確認してください。記載されていない場合は、追記してください。
  - 名前解決に DNS を使用している環境の場合  
 リソースコーディネータで管理している各装置(サーバ、ストレージ、FC スイッチ)が DNS で名前解決できるか確認してください。できない場合は、DNS で名前解決できるように設定してください。
- ・ code=boot disk(TMPOS):set:7 の場合  
 必要なプロセス(デーモン)が起動していない可能性があります。A0903 のプロセスが起動しているか確認してください。



- ・ code=Server boot failed の場合

[Q0617](#) を参照してください。

- ・ code=Internal error set 99999 の場合

切替え先のサーバ(“サーバ名”.origin)への電源の切断処理が完了しなかったためエラーメッセージが出力されております。サーバ切戻しを再実行し、切替え先のサーバが電源断されることを確認してください。

電源の切断処理が完了しない原因はハードウェア要因の可能性が高く、BX620 S3/S4 のファームウェア版数のアップグレードを検討ください。

Q0609: 予備ブレードのモデル名が運用ブレードと異なるため、自動リカバリが失敗します。

原因と対処方法を教えてください。

A0609: サーバのモデル・OS(カーネルの版数)の組み合わせをサポートしている ServerView エージェントのバージョンであるか確認してください(運用の OS とプール管理 OS の両方)。

ServerView エージェントは、以下からダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

Q0610: ハード故障が発生し、ずいぶん時間が経ってから、自動リカバリが発生しました。

どうしてでしょうか。

A0610: ハード故障が発生した際、下記の条件の内、「OS が動作していないと判断した」という条件に合致しなかったと思われます。

- ハードウェアで異常が検出され、かつ、OS が動作していないと判断した、場合。

その後、保守モードへ移行せず、OS を停止させた時、本条件にマッチし、自動リカバリが実行されたと思われます。

Q0611: 自動リカバリで切り替えが発生した場合の、障害が発生したサーバのハード障害時の確認方法について教えてください。

A0611: ユーザーズガイド サーバ管理編「6.1 対処手順」を確認し対処を行ってください。

Q0612: 自動リカバリで切り替えが発生している最中に、停止しているサーバの電源を入れたところ、自動リカバリ機能での切り替えに失敗しました。原因を教えてください。

A0612: 切り戻し処理の最初に停止された代替サーバが、切り戻し中に再度業務サーバとして起動されると、リソースコーディネータのマネージャ上の情報と実際のサーバの状態とで違いが生じ、その後の切り戻し処理に問題が発生します。切り戻しが完了するまで、対象のサーバに対して電源操作を行わないでください。

Q0613: 自動リカバリでブレードサーバの切り替えが完了後、管理対象サーバノード名と管理 LAN の IP

アドレスの対応は入れ変わらずに、管理対象サーバノード名と筐体名/スロット番号との対応が入れ替わるのでしょうか。

A0613: 自動リカバリ後は、管理対象サーバノード名と管理 LAN の IP アドレス以外の下記の値が入れ替わります。

- ・ 入れ替わったブレードサーバの筐体と同じ場合  
MAC アドレス、スロット番号
- ・ 入れ替わったブレードサーバの筐体が異なる場合  
MAC アドレス、スロット番号、筐体名、筐体 ID、管理装置の IP アドレス

Q0614: 複数の自動リカバリ連携スクリプトが配置ディレクトリに配置されていた場合、その自動リカバリ連携スクリプトは同時に実行されるのでしょうか。

A0614: 1つの「自動リカバリ連携スクリプトの起動～実行完了～自動リカバリ連携スクリプトの終了コード判定」を待ち合わせて、次の自動リカバリ連携スクリプトが起動されます。同時には実行されません。

Q0615: 複数の自動リカバリ連携スクリプトが配置ディレクトリに配置されていた場合、自動リカバリ連携スクリプトのタイムアウト値はどこからどこまでの時間となりますか。

A0615: 個々の自動リカバリ連携スクリプト1つ1つでの起動から実行完了までのタイムアウト値となります。

Q0616: 自動リカバリの切り戻しで、下記のエラーメッセージが出力され失敗しました。

原因と回避方法を教えてください。

```
FJSVrcx:INFO:21116:サーバ.spare:starting failback of automatic server recovery to サーバ.origin
```

A0616: FC スイッチなどのストレージ機器の情報取得で通信のタイムアウトが発生している可能性があります。ネットワーク環境に問題が無いか確認してください。ネットワーク回線が細い場合は、sanma.conf のタイムアウト設定を大きくすることで回避することができます。設定値の反映については、ユーザズガイド ストレージ管理編 「D.2 sanma.conf パラメータ説明」をご確認ください。

【例】

```
(修正前) SNMP_READ_TIMEOUT = 4000;
```

```
(修正後) SNMP_READ_TIMEOUT = 8000;
```

Q0617: 自動リカバリで、下記のエラーメッセージが出力され失敗しました。

原因と対処方法を教えてください。

```
FJSVrcx:ERROR:61118:サーバ:automatic server recovery to サーバ.failed.
```

code=Server boot failed

または

FJSVrcx:ERROR:61125: サーバ:failed to shutdown. code=コード

A0617: 下記のいずれかの可能性があります。

- マネージメントブレードと通信できず、電源状態の取得に失敗  
ping テストなどでネットワーク状態を確認してください。

- ファームの問題で、電源制御コマンドがタイムアウト  
ファームの版数を確認してください。

※BX620 S3/S4 の電源制御エラー修正版の BMC ファーム

PRIMERGY BX620 S3 BIOS 3B26/BMC 3B34/LAN Firmware 3.0.0, BX620 S4 BIOS 3A14/BMC 3A12

Update tool

- マネージメントブレードの SNMP のコミュニティに read 権しかなく write 権がないため電源制御に失敗

マネージメントブレードの SNMP のコミュニティに write 権があるか確認してください。

Q0618: 自動リカバリで、切り替えを指示すると、下記のような Warning メッセージが出力されます。

また、切り戻しを指示しても Warning が出力されます。原因と対処方法を教えてください。

- 切り替え中

SSC 42010 node: failed to release storage resource (swsag0101)

- 切り替え終了時

FJSVrcx:WARNING:41117:node:automatic server recovery to node completed.

code=SAN reconfiguration failed, 42010

A0618: インストールガイドに記載している下記の OS パッチが適用されているか確認してください。

6.2.1.2.3 必須パッチ【Windows】

KB922772

Q0619: サーバグループ内の複数サーバが同時に故障した場合、自動リカバリの切替えが可能なのは最初の 1 台のみという仕様でしょうか。

A0619: 同一サーバグループ内で自動リカバリ切替えが発生した管理対象サーバノードが存在する場合、復旧作業(切戻し or 継続)を行わない限り、該当サーバグループ内で自動リカバリによる切替えや、切替え操作はできないという仕様です。

Q0620: 切戻し操作を行うと下記のエラーが表示されて切り戻しが失敗します。

FJSVrcx:ERROR:67181:rcxspsvr:svr:is not server pool management OS mode exit code=84

A0620: 切戻し先のサーバがサーバプール管理 OS で起動した際の SNMP トラップがサイト管理サーバに届いていない可能性が高いです。サイト管理サーバとドメイン管理サーバ上で、SNMP トラップ

デーモンが動作しているか確認し、トラップ転送プログラムを使用している場合はその設定も見直してください。

Q0622: 自動リカバリの切替え時に、サーバプール管理 OS の起動に失敗します。  
原因と対処方法を教えてください。

A0622: ドメインマネージャ以外のサーバから DHCP 要求が届いたため、サーバプール管理 OS の起動に失敗している可能性があります。管理 LAN 上でほかの DHCP サーバから IP アドレスが割り振られていないか確認してください。

Q0623: 自動リカバリの切替え操作を実施したところ、ERROR:62043 を出力し切替えに失敗します。  
原因と対処方法を教えてください。

A0623: 切替え先サーバの HBA の WWN が既にストレージ装置の HostAffinity に設定されていないか確認してください。設定されている場合は、ETERNUSmgr から該当の HostAffinity を削除した後に、切替えを再実施してください。

Q0624: サーバグループからディスク保持モードでサーバを削除して、ディスク保持した状態の代替サーバを他のサーバグループと自動リカバリで切替えることは可能でしょうか。

A0624: 自動リカバリの代替サーバとなる条件に、当てはまらないのでできません。詳しくはユーザーズガイド「5.3.2 自動リカバリ」を参照してください。

Q0625: 自動リカバリの切替えを行ったところ、切り替え先サーバの LinuxOS の起動時にハードウェア自動認識 (LAN インタフェース) が走り、設定画面が出てきて手動操作介入が必要になりました。  
原因と対処方法を教えてください。

A0625: 管理用ネットワークインタフェースが MAC アドレスにバインドされる設定になっているために発生した可能性があります。インストールガイドの「6.1.3.1 インストール前準備【Linux】」の内容にしたがって確認し、問題がある場合は修正してください。

## 7. 運用時エラー

---

Q0701: 運用管理クライアントのイベントログに、“user authentication failer”というメッセージが表示されており、警告ランプが点灯しています。原因と対処を教えてください。

A0701: 下記の確認を実施してください。

- ・メッセージを表示している装置の SNMP 設定を確認してください。
  - SNMP コミュニティ名がリソースコーディネータに登録したものと合っていますか。
  - ドメイン管理サーバから SNMP アクセス可能な設定になっていますか。(local からのアクセスのみになっていませんか?)
- ・SNMP コミュニティ名に“public”以外を使用している場合、ユーザズガイド ストレージ管理編の「D.2 sanma.conf パラメータ説明」を参照して、値を確認してください。  
SNMP\_COMMUNITY\_NAME\_FOR\_IP のコミュニティ名 (READ 方向) に設定が必要です。
- ・local ホストからの SNMP コミュニティ名 (public) を許可することにより、解消される場合があります。  
例) /etc/snmp/snmpd.conf に下記の行を追加。  
com2sec svSec localhost public
- ・上記設定が正しい場合は、リソースコーディネータ以外から異なった SNMP コミュニティ名でアクセスされていることが考えられます。(過去、Systemwalker Service Quality Coordinator からのアクセスで当該エラーが 15 分おきに、Systemwalker Centric Manager からのアクセスで当該エラーが 10 秒間隔で発生したケースがありました)。  
MICROSOFT NETWORK MONITOR などのツールを使用して、SNMP アクセスしている機器/ソフトウェアを見つけ、原因を取り除いてください。

Q0702: 運用管理クライアントのイベントログに、“Boot retry counter zero”というメッセージが表示されています。原因と対処を教えてください。

A0702: 当該サーバにインストールしている ServerView の適応機種/適応 OS に合っているか確認してください。

ServerView エージェントは、以下からダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

Q0703: 運用管理クライアントのイベントログに、下記のエラーメッセージが出力されました。原因を教えてください。

FJSVnetsr:WARNING:44501:no response detected on tcp connection.

[if=/F,Event-ID=/D,Local-IP=/P,Remote-IP=/P]

A0703: TCP コネクションにおいて、通信途絶を検出したため、44501 のメッセージが出力されました。rcxnetmon tcpinfo コマンドを実行し、ネットワーク異常が発生していないか確認してください。

Q0704: 運用管理クライアントのイベントログに、下記のエラーメッセージが出力されました。  
原因を教えてください。

FJSVrcon:ERROR:0002: Please check the logging file disk space.

A0704: ログ採取機能(rc2kd\_log)のチェックで、ログ格納ディレクトリ(/var)の使用量が、95%を超えたため出力しています。ログ格納ディレクトリ(/var)配下を90%以下になるようにしてください。

Q0705: 運用管理クライアントのイベントログに、下記のエラーメッセージが出力されました。  
原因を教えてください。

WARNING NAME:ZONE-*ID* WARNING PORTNO OUT OF COME ENTRIES IN MODEL.

A0705: FCスイッチのSNMPトラップによるイベントメッセージです。WWPNゾーニングとポートゾーニングが混在している場合、ゾーニング設定変更のたびに、本メッセージが出力されます。

Q0706: 自動リカバリの切り替え処理中に、運用管理クライアントのイベントログに、  
「ZONE-*ID* WARINING - *WWWN*(*WWWPN*名) in HARD PORT zone *ゾーン名*」と出力されます。自動リカバリ処理は問題なく完了しています。本メッセージの意味と影響を教えてください。

A0706: WWPNゾーニングとポートゾーニングが混在している場合、ゾーニング設定変更のたびに、本メッセージが出力されます。本メッセージはFCスイッチのSNMPトラップによるイベントメッセージです。リソースコーディネータはWWPNゾーニングで設定しますので、ポートゾーニングが追加されていると思われるゾーニング設定変更が生じる操作(サーバ追加/削除、自動リカバリ切り替えなど)で出力されますが、リソースコーディネータの動作および業務に特に影響はありません。

Q0707: 運用管理クライアントのイベントログに、二重通知されていると思われるメッセージが出力されています。原因、対処方法等を教えてください。

A0707: サイトマネージャとエージェントの兼用環境の場合、リソースコーディネータの仕様で2重表示となるため、特別な対処は必要ありません。「リソースコーディネータメッセージ集」に以下の記載をしています。

611XX系および613XX系のメッセージは、リソースコーディネータ画面のイベントログにも表示されます。サイトマネージャとエージェントの兼用環境では、リソースコーディネータからシステムログに出力したメッセージが、リソースコーディネータ画面のイベントログにも表示されます。

Q0708: 運用管理クライアントで「ヘルプ」を押下しても、エラーメッセージが出力されヘルプ内容が出力されません。

A0708: 下記を確認してください。

- ・クライアントインストール時の設定 (Eclipse ヘルプ・システムを利用するための設定) を実行しているか。  
→設定していない場合は、インストールガイド「5.3.1 Eclipse ヘルプ・システムを利用するための設定」を参照して、設定してください。
- ・クライアントインストール時の設定と現在使用しているクライアントの IP アドレスが変わっていないか。  
→変わっている場合は、現在使用しているクライアントの IP アドレスか、ホスト名を再定義してください。

Q0709: サーバをグループへ追加後、一旦はマルチパスで動作しますが、ある時点から 1 つのパスが削除されてしまう現象が発生しました。原因を教えてください。

A0709: ストレージのハード系の問題だと思われます。ハードからの調査をお願いします。疑わしい点としては、以下が考えられます。

- ・パスを経由する、F C スイッチや、ストレージの異常の有無を確認
- ・各装置間のリンクスピードの設定の確認

その他の観点については、ハード担当に問い合わせさせていただきようお願いします。

Q0710: ログイン画面で『ユーザ』『パスワード』を入力したところ、『認証チェック中』と表示されたまま、30 分以上経ってもログインされません。

A0710: サイトマネージャのリソースコーディネータのデーモンが停止している可能性が高いです。

下記のコマンドでデーモンの動作を確認してください。

```
# /bin/ps -ef | grep /opt/FJSVssmgr/jre/bin/java | grep cruiser=daemon | grep -v grep
```

AlarmService をインストールした場合、SNMP Trap を転送する“ServerView トラップ転送プログラム (trpsrvd)” を使用して、ポート変更と SNMP トラップの転送を行ってください。使用しない場合、リソースコーディネータのデーモンは起動できません。

Q0711: 運用管理クライアントの論理タブから、[サイト]-[管理]-[(サイト管理サーバ名)] を選択して、右クリックでプロパティを表示させると、「管理 LAN (IP アドレス)」の値が、業務 LAN の IP アドレスになっています。

A0711: サイト管理サーバに、Network Interface Card (NIC) が複数搭載されており、業務 IP アドレスを設定した NIC のバインド順が、最初(最優先)になっている場合、このように表示されます。

Q0712: 停電発生後、サーバの電源を入れて起動させたところ、管理対象サーバノードで業務 OS が起動せず、サーバプール管理 OS で起動します。原因と対処方法を教えてください。

A0712: 停電前に自動リカバリ発生しており、自動リカバリが完了する前に管理サーバの電源が落ちたため、自動リカバリの切替え処理が完了していない可能性があります。自動リカバリが実行された

サーバで、自動リカバリの切替えを再実行してください。

Q0713: 下記のエラーメッセージが出力されていました。メッセージ集には「ソフトウェアの内容が異なる」場合と記述されていますが、起動ディスクとマスタイメージの何を比較するのですか。また、チェックするタイミングはいつなのでしょう。

FJSVrcx:WARNING:41110:server:disk image is different from the master image of *svrgroup*

A0713: OS にインストールされているアプリケーションやシステムファイルなどを比較しているわけではなく、リソースコーディネータで管理しているイメージの「名前」を比較します。また、保守モードが解除されている状態(active)で、サーバの状態が stop/unknown から、stop/unknown 以外の状態に変わるとに、チェックを実施します。サーバの再起動にて、本来動作すべきイメージ(OS)で起動していないことを警告するために、上記タイミングとしています。

Q0714: swsag4209 あるいは swsag4821 のメッセージが出力されました。原因と対処方法について教えてください。

A0714: 「メッセージ説明書 ストレージ管理編」に記載の通り、イベントトラップを検出しています。装置添付のマニュアルを参照し、問題が解決しない場合は GE に連絡してください。

Q0716: Authentication Failure というエラーメッセージが出力されています。原因と対処方法を教えてください。

A0716: エラーメッセージを出力したサーバに対して、設定された SNMP コミュニティ名以外による SNMP アクセスが行われています。[Q0701](#)を参照してください。

Q0717: 運用管理クライアントのイベントログに下記のエラーメッセージが出力されています。原因と対処方法を教えてください。

FJSVrcx:ERROE:61121:NODE:server node status is changed to error

A0717: 管理対象サーバノード(ServerView)あるいは管理装置(マネージメントブレード)から、SNMP トラップが通知され、当該の管理対象サーバノードのステータスを変更しています。メッセージ集とユーザズガイドを参照して、リソースコーディネータ画面またはコマンドを使用して故障箇所を特定してください。(ハードウェア異常が発生していないか、マネージメントブレードと ServerView で確認をしてください。)

Q0718: 「ファイバチャネルポートの状態が不明になりました。」というメッセージがリソースコーディネータ管理画面に出力されていました。原因と対処について教えてください。

A0718: 運用管理サーバで、ハードウェア異常を検出したため、クライアントに異常を通知しています。故障発生ハードウェアに対する保守作業を実施してください。



Q0719: 保守モードの解除ができません。この原因と対処方法を教えてください。

A0719: 下記の確認を実施してください。

- マスタイメージの作成が失敗したままになっていないか
- サーバの追加が失敗したままになっていないか

上記操作が失敗したままでは保守モードは解除できません。失敗の原因を取り除き、作業を成功させた後、保守モードを解除してください。

Q0720: サイトマネージャ起動後にクライアントから接続を実行したところ、「マネージャは初期化処理中です・・・」のメッセージが表示され、ログインにかなりの時間がかかります。

原因と対処方法を教えてください。

A0720: 「マネージャは初期化処理中です・・・」のメッセージが表示されログインできていないタイミングで、イベントログに“21115”が出力されているか確認してください。出力されていない場合、サイトマネージャの起動完了に時間がかかっているため、クライアントからの接続ができないと思われる。以下の問題が考えられますので、対処を実施してください。

- ネットワークに異常が発生している: pingなどで状況を確認してください。
- DNS サーバの記述が間違っている: DNS の設定を確認してください。

Q0721: 下記のようなイベントが記録されています。原因を教えてください。

FJSVrcx:INFO:21105:サーバ名:server node status is changed to unknown

Connection Timeout

Cold Start Trap

Link Up Trap

FJSVrcx:WARNING:41104:failed to get the service information from サーバ名

FC Port No. 番号 Online

Unit status changed: OK

FJSVrcx:INFO:21105:サーバ名:server node status is changed to normal

A0721: サーバ名のサーバが再起動した際のイベントと思われる。サーバ再起動に心当たりがあるならば、特にこれらのメッセージは問題ありません。

Q0722: “rcxinfo -type server -sync”コマンドを実行すると、管理対象サーバで Windows のイベントログに、Symfoware のエラーメッセージが出力されます。原因について教えてください。

A0722: Symfoware がインストールされており、デフォルトの RDB システム名が存在しない環境で、rcxinfo -sync コマンドを実行した場合、イベントログに Symfoware のエラーメッセージが出力されます。原因は、内部的に Symfoware の “rdbprt -m DB” コマンドを発行しており、情報採取対象となる「デフォルトの RDB システム名」が存在しない為、エラー情報として Symfoware のエ

ラーメッセージが出力されます。rcxinfo コマンドの仕様です。イベントログを無視する(表示しないように定義ファイルを修正も可)か、デフォルトの RDB システム名を定義してください。

## 8. 変更/交換

---

Q0801: OS やハードのアカウント/パスワードを変更した場合、リソースコーディネータで対処が必要か教えてください。

A0801: 下記を参照ください。

- ・リソースコーディネータの管理 ID/パスワード  
ユーザズガイド「5.4 運用管理アカウントの設定」を参照ください。
- ・運用管理クライアントの Windows OS の ID/パスワード  
リソースコーディネータで必要な作業はありません。
- ・サイト管理サーバ/ドメイン管理サーバの OS の ID/パスワード  
リソースコーディネータで必要な作業はありません。

Windows マネージャ版で、Systemwalker Resource Coordinator サービスのスタートアップアカウントに登録したアカウント/パスワードを変更した場合のみ、下記の作業が必要となります。

RC デーモン (Win32 サービス) のログオンアカウントを変更します。変更しなかった場合、RC デーモンの起動が失敗します。

- Systemwalker Resource Coordinator Domain Manager
- Systemwalker Resource Coordinator Request Delivery Service (\*1)
- Systemwalker Resource Coordinator Site Manager

\*1: このサービスは、サイト兼ドメインマネージャの環境では起動不要なため、起動しないでください。

以下の方法で、3つのサービスのログオンアカウントのパスワードを、それぞれ変更します。パスワードを変更後は、「Systemwalker Resource Coordinator Domain Manager」、「Systemwalker Resource Coordinator Site Manager」のサービスを再起動してください。

- (1) [スタート]->[設定(S)]->[コントロール パネル(C)]->[管理ツール]から、[サービス]を起動します。
- (2) [サービス]の一覧画面から、「Systemwalker Resource Coordinator Site Manager」を選択し、ポップアップメニューから[プロパティ(R)]を選択します。
- (3) (2)の操作で表示されたプロパティ画面で、[ログオン]タブを選択します。
- (4) [アカウント(T)]に記載されているユーザ名が、パスワードを変更したユーザであった場合は、[パスワード(P)]と[パスワードの確認入力(C)]に変更したパスワードを入力し、[適用(A)]ボタンを押下します。

- ・管理対象サーバノードの OS の ID/パスワード  
リソースコーディネータで必要な作業はありません。
- ・管理対象サーバノード (PRIMEQUEST) の IPMI パスワード  
"/etc/opt/FJSVpsmf/etc/psmf.conf"の更新、および定義反映コマンドを実行してください。

- ・管理装置(マネージメントブレードなど)の ID/パスワード  
リソースコーディネータで必要な作業はありません。
- ・ネットワークスイッチの ID/パスワード  
ユーザズガイド「8.13.2.3 サーバドメイン間の接続のスイッチングハブ設定内容の変更」を参照ください。
- ・ETERNUS の ID/パスワード  
「ユーザズガイド ストレージ管理編」の「9.1.2.8 サポート装置のパスワード変更」を参照し作業を行ってください。
- ・FC スwitch の ID/パスワード  
「ユーザズガイド ストレージ管理編」の「9.1.2.8 サポート装置のパスワード変更」を参照し作業を行ってください。
- ・プール管理 OS の ID/パスワード  
下記の手順で変更してください。
  - 1) ドメイン管理サーバに管理者権限でログインします。
  - 2) ドメイン管理サーバの以下のファイルを記載のとおり変更してください。  
 /etc/exports  
 [編集内容]  
 (編集前)  
 /diskless/i386/RHEL3/default/root 予備ブレードの IP アドレス(ro, sync, no\_root\_squash)  
 (編集後)  
 /diskless/i386/RHEL3/default/root 予備ブレードの IP アドレス(rw, sync, no\_root\_squash)  
 注) 予備ブレードの IP アドレスは、サーバプールグループに存在している管理対象サーバノードの IP アドレスです。任意の 1 台で結構です。
  - 3) 以下のコマンドを実行します。  
 # **exportfs -r**
  - 4) 編集した IP アドレスに対応する予備ブレード以外のサーバプールに存在する管理対象サーバノードを停止します。
  - 5) 編集した IP アドレスに対応する予備ブレードに管理者権限でログインします。
  - 6) 以下のコマンドを実行します。  
 # **mount -o remount -o rw /**
  - 7) 以下のコマンドで新しい管理者のパスワードに変更します。(変更確認は再ログインするなど実施してください)  
 # **passwd**  
 Changing password for user root.  
 New UNIX password: **パスワード**  
 Retype new UNIX password: **パスワード**

```
passwd: all authentication tokens updated successfully.
```

8) 本手順を実施した予備ブレードを停止します。

9) ドメイン管理サーバ上で 2) で編集した内容を元の値に戻します。

(編集前)

```
/diskless/i386/RHEL3/default/root 予備ブレードの IP アドレス(rw, sync, no_root_squash)
```

(編集後)

```
/diskless/i386/RHEL3/default/root 予備ブレードの IP アドレス(ro, sync, no_root_squash)
```

10) 以下のコマンドを実行します。

```
# exportfs -r
```

11) 手順 4), 8) で停止した管理対象サーバノードをすべて起動します。

Q0802: OS やハードの IP アドレスを変更した場合、リソースコーディネータで対処が必要か教えてください。

A0802: 下記を参照ください。詳細は、ユーザズガイド「付録 0 設定した IP アドレスの変更」を参照ください。

- ・ サイト管理サーバの管理 IP アドレス

ユーザズガイド「付録 0 設定した IP アドレスの変更」の「■管理サーバ」を参照ください。

- ・ ドメイン管理サーバの管理 IP アドレス

ユーザズガイド「付録 0 設定した IP アドレスの変更」の「■管理サーバ」を参照ください。

- ・ 管理対象サーバノードの管理 LAN の IP アドレス

- プロビジョニングを利用している管理対象サーバノードの IP アドレスは変更できません。管理対象サーバノードの削除後、再登録をお願いいたします。

- サーバプロビジョニングを利用しない管理対象サーバノードは、ユーザズガイド「8. 3. 3 IP アドレスの変更」を参照してください。

- ・ 管理対象サーバノードの業務 LAN の IP アドレス

ユーザズガイド「8. 16 業務 LAN の構成変更」を参照ください。

- ・ ネットワーク機器の IP アドレス

ユーザズガイド「8. 16 業務 LAN の構成変更」を参照ください。

- ・ ストレージ機器の IP アドレス

ユーザズガイド ストレージ管理編を参照してください。

- ・ 管理装置(マネージメントブレードなど)の IP アドレス

IP アドレスは変更できません。管理対象サーバノードの削除後、再登録をお願いいたします。

Q0803: 管理対象サーバノードの管理 LAN の IP アドレスを変更したところ、リソースコーディネータの管理画面から何も見えなくなっていました。設定変更方法を教えてください。

A0803: サーバプロビジョニングを利用しない管理対象サーバノードは、「8. 3. 3 IP アドレスの変更」の

手順で、管理 LAN の IP アドレスを変更できます。サーバプロビジョニングを利用している管理対象サーバノードの IP アドレスの変更を行うことはできません。

Q0804: /etc/sysctl.conf の設定 (net.ipv4.ip\_local\_port\_range) を、1024~65000 から変更したいのですが、影響があるか教えてください。

A0804: リソースコーディネータが利用しているポート番号をポート利用レンジに含めない (net.ipv4.ip\_local\_port\_range を 32768~61000 の範囲にする) ならば問題ありません。

Q0805: 管理対象サーバノードのホスト名の変更方法を教えてください。

A0805: リソースコーディネータ上で管理している名前を変更する場合には、管理対象サーバノードの再登録が必要となります。

OS 上だけのホスト名を変更する場合には、ユーザズガイド「8.3.1 システムノード名、またはコンピュータ名の変更」を参照してください。管理サーバ(マネージャ)で必要な作業はありません。

プロビジョニングを利用しない場合は、リソースコーディネータで必要となる作業は、管理サーバ(マネージャ)、管理対象サーバノード(エージェント)ともありません。

また、ユーザズガイドの「8.3.1 システムノード名、またはコンピュータ名の変更」で Windows の場合の記載に不備がありました。以下の手順で変更をお願い致します。

・ Windows2003 の場合

[スタート]-[コントロールパネル(C)] を選択します。

“システム”を開き、システムのプロパティ画面の、[コンピュータ名] タブをクリックし、[変更...] をクリックし、[コンピュータ名] に変更するコンピュータ名を入力します。

・ Windows2000 の場合

[スタート]-[コントロールパネル(C)] を選択します。

“システム”を開き、システムのプロパティ画面の、[ネットワーク ID] タブをクリックし、[プロパティ] をクリックし、[コンピュータ名] に変更するコンピュータ名を入力します。

Q0806: サイト管理サーバやドメイン管理サーバのホスト名を変更する場合、リソースコーディネータで必要な作業を教えてください。

A0806: 運用管理クライアント上でのサイト名/ドメイン名を変更しない場合は、リソースコーディネータでの作業はありません。

Q0807: FC スイッチを交換する場合のリソースコーディネータの手順を教えてください。

A0807: ユーザズガイド ストレージ管理編「8.2.1 ファイバチャネルスイッチ装置の交換」を参照ください。

Q0808: 故障したサーバブレード/サーバのマザーボードを交換したところ、リソースコーディネータからの操作が出来なくなりました。

A0808: サーバブレード/マザーボード交換により、管理対象サーバノードを登録した際に指定された MAC アドレスと実機の MAC アドレスで不一致が発生しています。V13.1 より前の版では、申し訳ありませんが、サーバを削除し、現状の MAC アドレスで登録をやり直してください。V13.1 以降の版は、ユーザズガイド「8.3.6 管理対象サーバノードの交換」を参照してください。

Q0809: AffinityGroup 名を変更した場合、リソースコーディネータで必要な作業はありますか。

A0809: リソースコーディネータで必要な作業はありません。

Q0810: FC カードの交換作業後のリソースコーディネータのアクセスパスの継承を実施した場合に、瞬断等が発生するか教えてください。

A0810: アクセスパスの継承を実施した際に瞬断は発生します。

Q0811: アクセスパスの再定義方法を教えてください。

A0811: ユーザズガイドストレージ管理編に記載されている「6.3.4 アクセスパスの削除」を参照して、アクセスパスを削除してください。その後、「6.3.3 アクセスパスを設定」を参照してアクセスパスを設定してください。

Q0812: サーバの FC カードを交換した後、再度元の FC カードに戻しても使用可能でしょうか。

A0812: アクセスパスの継承を行うことで可能です。アクセスパスの継承の詳細については、ユーザズガイド ストレージ管理編「6.3.5 アクセスパスの継承」を参照ください。また、FC カード交換時のアクセスパスの継承の操作につきましては、「8.3.1 サーバノードの HBA 交換で HBA 状態が『アクセスパス継承必要』時」を参照ください。

Q0813: Management Blade のハード交換を実施します。リソースコーディネータで考慮する点があれば、教えてください。

A0813: Management Blade の交換に関して、リソースコーディネータで行う作業はありません。考慮すべき点もありません。

Q0814: 管理対象サーバノードのサーバノード名の変更(rcxagtctl modify)を実行しました。実行後の hosts ファイルで、コマンド実行で追加されたコメント行と、旧サーバノード名を削除して問題ないですか。

A0814: 旧サーバノード名を削除して問題ありません。コメント行を削除されますと、次回、サーバノード名の変更(rcxagtctl modify)が行われた場合、同じ記載となります。

Q0815: Windows2003 Server に SP2 を適用してもリソースコーディネータに影響はないでしょうか。

A0815: マネージャ、エージェントともに Windows2003 Server の SP2 適用をサポートしています。  
SP2 を適用する事で、ファイアウォール設定が初期化されるため、見直しを行ってください。

Q0816: テープライブラリ装置 (LT130) で、ファイバチャネルカードが故障し交換した場合、リソースコーディネータとして必要な作業はありますか。

A0816: ユーザーズガイド ストレージ管理編の「11.2 手動組み込み装置の故障部品の交換ならびに装置交換時」に記載されています手順が必要です。

Q0817: SAN ブート環境の管理対象サーバノードの内蔵ハードディスクを交換した場合、リソースコーディネータとして必要な作業はありますか。

A0817: リソースコーディネータとして必要な作業はありません。

Q0818: ETERNUS の CM を交換した場合、リソースコーディネータとして設定変更などの作業が必要ですか。

A0818: リソースコーディネータとして、設定変更などの作業は必要ありません。

Q0819: 故障したハードの交換を行い、resethardstat コマンドにてエラーフラグを消した際に以下のメッセージが出力されました。

```
PWSVM:1:PCI#04-ID#16:FJSVmadm::The status of the unit recovered (trap code=34)
```

原因と対応方法を教えてください。

A0819: 交換したハード以外に、以前に発生した Error ステータスが保持されている可能性があります。その場合は、マニュアル「PRIMEPOWER Server Manager ユーザーズガイド」の「4.2.5.6 ホストステータスクリアウィザード」の手順に従って PRIMEPOWER Server Manager の GUI からステータスのクリアを実行してください。

Q0820: 管理対象サーバノードの Linux のシステムボリュームのパーティションサイズを変更します。リソースコーディネータに影響ありますか。

A0820: システムボリュームのパーティションサイズ変更は、リソースコーディネータに影響しません。なお、作業時にはリソースコーディネータのエージェントを停止してください。

Q0821: 運用管理サーバノードで ServerView S2 や ServerView Linux Agent を再インストールする場合、リソースコーディネータに影響ありますか。

A0821: リソースコーディネータに影響しません。なお、作業時にはリソースコーディネータのエージェントを停止してください。

Q0822: 管理対象サーバノードのファイバチャネルカード (HBA) を交換する際の手順を教えてください。



- Q0822: ユーザーズガイド ストレージ管理編の「8.1 障害発生時の画面と対処方法」の手順を参照してください。
- Q0823: リソースコーディネータで設定されたアクセスパスを、その後手動にて変更することは可能でしょうか。
- A0823: リソースコーディネータでアクセスパス設定を行われた環境では、WWN 名をリソースコーディネータで管理しておりますので、その後アクセスパス設定を手動にて変更することはできません。
- Q0824: 性能監視設定を行った後、新規に作成した RAID の情報や Affinity Group の情報を性能監視ウィンドウに反映する手順について教えてください。
- A0824: 装置の構成を変更した場合、ユーザーズガイド ストレージ管理編の「7.2.11 構成情報の更新」を参照し、構成情報の更新作業を行ってください。
- Q0825: 管理対象サーバノード(エージェント)で、LAN ドライバの Update 作業を行う上で、リソースコーディネータで注意点等ありましたら教えてください。
- A0825: サーバプロビジョニングを利用する管理対象サーバノードの保守を行う場合は、管理対象サーバノードを保守モードに移行させてください。保守作業が完了したあとは、保守モードを解除し、運用モードにしてください。
- Q0826: ETERNUS および FC スイッチに対し、ファームのアップグレードを予定しています。適用して問題はありますか。
- A0826: ファームウェアアップグレードに際して、緊急修正適用が必要な場合があります。(FC スイッチのファームが v5.1.1b か v5.3.0d になる場合など緊急修正が必要)  
「富士通 : FUJITSU Japan」(<http://jp.fujitsu.com/>)で公開の適用パッチ対応装置一覧表を参照し、製品バージョン、マネージャの OS とファーム版数のマトリックスから対応するパッチを確認してください。
- Q0827: DHCP の IP アドレス範囲の変更方法を教えてください。
- A0827: DHCP の IP アドレス範囲を変更される場合は、ユーザーズガイド「8.2.4 DHCP の IP アドレス範囲の変更」を参照してください。
- Q0828: DHCP の IP アドレス範囲の拡張を行うために「rcxdmconf modify」コマンドを実行したのですが、ERROR:67225 が出力され拡張できません。原因を教えてください。
- A0828: DHCP サービスで管理する IP アドレス範囲に、管理対象サーバノード以外の機器が含まれている場合にエラーとなります。メッセージ集で ERROR:67225 について確認してください。

Q0829: サーバプール管理 OS に追加でソフトウェアをインストールする方法を教えてください。

A0829: サーバプール管理 OS に追加でソフトウェアをインストールすることはできません。  
再度作成しなおしてください。

Q0830: ストレージテンプレートの縮小方法を教えてください。

A0830: ストレージテンプレートの縮小はできません。

Q0831: リソースコーディネータで自動作成したアクセスパスの設定は変更できますか。

A0831: リソースコーディネータが自動作成したアクセスパスの設定は変更できません。

Q0832: 運用管理サーバ(サイト管理サーバ、ドメイン管理サーバ)のマザーボード交換に伴い、リソース  
コーディネータで必要な作業があるか教えてください。

A0832: リソースコーディネータとしては、必要な作業はありません。

## 9. 詳細情報

---

Q0902: リソースコーディネータで必要としている OS の常駐プロセス (Windows ではサービス) を教えてください。

A0902: 下記を参照してください。

・Linux サイト管理サーバ:

ありません。

・Linux ドメイン管理サーバ:

- nfsd
- rpc.mountd
- rpc.rquotad
- portmap

・Linux エージェント:

- snmpd

・Windows サイト兼ドメイン管理サーバ:

ありません。

・Windows エージェント:

- DHCP Client
- SNMP Service
- SNMP Trap Service
- Telephony (\*1)
- Server Control Service
- RAIDManager のサービス (\*2)

\*1) Windows Server 2003 の管理対象サーバノード上で sysprep.exe を実行する可能性がある場合 (個別設定処理を伴うプロビジョニング処理を行う場合) に必要です。

\*2) RAID 構成の場合のみ必要です。サービス名は RAID の有無や種類によって異なります。  
(Mylex Global Array Manager Server など) RAID 構成の場合は、対象装置の機種名と RAID の種類を明確にした上で RAID マネージャのサービスについてお問合せ願います。

Q0903: リソースコーディネータで起動される OS の常駐プロセス (Windows ではサービス) を教えてください。

A0903: 下記を参照してください。

・Linux サイト管理サーバ:

- /opt/FJSVrcxmr/sys/rcxrespawn
- /opt/FJSVssmgr/jre/bin/java -Dcruiser=daemon
- /opt/FJSVswstt/bin/nwsnmp-trapd

- ・Linux ドメイン管理サーバ:
  - /opt/FJSVscw-tftpsv/sys/scwtftpd
  - /opt/FJSVscw-pxesv/sys/scwpxesvd
  - /opt/FJSVscw-deploysv/sys/scwdepsvd
  - /opt/FJSVrcxdm/sys/rcxdmdstart
  - /opt/FJSVrcxdm/jre/bin/java -Ddaemon=ServerRM
  - /opt/FJSVswstt/bin/nwsnmp-trapd
- ・Linux エージェント:
  - /opt/FJSVssagt/bin/rcxdstart
  - /opt/FJSVrcxat/sys/rcxrespawn
  - /opt/FJSVssagt/jre/bin/java
- ・Windows サイト兼ドメイン管理サーバ:
  - Deployment Service
  - PXE Services
  - SystemWalker MpWksttr
  - Systemwalker Resource Coordinator Domain Manager
  - Systemwalker Resource Coordinator Site Manager
  - TFTP Service
- ・Windows エージェント:
  - Systemwalker Resource Coordinator Agent

Q0904: 適用されているパッチの確認方法を教えてください。

A0904: Solaris 版 (V12, V13.0):

/usr/sbin/showrev コマンドを使用してパッチ適用状況を確認してください。

例) # **showrev -p**

Patch: 914142-01 Obsoletes:Requires:Incompatibles:Packages:FJSVrcxdm

Linux 版 (V12):

/var/adm/patch 配下にパッチ番号のディレクトリが存在するかどうかで適用されているか判定できます。

Linux 版/Windows 版 (V13), Solaris 版 (V13.2 以降):

UpdateSite 対応になっているので、UpdateAdvisor で確認できます。

Q0905: リソースコーディネータが記録するログのディレクトリ, 名前, 最大サイズを教えてください。

A0905: 下記のディレクトリに複数のログファイルが存在します。全て最大サイズが規定されており、無限に大きくなるログは存在しません。書き込む情報は、変更される可能性があるため、参照しないでください。

(1) サイト管理サーバ

- /var/opt/FJSVrcxmr/log
- /var/opt/FJSVrcxmr/log/cli
- /var/opt/FJSVrcxmr/log/systemrm
- /var/opt/FJSVrcxmr/log/serverrm
- /var/opt/FJSVrcxmr/log/softrm
- /var/opt/FJSVssmgr/current
- /var/opt/FJSVtrccb/2.0/log

(2) ドメイン管理サーバ

- /var/opt/FJSVrcxdm/log/systemrm
- /var/opt/FJSVrcxdm/log/serverrm
- /var/opt/FJSVrcxdm/log/softrm
- /var/opt/FJSVrcxdm/log/dmfw
- /var/opt/FJSVrcxdm/log/rds

(3) 管理対象サーバノード

- /var/opt/FJSVrcxat/log/systemrm
- /var/opt/FJSVrcxat/log/softrm
- /var/opt/FJSVrcxat/log/softrm
- /var/opt/FJSVssagt/log

Q0906: 自動リカバリの切替え、切戻し、継続時に出力されるメッセージを教えてください。

A0906: メッセージ表示と、管理対象サーバノード名/筐体名/スロット番号の遷移は下記の通りです。

(1) 自動リカバリ前

下記の場合の例(変化部はイタリック)です。

・サーバグループ

管理対象サーバノード名: *SVR1* 筐体名: *ch01* スロット番号: *1*

・プールグループ

管理対象サーバノード名: *YOB1* 筐体名: *ch02* スロット番号: *3*

(2) 自動リカバリ切替え

<自動リカバリ開始>

FJSVrcx:INFO:21106:*SVR1*:starting automatic server recovery to *YOB1*

<自動リカバリ終了>

FJSVrcx:INFO:21107:*SVR1*:automatic server recovery to *YOB1* completed

・サーバグループ

管理対象サーバノード名: *SVR1.spare* 筐体名: *ch02* スロット番号: *3*

・プールグループ

管理対象サーバノード名: *SVR1.origin* 筐体名: *ch01* スロット番号: *1*

(3) 切戻し

<切戻し開始>

FJSVrcx:INFO:21116:SVR1.spare:starting failback of automatic server recovery to SVR1.origin

<切戻し終了>

FJSVrcx:INFO:21117:SVR1.spare:failback of automatic server recovery to SVR1.origin completed

・サーバグループ

管理対象サーバノード名: *SVR1* 筐体名: *ch01* スロット番号: *1*

・プールグループ

管理対象サーバノード名: *YOB1* 筐体名: *ch02* スロット番号: *3*

(4) 継続

<継続の開始>

FJSVrcx:INFO:21118:changing the server name SVR1 to YOB1 started

<継続の終了>

FJSVrcx:INFO:21119:changing the server name SVR1 to YOB1 completed

・サーバグループ

管理対象サーバノード名: *SVR1* 筐体名: *ch02* スロット番号: *3*

・プールグループ

管理対象サーバノード名: *YOB1* 筐体名: *ch01* スロット番号: *1*

Q0907: サイト管理サーバの syslog に出力されるメッセージについて、教えてください。

A0907: 「Systemwalker Resource Coordinator メッセージ集」を参照してください。

syslog に出力されるメッセージは、「第 1 章 リソースコーディネータで表示するメッセージ」のメッセージ番号の 2 桁目が 1、3、9 のメッセージです。警告/エラーを検知したい場合は、下記のメッセージを検知してください。

- 1.2.2 41XXX 系
- 1.2.4 43XXX 系
- 1.2.7 49XXX 系
- 1.3.1 61XXX 系
- 1.3.3 63XXX 系
- 1.3.8 69XXX 系

また、自動リカバリの開始を検知したい場合は、21106 のメッセージを検知してください。

Q0908: “rcxlogin -save ユーザ名” のコマンドを実行した後に、設定内容を解除する方法を教えてください。

A0908: 下記の手順で rcxlogin コマンドで保存した認証情報を削除することができます。

なお、rcxlogin コマンドで保存した認証情報が 2 つ以上ある場合に、その一部だけを削除することはできません。

#### 0) 事前確認

運用管理サーバにログインし、リソースコーディネータにログインしているプロセスが存在していないことを確認します。

```
# ps -ef | grep rcxlogin | grep -v grep
root      4086 28056  0 11:03 pts/5    00:00:00 /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxlogin manage
ログインしている場合は、RC GUI を終了してください。
```

1) 認証情報を保存したユーザ権限で、運用管理サーバにログインします。

2) 環境変数からログインしたユーザの HOME ディレクトリを確認します。

```
例) # env | grep HOME
```

```
HOME=/root
```

3) ログインしたユーザの HOME ディレクトリへ移動します。

```
例) # cd /root
```

4) HOME ディレクトリ配下に .rcx ディレクトリが存在することを確認します。

```
例) # ls -la | grep .rcx
```

```
drwx-----  2 root root  4096 11月 22 18:37 .rcx
```

5) HOME ディレクトリ/.rcx 配下に存在する .passwd ファイルを削除します。

```
例) # cd .rcx
```

```
# rm .passwd
```

Q0911: 各サーバの起動/停止スクリプトを教えてください。

A0911: 下記のとおりです。

#### 1. Linux 版

##### 1.1 サイト管理サーバ

###### (1) 起動

- rc2.d
  - S88rcxtrapd
  - S99startSCruiser
- rc3.d
  - S88rcxtrapd
  - S99startSCruiser
- rc4.d
  - S88rcxtrapd
  - S99startSCruiser
- rc5.d

- S88rcxtrapd
- S99startSCruiser

## (2) 停止

- rc0.d
  - K14rcxtrapd
  - K00startSCruiser
- rc1.d
  - K14rcxtrapd
  - K00startSCruiser
- rc6.d
  - K14rcxtrapd
  - K00startSCruiser

## 1.2 ドメイン管理サーバ

### (1) 起動

- rc2.d
  - S80scwtftpd
  - S81scwpxesvd
  - S82scwdepsvd
  - S88rcxtrapd
  - S90rcxdm
- rc3.d
  - S80scwtftpd
  - S81scwpxesvd
  - S82scwdepsvd
  - S88rcxtrapd
  - S90rcxdm
- rc4.d
  - S80scwtftpd
  - S81scwpxesvd
  - S82scwdepsvd
  - S88rcxtrapd
  - S90rcxdm
- rc5.d
  - S80scwtftpd
  - S81scwpxesvd
  - S82scwdepsvd



- S88rcxtrapd
- S90rcxdm

## (2) 停止

- rc0.d
  - K19scwtftpd
  - K18scwpxesvd
  - K17scwdepsvd
  - K14rcxtrapd
  - K12rcxdm
- rc1.d
  - K19scwtftpd
  - K18scwpxesvd
  - K17scwdepsvd
  - K14rcxtrapd
  - K12rcxdm
- rc6.d
  - K19scwtftpd
  - K18scwpxesvd
  - K17scwdepsvd
  - K14rcxtrapd
  - K12rcxdm

## 1.3 エージェント

### (1) 起動

- rc2.d
  - S95scwagent
  - S98SCruiserAgent
- rc3.d
  - S95scwagent
  - S98SCruiserAgent
- rc4.d
  - S95scwagent
  - S98SCruiserAgent
- rc5.d
  - S95scwagent
  - S98SCruiserAgent

### (2) 停止

- rc0.d
  - K05scwagent
  - K00SCruiserAgent
- rc1.d
  - K05scwagent
  - K00SCruiserAgent
- rc6.d
  - K05scwagent
  - K00SCruiserAgent

## 2. Solaris 版

### 2.1 サイト

- rc2.d
  - S31netsr
  - S99startSCruiser

- rc3.d
  - なし

### 2.2 ドメイン

- rc2.d
  - S99FJSVrcon
- rc3.d
  - S99rcxdm

### 2.3 エージェント

- rc2.d
  - S80sfdskcl
  - S98SCruiserAgent
  - S20FJSVutdinit
  - S40FJSVutevhand
  - S79FJSVutdgetsvn
  - S99FJSVutdserver
- rc3.d
  - なし

Q0912: 既に構築済みのプール管理 OS の SNMP コミュニティ名の参照方法と変更方法を教えてください。

A0912: 参照方法と変更方法は下記のとおりです。

#### 1. 参照方法

### 1.1 snmpd.conf

/diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/snmp/snmpd.conf

ファイルの例)

```
#####
# First, map the community name "public" into a "security name"
#      sec.name  source      community
com2sec svSec    localhost  xxx ←"xxx"がコミュニティ名
com2sec svSec    localhost  public ←コミュニティ名に関係なく必要
com2sec svSec    default    xxx ←"xxx"がコミュニティ名
#sv#com2sec notConfigUser default    public

# -----
trapsink 127.0.0.1 xxx ←"xxx"がコミュニティ名
trapsink 192.168.0.1 xxx ←"xxx"がコミュニティ名
# -----
```

### 1.2 VersionView.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/srvmagt/VersionView.ini

ファイルの例)

```
:*****
[FileVersion]
FileName=VersionView.ini
VersionNr=3.00.00

[Configuration]
SnmpCommunity = xxx ←"xxx"がコミュニティ名
UpdateRateMinute = 120 ; update polling period

[Component Type]
; Component Type used in Component Info Table
No class = 00
Chassis = 01
<以下省略>
```

### 1.3 Status\_MIB.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/srvmagt/Status\_MIB.ini

このファイルは、存在しない可能性があります。(古いバージョンの ServerView で使用されていたファイルです。)

ファイルの例)

```
<略>
; Global agent configuration settings

[Configuration]
InitialUpdateDelaySeconds = 0 ; delay for first status query
UpdateRateSeconds = 60 ; status polling period
StatusChDir = /etc/srvmagt
StatusChJob = StatusChAction
SnmpCommunity = xxx ←"xxx"がコミュニティ名
```

<略>

#### 1.4 common. ini

/diskless/i386/RHEL3/default/root/var/opt/FJSVhrm/config/common. ini

このファイルは、存在しない可能性があります。(V13.2以降では、HRMが必須のため、必ず存在します。)

ファイルの例)

<略>

```
-----  
; SNMP  
-----  
[SNMP]  
SV_COMMUNITY=xxx ←"xxx"がコミュニティ名  
MB_COMMUNITY=xxx ←"xxx"がコミュニティ名  
timeout=30  
retry=5
```

#### 2. 変更する手順

- 1) サーバプール管理 OS で動作しているサーバを停止します。
- 2) ドメイン管理サーバでコミュニティ名を変更します。

vi 等でコミュニティ名を変更してください。

※変更内容などは、「1. 参照方法」を参照してください。

ServerView および HRM の定義ファイルは、個数が多いので、注意願います。

- ・ snmpd の定義ファイル:

/diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/snmp/snmpd.conf

- ・ ServerView の定義ファイル:

/diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/srvmagt/VersionView.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/master/etc/srvmagt/VersionView.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/*IP アドレス*/etc/srvmagt/VersionView.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/srvmagt/Status\_MIB.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/master/etc/srvmagt/Status\_MIB.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/*IP アドレス*/etc/srvmagt/Status\_MIB.ini

- ・ HRM の定義ファイル:

/diskless/i386/RHEL3/default/root/var/opt/FJSVhrm/config/common.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/master/var/opt/FJSVhrm/config/common.ini

/diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/*IP アドレス*/var/opt/FJSVhrm/config/common.ini

- ※注意
- ・ *IP アドレス*は、管理対象サーバノードの IP アドレスになります。
  - ・ Status\_MIB.ini および common.ini ファイルは、存在する場合は修正してください。(存在しない場合は修正不要です。)
  - ・ 全ての管理対象サーバノードの<IP アドレス>配下の VersionView.ini/Status\_MIB.ini および common.ini を修正してください。

3) 1)で停止したサーバを起動します。

Q0913: サーバプール管理 OS で、システムクロックに UTC を使用する設定に変更する方法を教えてください。

A0913: 下記の手順を実施してください。

1) 自動リカバリを設定しているサーバグループがある場合は、一旦解除します。

自動リカバリの解除手順については、ユーザズガイドの“5.3.2.4 自動リカバリの解除”を参照してください。

2) サーバプール管理 OS で起動している管理対象サーバノードがある場合は、全て停止します。

例) サーバプール管理 OS で起動しているサーバに root でログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# shutdown -h now
```

3) ドメイン管理サーバで、以下の場所にある clock ファイルを編集します。

```
/diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/sysconfig/clock
```

例) # vi /diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/sysconfig/clock

編集前

```
ZONE="Asia/Tokyo"
```

```
UTC=false
```

```
ARC=false
```

編集後

```
ZONE="Asia/Tokyo"
```

```
UTC=true
```

```
ARC=false
```

clock ファイルの詳細については、RHEL のドキュメントなどを参照してください。

4) 手順 2)で停止した管理対象サーバノードを起動します。

可能であれば、管理対象サーバノードにログインし、/etc/sysconfig/clock ファイルの内容が手順 3)で編集した内容に更新されていることを確認してください。

5) 必要に応じて管理対象サーバノード上で以下のコマンドを実行し、時間を合わせます。

全ての管理対象サーバノード上で実行してください。

例) ハードウェアクロックをシステムクロックに設定する場合

```
# hwclock --hctosys
```

システムクロックをハードウェアクロックに設定する場合

```
# hwclock --systohc
```

hwclock コマンドの詳細については、RHEL のドキュメントなどを参照してください。

6) 手順 1)で解除したサーバグループの自動リカバリを“5.3.2.1 自動リカバリの設定”を参照して設定してください。

Q0914: バックアップイメージをテープに待避する運用はできますか。

A0914: 下記の方法で運用することができます。

・イメージ待避方法

1) サイトマネージャ、ドメインマネージャ、デプロイエンジンのデーモンを停止します。

例) サイト管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl stop
```

ドメイン管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# /opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxdmctl stop
```

```
# /etc/init.d/scwdepsvd stop
```

```
# /etc/init.d/scwpxesvd stop
```

```
# /etc/init.d/scwtftpd stop
```

2) ドメイン管理サーバで、イメージ格納域

(/var/opt/FJSVscw-deploysv/depot/CLONEIMG)にあるイメージをテープに待避します。

例) ドメイン管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# cd /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot/CLONEIMG
```

```
# tar cvf /dev/rmt/0 image
```

*image*: バックアップイメージ格納ディレクトリ。

ディレクトリ名は以下の通り。

管理対象サーバノード名@管理情報@管理情報@管理情報@管理情報@バックアップイメージの版数

3) 手順 1) で停止したマネージャ、デーモンを起動します。

例) ドメイン管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# /etc/init.d/scwtftpd start
```

```
# /etc/init.d/scwpxesvd start
```

```
# /etc/init.d/scwdepsvd start
```

```
# /opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxdmctl start
```

サイト管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl start
```

・イメージ復元方法

1) サイトマネージャ、ドメインマネージャ、デプロイエンジンのデーモンを停止します。

例) サイト管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl stop
```

ドメイン管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# /opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxdmctl stop
```

```
# /etc/init.d/scwdepsvd stop
```

```
# /etc/init.d/scwpxesvd stop
```

```
# /etc/init.d/scwtftpd stop
```

- 2) 不要なイメージがある場合は、ドメイン管理サーバ上のイメージ格納域 (/var/opt/FJSVscw-deploysv/depot/CLONEIMG) から削除します。

```
例) # rm -rf /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot/CLONEIMG/ image
```

*image*: バックアップイメージ格納ディレクトリ。

ディレクトリ名は以下の通り。

管理対象サーバノード名@管理情報@管理情報@管理情報@管理情報@バックアップイメージの版数

- 3) ドメイン管理サーバ上で、イメージをイメージ格納域 (/var/opt/FJSVscw-deploysv/depot/CLONEIMG) に復元します。

```
例) # cd /var/opt/FJSVscw-deploysv/depot/CLONEIMG
```

```
# tar xvf /dev/rmt/0 image
```

- 4) 手順 1) で停止したマネージャ、デーモンを起動します。

例) ドメイン管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# /etc/init.d/scwtftpd start
```

```
# /etc/init.d/scwpxesvd start
```

```
# /etc/init.d/scwdepsvd start
```

```
# /opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxdmctl start
```

サイト管理サーバに root でログインし、以下のコマンドを実行。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl start
```

#### 【注意】

- ・復元したイメージを使用してバックアップイメージの配付を行う手順については、ユーザーズガイドの「7.2.3.4 複数世代のバックアップイメージの管理」を参照してください。
- ・イメージ管理世代数を超えてイメージを配置した場合、次回のイメージ作成時に、イメージ数がイメージ管理世代数以内となるように古い世代のイメージから順に削除されます。イメージ管理世代数の変更方法については、ユーザーズガイドの「7.2.4.1 イメージ管理世代数の変更」を参照してください。

Q0915: リソースコーディネータで SAN boot 構成のサーバ環境を作成した際、ストレージ機器にどのような設定が自動で行われるのか教えてください。

A0915: 下記の設定を自動で実施し、アクセスパスを設定します。詳細は、「6.3 アクセスパス管理」を参照してください。

- 管理対象サーバノードにストレージアフィニティを設定します。
- ファイバチャネルスイッチにゾーニングを設定します。(A0148)
- ストレージにホストアフィニティを設定します。(A0151)

- アフィニティグループを追加
  - アフィニティグループに LogicalVolume を追加
- ※使用する CA ポートは指定できません (A1018)



## 10. その他

---

Q1001: サーバノードの削除を実施した際、エラーが発生します。

A1001: DNS の設定が正しくされているか確認してください。DNS の設定に誤りがある場合、リソースコーディネータが発行している `exportfs` コマンドに時間が掛かり、処理がタイムアウトすることがあります。

Q1002: ネットワーク監視の設定方法について教えてください。

A1002: Linux 版の場合は、Linux 用のインストールガイド「6.1.4.5 ネットワーク監視の設定」を、Solaris 版の場合は、Solaris 用のインストールガイド「6.4.5 ネットワーク監視の設定」を参照してください。

Q1003: 管理対象サーバノードの OS 起動時に管理 LAN と業務 LAN が活性化される優先順位を変更した場合、リソースコーディネータの動作に影響があるか教えてください。

A1003: 影響ありません。

Q1004: リソースコーディネータがインストールされているサーバで `syslogd -r` を使用しログ設定サーバとした場合、影響があるか教えてください

A1004: サイト管理サーバ、ドメイン管理サーバに関しては影響ありません。管理対象サーバノードの場合のみ、他のサーバで起きたエラーを管理対象サーバノードのエラーと認識してしまい、運用管理クライアント画面でエラーメッセージとして表示されます。

Q1005: OS 起動時にリソースコーディネータのデーモンが起動したことを `/var/log/messages` から確認することは可能でしょうか。

A1005: 可能です。各サーバの `/var/log/messages` に以下のように記述されます。

例)

- ・サイトマネージャ

日時 ホスト名 rcx: FJSVrcx:INFO:21115:site manager started

- ・ドメインマネージャ

日時 ホスト名 rcx: FJSVrcx:INFO:29301:ServerRM daemon started.

- ・エージェント

日時 ホスト名 SSC: FJSVssagt:INFO:10001:SSC Agent started.

Q1006: リソースコーディネータのデーモンの停止方法を教えてください。

A1006: ・サイト管理サーバ

- サイトマネージャ

```

# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl stop
- SNMP トラップデーモン
# /opt/FJSVswstt/bin/mpnm-trapd stop
・ドメイン管理サーバ
- ドメインマネージャ
# /opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxdmctl stop
- SNMP トラップデーモン
# /opt/FJSVswstt/bin/mpnm-trapd stop
- ScW デーモン
# /etc/init.d/scwdepsvd stop
# /etc/init.d/scwpxesvd stop
# /etc/init.d/scwtftpd stop
・エージェント
- ネットワーク監視
# /opt/FJSVnetsr/sbin/rcxnetmon set inactive
- リソースコーディネータデーモン
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl stop

```

Q1007: Solaris 版のリソースコーディネータで、クラスタシステムのクラスタサービスとして laddress リソースを定義できますが、Gls リソースを定義することはサポートされているのか教えてください。

A1007: クラスタシステムのクラスタサービスとして Gls リソースを定義することはサポートされておりません。

Q1008: リソースコーディネータで使用している 162 番ポートを他の Systemwalker 製品と混在させて利用する事は可能でしょうか。

A1008: 「ServerView トラップ転送プログラム」を利用して、下記の製品と混在させることは可能です。

- ・ ServerView アラームサービス
- ・ Systemwalker Centric Manager
- ・ Systemwalker Network Manager

Q1009: サイト管理サーバ、あるいはドメイン管理サーバにおいて、バックアップ時と現状のサーバ/SAN の構成が異なる場合、リストアすることは可能でしょうか。

A1009: バックアップ時と現状の状態が異なる場合、リストアすることができません。状態が変わった時点で再度バックアップをとっていただくか、自動リカバリが発生した場合であれば切り戻しを行ってください。

Q1010: リソースコーディネータは DNS、hosts を参照し通信を行いますか？

A1010: リソースコーディネータの管理 LAN に関しては、hosts、DNS による名前解決を使用して通信は行っていません。

Q1011: 「ユーザズガイド」の「付録 E ポート一覧」を参照したところ、「サイト管理サーバ」の表のポート一覧は、「ファイアウォール 1」および、「ファイアウォール 2」の表では許可されていません。この設定ではサイト管理サーバ向きの通信、運用管理クライアント向きの通信が出来ないように思えますが、理由を教えてください。

A1011: リソースコーディネータはセキュリティを考慮し、以下のネットワーク内の接続方向を一方向（流れる通信データは両方向）にしています。

- ・ 運用管理クライアント → サイト管理サーバ
- ・ サイト管理サーバ → ドメイン管理サーバ

また、nfdomain と nfaagent のポートに対して通信を行う場合、ドメイン管理サーバ内に配置されるポート集約デーモン (RDS) により、ファイアウォール 2 で設定するポートを削減して通信することができます。

Q1012: 運用管理クライアントが、直接ドメイン管理サーバやエージェントと通信することがありますか。

A1012: 通常の処理で、運用管理クライアントが、直接ドメイン管理サーバやエージェントと通信することはありません。ただし、管理対象サーバノードが PRIMERGY の場合、運用管理クライアントで、「機種固有ハードウェア管理機能呼び出し」を選択した場合、Web ブラウザが起動し、ドメイン管理サーバの WebExtension あるいは ServerView S2 にアクセスします。

Q1013: ストレージボリューム割当て後のサーバで、割当て済みのボリュームサイズを事後拡張したい場合、どうすれば良いですか。

例) VOL1:20GB, VOL2:30GB のサーバを、VOL1:20GB, VOL2:50GB のようにしたい

A1013: 下記の手順で拡張してください。

- 1) 既存サーバグループの最新マスタイメージを採取する。
- 2) データディスク分についてテープ等にバックアップを取る。
- 3) 新しいサーバグループを作成する。
- 4) 既存サーバグループのマスタイメージを新しいサーバグループに複写する。
- 5) 既存のサーバグループからサーバを削除後、既存のサーバグループを削除する。
- 6) 新しいサーバグループにサーバを追加する。
- 7) サーバ追加時にマスタイメージがコピーされる。
- 8) データディスク分のバックアップをリストアする。

Q1014: ストレージボリューム割当て後のサーバで、新規ボリュームを事後追加したい場合、どうすれば良いですか。

例) VOL1:20GB, VOL2:30GB のサーバを、VOL1:20GB, VOL2:30GB, VOL3:30GB のようにしたい

A1014: V13.1 以降の版では、ストレージテンプレート設定が変更できます。ユーザーズガイド「8.9.4 ストレージテンプレート設定の変更」を参照してください。

V13.0 以前の版で実施する場合には、以下の手順となります。

- 1) 既存サーバグループの最新マスタイメージを採取する。
- 2) データディスク分についてテープ等にバックアップを取る。
- 3) 新しいサーバグループを作成する。その際、ストレージテンプレートを増設分のディスクも追加して作成する。
- 4) 既存サーバグループのマスタイメージを新しいサーバグループに複写する。
- 5) 既存のサーバグループからサーバを削除後、既存のサーバグループを削除する。
- 6) 新しいサーバグループにサーバを追加する。
- 7) サーバ追加時にマスタイメージがコピーされる。
- 8) データディスク分のバックアップをリストアする。

Q1015: クライアント PC で管理クライアントを起動する際に、ログオン画面で IP アドレスを指定したところ、全ての作業において非常に時間がかかる現象が発生しました。

A1015: インストールガイド「5.3.2 サイトマネージャと通信するための設定」に沿って

“%SystemRoot%\system32\drivers\etc\hosts”ファイル内に、サイトマネージャのエントリが追加されていないかつ、DNS によるサイトマネージャの名前解決ができない場合は、Java 標準 API によるネットワーク通信に時間がかかり、すべての処理に遅延が発生します。

Q1016: ブレードサーバ(Linux)に対し、自動切換え操作を行なったところ、予備機にパスが切り替わり、LinuxOS の起動時に Kudzu が起動されました。原因を教えてください。

A1016: サーバ切換えによってサーバが切り替わった際に kudzu が動作する原因は、kudzu が以前に実装されていたハードウェアを記憶しており、サーバハードが切り替わった際に、以前のハードが削除され、新しいハードが追加されたように認識するためです。

サーバ切戻しによってサーバが切り替わった際には、kudzu は動作しません。

Q1017: マスタイメージ、およびバックアップイメージを配付したときの使用するボリューム(LUN\_V)に対して、どのような操作の場合フォーマットされるのか教えてください。

A1017: サーバグループへサーバ追加した場合のマスタイメージ配付時のみ、フォーマット(システムボリューム, データボリュームの両方)されます。

Q1018: ETERNUS のポートのうち、いくつかのポートを将来用として残すため、今回の構築では使用しな

いようにしたいと考えています。ポートに関してはリソースコーディネータが自動的に負荷分散しますが、使用するポートを特定する方法を教えてください。

A1018: リソースコーディネータで使用するポートを特定することはできません。リソースコーディネータのプロビジョニングにおける、CA ポートの選択では、複数の CA ポートが対象候補になる場合、異なる担当 CM や該当 CA に割り当てられている WWN の少ないものを選択する処理になっています。

Q1019: 複数環境混在でブレードの管理を実施するため、1つのマネージメントブレードが、複数のマネージャからの制御を受け付けることができますか。

A1019: 1つのマネージメントブレードで、複数のマネージャからの制御を受け付けることはできません。

Q1020: リソースコーディネータの Centric Manager 連携の対象となるメッセージについて教えてください。

A1020: 特定のメッセージはありません。リソースコーディネータが出力するメッセージを監視するために、Centric のイベント監視の条件定義で、監視対象、および監視対象外とするメッセージの設定を行います。設定方法については、「Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編」を参照してください。

Q1021: イベント通報機能のトラップ通報設定にて、通報先とコミュニティ名を設定しテスト通報を行ったところ、一秒おきにテストのログが記録され、停止しませんでした。

A1021: トラップ通報機能は、運用管理サーバから他の SNMP マネージャに Trap を通報する機能のため、運用管理サーバノード自身には設定しないでください。(トラップが永久ループします)

Q1022: インストールガイド「3.1 リソースコーディネータの制限事項」に記載されている、以下の制限について、USB の装置を接続した場合の影響を教えてください。

項番: 1 制限事項: Linux の管理対象サーバノードでは、運用モードでの USB 接続の外部記憶装置 (フロッピーディスク装置など) を使用できません。対処方法: ありません。

A1022: RHEL V3.0 Update3 より前を利用していた場合、OS の障害により、業務サーバを連続運用した場合、エージェント処理がハングし、ホスト状態が unknown (Timeout) になることがあります。RHEL V3.0 Update3 以降の版では、問題は発生しません。

Q1023: 保守モードを解除した際に、下記のエラーメッセージが出力されます。原因を教えてください。  
FJSVrcx:ERROR:67248:rcxserver:failed to control the load balancer

A1023: 使用するロードバランサへの操作中に異常が発生しました。メッセージ集の“67248”の対処に記載されている確認を行ってください。

Q1024: 管理対象サーバノードをサーバグループから削除する際にかかる時間を教えてください。

A1024: サーバノードをサーバグループからサーバプールに移動する際、主に次の処理が行われます。

| <u>処理</u>        | <u>所要時間の目安</u> |
|------------------|----------------|
| a) サーバノード再起動     | 7~8分           |
| b) ネットワークなどの設定作業 | 1~2分           |

全体の所要時間の目安は、次の計算式で導くことができます。

$$\text{所要時間} = a + (b \times \text{ノード数})$$

上記の式(値)はあくまで目安であり、そのときのシステムの状態などによっては、もっと時間がかかる場合があります。

Q1025: 切戻し操作は管理サーバ不在でも可能なのでしょうか。

A1025: 切戻し操作も管理サーバが制御しているため、管理サーバが動作している状態で行う必要があります。

Q1026: RAIDGroup ビジー率は、どのように算出しているのですか。ユーザーズガイド ストレージ管理編 「7.4 閾値監視における各閾値の評価基準」の記載では、わかりませんでした。

A1026: RAIDGroup ビジー率は、構成に関らず、RAIDGroup を構成する Disk の使用率の平均値を元に算出しています。申し訳ありませんが詳細については、内部情報のため公開できません。

Q1027: GLS のマニュアルの各 NIC 設定例 (/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-ethX) で、  
"HWADDR=<MAC アドレス>"の行が必須のように見えます。

RC を使用する場合にも"HWADDR=<MAC アドレス>"の行は必要でしょうか。

A1027: "HWADDR=<MAC アドレス>"の設定は、ネットワーク系デバイスのデバイス名ずれ抑止のための設定になりますが、リソースコーディネータでは自動リカバリを動作させるため、本設定を行わないようお願いいたします。

Q1028: イメージ配布先で kudzu サービスが動作するのですが、どうしてでしょうか。

A1028: イメージ内の/etc/sysconfig/hwconf も配布するため、マスタイメージを採取したサーバ以外のイメージを配布されたサーバでは、実際に使用している NIC 情報と hwconf に記載の情報に不一致が発生し、kudzu サービスが動作します。kudzu サービスが動作することは、問題ありません。

Q1029: FSUNod パッケージはどのような場合に使用されますか。

A1029: Interstage Application Server Smart Repository を使用して運用が行なわれている場合に使用されます。

Q1030: Symfoware の DB を使用していますか。

A1030: Symfoware を監視する設定が行なわれている場合は、データベースにアクセスして監視します。

Q1031: ストレージの性能を監視する方法を教えてください。

A1031: ユーザーズガイド ストレージ管理編「第7章 運用(ストレージ性能編)」を参照してください。

Q1032: 管理対象サーバノードの削除時、下記のエラーメッセージが出力されました。  
原因と対処方法を教えてください。

FJSVrcx:ERROR:67230:command:error occurred on the domain admin server

A1032: 下記の可能性があります。

- ・管理装置(MB)のSNMPのコミュニティ名にWRITE権が無い可能性があります。その場合は、WRITE権を設定してください。
- ・ドメイン管理サーバのScWのデーモンが停止している可能性があります。その場合は、ScWのデーモンを起動してください。

Q1033: サイトマネージャが起動しません。原因と対処方法を教えてください。

A1033: AlarmService をインストールしていないか確認してください。

AlarmService を使用する場合は、ServerView トラップ転送プログラムをインストール/設定してください。転送プログラムを使用しない場合、AlarmService とリソースコーディネータのSNMPtrap 受信プログラムが競合し、サイトマネージャの起動に失敗します。

Q1034: リソースコーディネータのエージェントを導入したLinuxサーバで、イメージ操作モジュールのサービス(SystemcastWizard Client Agent)が停止しています。

原因と対処方法を教えてください。

A1034: eth0 が存在しているか確認してください。eth0 が存在しない場合、SystemcastWizard エージェントがNICの検出処理を開始できません。現行のSystemcastWizard エージェントの仕様で、ethXの確認を行う際、Xが0から始まる連番(X=0, 1, 2, ..., 9)であることを前提としているため、eth0が存在しない場合や途中の番号が欠落している場合(eth0, eth2はあるが、eth1が存在しない場合など)、NICの検出を正しく行うことができません。

Q1035: ETERNUS SF Advanced Copy Manager を使用する場合に、リソースコーディネータでの注意事項を教えてください。

A1035: ETERNUS SF Advanced Copy Manager を使用する場合は、コピー先ボリュームがプロビジョニング操作によってサーバに割り当てられないようにしてください。

Q1036: リソースコーディネータの性能管理機能の閾値監視の設定を教えてください。

A1036: 性能管理機能の閾値監視の設定は、「ユーザーズガイド ストレージ管理編」の「7.3.4 閾値設定情報の設定」を参照してください。

Q1037: バッチなどを使用してバックアップの自動化を考えています。GUI から実行した際に、どのようなコマンドが実行されるのか教えてください。

A1037: コマンドライン I/F (CLI) は、コマンドリファレンスに記載されています。バックアップに関しては、「5.4 rcximage」を参照ください。

Q1038: エージェントが PCL の保守モードの状態、以下のメッセージが出力されます。原因と対処方法を教えてください。

```
FJSVrcx:WARNING:41304: app3:status is changed to warning
```

A1038: PCL 上で Maintenance 状態のものは、リソースコーディネータ上では、unknown となります。Maintenance 状態のサービスは、リソースの状態 (活性/非活性/故障など) の変化に伴う状態変化やフェイルオーバーが行われなため、サービスとして正しく動作しているかどうか判断できません。リソースコーディネータでも同様にサービスの状態を判断できないため、warning となります。

Q1039: 運用クライアントからログインしようとしてますが、「認証処理中です」と出力されたままログインできません。対応方法を教えてください。

A1039: サイト管理サーバに AlarmService をインストールしていないか確認してください。

AlarmService を使用する場合には、ServerView トラップ転送プログラムをインストール/設定してください。転送プログラムを使用しない場合、AlarmService とリソースコーディネータの SNMPtrap 受信プログラムが競合し、サイトマネージャの起動に失敗し、ログイン処理が動作しません。

Q1040: 閾値監視の「RAIDGroup 負荷異常」の監視対象は、どのディスクになりますか。

A1040: 閾値監視の「RAIDGroup 負荷異常」の監視対象は、各 RAIDGroup を構成する全てのディスクに対するディスク使用率の平均値を該当 RAIDGroup の使用率とし、設定した閾値を超えていないか監視します。

Q1041: 性能管理ウィンドウを起動すると“swsag0654”のメッセージが出力されます。また、ストレージ装置の性能情報を確認すると“swsag0609”のメッセージが出力され性能情報が出力されません。原因と対処方法を教えてください。

A1041: 運用管理サーバと運用クライアントに緊急修正の適用が必要な障害で、運用管理サーバにのみ緊急修正を適用しているためメッセージが出力されているのではないかと考えられます。確認し、必要な場合は、運用クライアントに緊急修正を適用してください。

Q1042: ドメイン管理サーバに下記のようなディレクトリが作成されます。



/diskless/backup

/diskless/scwbackup

上記のフォルダの用途を教えてください。また、これらは削除して問題無いのか教えてください。

A1042: 本ディレクトリは、ドメイン管理サーバをクラスタ環境にした際のバックアップファイルを配置しています。本ディレクトリを削除した場合、クラスタ環境を削除することができなくなります。そのため、きれいにリソースコーディネータのパッケージを削除することができなくなる場合があります。

Q1043: Active Directory (AD) 環境のサーバノードは、サーバプロビジョニングに対応していますか？

A1043: Active Directory (AD) のメンバーサーバのみ対象としています。

ドメインコントローラーは、マスタイメージ配布, リストアした場合に他のサーバとの時差により、認証関係が崩れてしまうためサポートしていません。

メンバーサーバの場合は、マスタイメージの採取, バックアップを行う前に一旦 AD から抜けて、作業完了後、AD に再参加してください。また、マスタイメージの配布, リストア後、当該サーバで AD に再参加してください。お客様がドメインへ再参加することで認証関係を結び直すことができます。

Q1044: 管理対象サーバノードの hosts ファイルに リソースコーディネータが登録した記述があります。内容を変更したいのですが、動作上問題ないでしょうか。

A1044: V13 の場合は、変更/削除しても動作に問題はありません。V12 の場合は変更/削除しないでください。

Q1045: エージェントインストール時に設定した内容を確認する方法を教えてください。

A1045: A0506 の 5. の手順で確認できます。

Q1046: 運用管理画面にて、以下のメッセージが不定期に出力されます。原因と対処方法を教えてください。[FJSVrcx:WARNING:41105:failed to get the server information from *SERVER*]

A1046: 管理対象サーバノードが PRIMEQUEST の場合、リソースコーディネータの障害の可能性がります。管理対象サーバノードが PRIMEQUEST であり、複数のパーティションをサーバ登録している場合に不要なメッセージが出力される障害です。警告メッセージが出力されますが機能に影響はありません。無視していただくか、パッチを請求ください。

Q1047: rcxserver コマンドの“-volume”オプションを使ってボリュームを指定する場合、記述する順序に留意する必要がありますか。

A1047: ストレージテンプレートの拡張を実施した際に指定したディスクの指定順に“-volume”オプションを設定してください。

Q1048: ブレードサーバが片パスでしか参照することができません。原因と対処方法を教えてください。

A1048: 構築時に/opt/FJSVssagt/bin/sscsetmp を実施したか確認してください。実施していなかった場合は、/opt/FJSVssagt/bin/sscsetmp を実施し、管理対象サーバノードと管理対象ストレージノード間のアクセスパス定義をマルチパスに変更してください。

Q1049: SNIA HBA API ライブラリの入手方法を教えてください。

A1049: インストールガイドの「まえがき」に記載されている Systemwalker 技術情報ホームページにある「SNIA HBA API ライブラリ インストール手順」に記載されております。

Q1050: VMware Infrastructure 3 環境に必要な RHEL ESV3U6 に対応した SNIA HBA API ライブラリ (BX620S4 用)の入手方法を教えてください。

A1050: HBA ベンダ (Emulex 社) のダウンロードサイトから SNIA HBA API ライブラリを入手してください。

Q1051: マスタイメージの配信により構築した Linux サーバで、ETERNUS マルチパスドライバのコマンド「iompadm info」を実行すると不要な情報が表示されますが、「mpdconfig -d」コマンドで不要な情報を消しても問題ないか教えてください。

A1051: マスタイメージの作成元の構成定義情報が残っているため、不要な情報が出力されます。「mpdconfig -d」コマンドで不要な情報を消して問題はありません。

Q1052: 「アクセスパスの継承」後、ストレージ装置に旧 FC カードの WWN 設定が削除されずに残っています。

A1052: Solaris 版 V12.1 と Linux 版 V12L20 の場合は、既存障害 (PG43729) が発生している可能性があります。下記の緊急修正が適用されていない場合は、適用を検討してください。

- Solaris 版 V12.1: 914144-02 以降
- Linux 版 V12L20: T00774-01 以降

Q1053: rcxhardlog コマンドを実行すると、“FJSVrcx:ERROR:67154:command:obj:not found”というメッセージが出力されます。原因と対処を教えてください。

A1053: 指定したエージェントと通信ができない可能性があります。下記の確認を実施してください。

- ・当該サーバノードへ通信可能か。

ping で通信可能か確認 (結線、NIC の状態、タグ付き VLAN の設定、FW の設定などを確認)

- ・当該サーバノードでリソースコーディネータのエージェントは動作しているか。

Linux: `ps -ef | grep FJSVssagt` で確認

Windows: “管理ツール”-“サービス”-“Systemwalker Resource Coordinator Agent”の状態を確認

Q1054: ユーザーズガイド ストレージ管理編の“7.2.2 性能管理指示” 性能監視設定画面の入力項目（最小 LUN\_V、最大 LUN\_V）に設定する値について教えてください。

A1054: 装置の仕様により装置より 64LUN 単位に性能情報を取得するため、装置に実装する LUN 数が 64 未満の場合でも 64LUN の情報を取得しファイルに保存しています。装置に存在しない LUN に対する性能値は、0(ゼロ)データとなります。

Q1055: CentricMGR に aplSANMgr のメッセージが出力されています。メッセージ自体は INFO レベルであるが、SNMP トラップで通知時には ERROR レベルで通知されています。正しいエラーレベルで通知される方法を教えてください。

A1055: Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバとリソースコーディネータのサイト管理サーバが同一サーバの場合、下記の設定が行われているか確認してください。

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編」

→ 「10.2.4.2 Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバと本製品の運用管理サーバが同一サーバの場合の対処」

→ 「●本製品で管理している装置の SNMP Trap の Systemwalker Centric Manager 側の受け取りを抑止する方法」

Q1056: 閾値監視を行っている環境で、下記の警告メッセージが出力されました。

[reportID=三桁の数字 / Logical olume Response time abnormal]

メッセージの意味と出力理由を教えてください。

A1056: LogicalVolume のレスポンスタイム異常を意味しています。イベントメッセージ内に示される Report-ID を性能管理ウィンドウのメニューバーの『閾値監視』の「閾値監視アラームログ」から選択して、それぞれの監視場所に対応した詳細内容および対応方法を確認してください。

Q1057: SN200 をファームアップし、緊急修正 T000296LP-04 を適用してクライアントの画面を起動したところ、アクセスパスが異常になりました。原因を教えてください。

A1057: クライアントの緊急修正 T000275WP-03 を適用しているか確認してください。適用していない場合は適用し、最新の情報に更新 (F5) してください。